横浜市芸術文化教育プログラム推進事業

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム
平成24年度事業報告書

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

（ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局）

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
平成２４年度事業報告書　目次

【横浜市芸術文化教育プラットフォームとは】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・05

平成２４年度事業報告　概要	06
横浜市芸術文化教育プラットフォーム　学校プログラム 連携のしくみ	07
これまでの学校プログラムの取組み	08
学校プログラム アンケート結果　児童・生徒向けアンケートから	09
学校プログラム アンケート結果　教員向けアンケートから	10

【学校プログラムの個別報告】・・・15

音楽

神奈川小学校＋子どもに音楽を	ヴァイオリン・ピアノ体験	17
神橋小学校＋みなとみらいホール	歌のプレゼント（１）	18
子安小学校＋かなっくホール	ゴスペルを歌おう	19
西寺尾第二小学校＋オフィスマキナ	ジャズのアドリブを体感	20
南神大寺小学校＋かなっくホール	体でリズムを刻もう！	21
浅間台小学校＋横浜シティオペラ	オペラへの好奇心（１）	22
西富岡小学校＋神奈川県立音楽堂	打楽器を楽しむ	23
能見台南小学校＋みなとみらいホール	歌のプレゼント（２）	24
城郷小学校＋子どもに音楽を	ヴァイオリン・ピアノを楽しむ	25
東戸塚小学校＋横浜市芸術文化振興財団	ゴスペルの体験（１）	26
俣野小学校＋アートの時間	熱帯バリ島の不思議な音楽“ガムラン”	27
永谷小学校＋吉野町市民プラザ	「展覧会の絵」によるみんなの展覧会	28
日限山小学校＋オフィスマキナ	みんなが持っている楽器「声」	29
白根小学校＋サンハート	ボディーパーカッションでリズムを楽しもう	30
十日市場小学校＋横浜シティオペラ	オペラへの好奇心（２）	31
山下小学校＋みなとみらいホール	弦楽器の響きを味わう	32
桂台小学校＋横浜市芸術文化振興財団	ゴスペルの体験（２）	33
上郷小学校＋子どもに音楽を	チェロとピアノの音色を楽しむ	34
小山台小学校＋リリス	歌を楽しもう！	35
千秀小学校＋横浜シティオペラ	オペラへの好奇心（３）	36
豊田小学校＋横浜こどものひろば	ラテン音楽を楽しもう	37
東中田小学校＋テアトルフォンテ	うごいて、たたいて、つたえよう！~ボディーパーカッション~	38
美しが丘小学校＋よこはま音楽広場実行委員会	即興音楽を楽しむ	39
鴨志田第一小学校＋フィリアホール	声楽家との交流～歌を楽しむ～	40
川和小学校＋Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ	サンバのリズムを楽しもう	41
東俣野特別支援学校＋ＳＴスポット横浜	全体を感じる時間	42
本郷特別支援学校＋リリス	管楽器を楽しむ	43

演劇

青木小学校＋急な坂スタジオ	街とわたしをめぐる生活	45
神大寺小学校＋Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ	身体でおしゃべり!!パントマイムで学ぶコミュニケーション力!!	46
坂本小学校＋Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ	パペットをつくる、演じる（１）	47
屏風浦小学校＋杉田劇場	心をひらこう	48
下田小学校＋Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ	パペットをつくる、演じる（２）	49
平戸台小学校＋ＳＴスポット横浜	むかしむかしのものがたり	50
深谷小学校＋アートの時間	身体で表現！「モチモチの木」	51
港南台第一小学校＋横浜こどものひろば	椋鳩十「大造じいさんとガン」「わらぐつの中の神様」「百年後の村を守る」の劇づくり	52
鴨居小学校＋横浜こどものひろば	表現あそび －楽しんで自分たちを表現する－	53
浦舟特別支援学校＋ＳＴスポット横浜	話して、作って、やってみる	54★

（★については、複合分野での実施）

ダンス

山王台小学校＋杉田劇場	ステップアップスクール	56
小雀小学校＋ＳＴスポット横浜	生き物の 10 年を踊ってみる	57
相武山小学校＋吉野町市民プラザ	身体で表現してみよう！	58
永野小学校＋吉野町市民プラザ	校歌でダンス！	59
野庭すずかけ小学校＋急な坂スタジオ	体で奏でる音とダンス	60
日下小学校＋芸術家と子どもたち	人や場所と関わっておどる	61
竹山小学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館	ダンスを作ってみよう！	62
中和田南小学校＋アートの時間	心がおどる即興ダンス	63
泉が丘中学校＋テアトルフォンテ	カラダをうごかすことからはじめてみよう	64
盲特別支援学校＋ＳＴスポット横浜	ただようダンス、とけこむ音楽	65★
二つ橋高等特別支援学校＋Offsite Dance Project	身体表現を楽しもう	66

（★については、複合分野での実施）

美術・工芸

駒岡小学校＋サルビアホール	古代文字を書いて文字の成り立ちを体験しよう	68
末吉小学校＋横浜市民ギャラリー	マイ・キャラでコマ撮りアニメーションをつくろう	69
洋光台第四小学校＋横浜市芸術文化振興財団	木炭画で似顔絵、自画像を描く（１）	70
品濃小学校＋アートの時間	仮面パレード 2012	71
二俣川小学校＋サンハート	木炭画で似顔絵・自画像を描く（2）	72
公田小学校＋リリス	陶芸を基本にした造形ワークショップ	73
伊勢山小学校＋テアトルフォンテ	きって、ひねって、つなげると~おもしろいかたち　たのしいかたち~	74
あざみ野第二小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野	ふしぎなアートハット	75
山田小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野	土粘土の体験	76
汐見台中学校＋横浜美術館	木彫制作の体験	77
小田中学校＋横浜市民ギャラリー	映画について知る―ゾートロープ制作＋編集ゲーム	78
本郷中学校＋横浜美術館	伝統木版画の世界を楽しむ	79
中村特別支援学校＋ART LAB OVA	まひるのディープ・ヨコハマ＊アートクラブ・ナイト	80

伝統芸能

鶴見小学校＋久良岐能舞台	狂言を体験しよう！（１）	82
浦島小学校＋よこはま音楽広場実行委員会	琴を体験しよう（１）	83
羽沢小学校＋よこはま音楽広場実行委員会	琴を体験しよう（２）	84
本牧南小学校＋久良岐能舞台	狂言を体験しよう！（２）	85
間門小学校＋吉野町市民プラザ	「日本の音」を見つけよう	86
藤の木小学校＋横浜にぎわい座	邦楽器の魅力に触れる～箏の体験～	87
並木第一小学校＋民族歌舞団 荒馬座	和太鼓を体験しよう（１）	88
新吉田第二小学校＋よこはま音楽広場実行委員会	琴を体験しよう（３）	89
下郷小学校＋横浜にぎわい座	邦楽器の魅力に触れるミニコンサート	90
港南台第三小学校＋横浜にぎわい座	日本の伝統芸能「落語」を楽しもう！	91
二つ橋小学校＋民族歌舞団 荒馬座	和太鼓を体験しよう（２）	92
勝田小学校＋神奈川県立音楽堂	古来の楽器に親しむ	93

【スクール・オブ・ダンスの個別報告】……94

西寺尾小学校＋Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス	95
小田小学校＋Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス	96
長津田小学校＋Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス	97
瀬谷さくら小学校＋Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス	98
元石川小学校＋Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス	99
荏田南小学校＋Offsite Dance Project	スクール・オブ・ダンス	100

【アーティストプロフィール】……101

【コーディネータープロフィール】……108

【横浜市芸術文化教育プラットフォームとは】

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
平成２４年度事業報告　概要

課題認識、目的と事務局体制

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、特定非営利活動法人ＳＴスポット横浜、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局が事務局を構成し、ＳＴスポット横浜が事務局代表として事業を推進しました。事務局構成団体は、横浜の次世代を担う子どもたちのコミュニケーション力と創造力をはぐくみ、豊かな心を養うことが必要であるという課題認識を共有し、市立学校等において、子どもたちの創造性をはぐくみ、ゆたかな情操を養う機会を拡大するためのプログラムを実施する本事業の目的を共有しています。

今年度は、音楽・美術・演劇・ダンス・伝統芸能などの分野で活躍している芸術家が、学校へ出かけました。小学校63校、中学校4校、特別支援学校6校、あわせて73校※、7,623人の児童・生徒に向けてプログラムを実施。横浜市内の文化施設や、市内外のアートＮＰＯをはじめとする民間の芸術団体をはじめ30団体が、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして授業づくりを支援しました（※このほか、Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2012と連携して、小学校でのダンスの授業を重点的に応援する「スクール・オブ・ダンス」に協力し、6校で授業を実施しました）。

コーディネーター会議

先生のためのワークショップ

ウェブサイトの運営

取組みの蓄積、活動の深化に向けて

学校でのプログラム実施と並行して、事業を担当するコーディネーターがあつまり情報交換を行う「コーディネーター会議」を行い、総勢28名があつまりました。この場では、担当する学校とのプログラムを調整する際に起きる課題の整理や、過去に蓄積したプログラムのノウハウの情報交換を行い、グループごとでのディスカッションを行いました（2012年7月12日、会場：関内ホール）。

教員向けプログラムとしては、先生のためのワークショップを行い、横浜市内の小・中学校、高等学校の主に図画工作科・美術科担当の教員20人が参加。横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム全体の説明、質疑応答を行いました（2013年2月27日、会場：横浜市技能文化会館）。

このほか、芸術文化の創造性を学校運営、カリキュラム等に活かしたいと考える学校関係者や、これからプログラムに参加したいと考えるコーディネーターやアーティストのための相談窓口を設置し、随時相談を受けました。また、過去の実績を集積した報告書や、コーディネーター、アーティストなどの情報をサイトで公開しました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
学校プログラム 連携のしくみ

連携のしくみ

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、芸術文化の学校向けプログラムを中心とした「連携のしくみ」です。さまざまな立場の方があつまって、つくられています。ねらいは、次の三点です。

（１）学校現場の実状に応じ、カリキュラム上での位置付けを行うための体制づくり

（２）様々な実施主体、関係団体を結ぶネットワーク

（３）子どもたちにとって効果的なプログラムの提供及びプログラム実施に関する調査研究や人材育成

学校現場

子どもたちに対して効果的なプログラムを検討し、カリキュラムに位置付けるなど学校現場の実状に応じてプログラムを実施します。プログラム実施の方向性の提案も行います。

事務局（ＳＴスポット横浜内に設置）

年間を通して学校からの相談対応や、学校向けプログラムの募集業務等の調整を行います。ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会で構成されています。

推進委員会 芸術文化教育プラットフォームの総合的な推進を図ります。

芸術団体／文化施設

学校などで、子どもたちに向けたアートプログラムを実施します。その際、コーディネーターとして、学校の先生とアーティストをつなぎ、取組が円滑に進むよう調整します。

学校プログラムの連携とすすめかた

【アートのちからを、学びの基礎づくりに活かします】私たちは、芸術文化の持つ創造性を通して、子どもたちが互いの感性を認め合い豊かにしていく過程を大切に考えています。教科・科目との連動以外に、コミュニケーション能力の育成やクラスの課題解決など、学びの基礎づくりの中で、力を発揮するアート。自由な発想や創造性にあふれた感性を導くことで、子どもたちの学習活動がより豊かなものになることを期待します。

【芸術家が、直接学校へ出かけます】平成 16 年度にスタートした子どものための芸術文化・教育事業です。プログラムは大きく分けて 2 種類。一つは、三日程度にわたり実施し、実技体験を通して、アーティストとともに様々なジャンルの創造活動に取り組み、子どもの潜在的な創造性やコミュニケーション力を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施する「体験型プログラム」。もう一つは、アーティストによる演奏やパフォーマンスを鑑賞した後、アーティストのお話しを聞くことで芸術文化を身近に感じることができる「鑑賞型プログラム」。音楽・美術・演劇・ダンス・伝統芸能など、幅広い分野で活躍している芸術家が、直接学校へ出かけます。

【コーディネーターと先生が、実施内容を調整します】学校プログラムでは、ふだん文化施設や芸術団体で活動しているスタッフが、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして、授業づくりを支援します。対象となる学年と教科・科目のねらいや、ふだんの学校の様子といった先生が持っている情報と、コーディネーターが持つ文化芸術分野に関する専門知識がひとつになることで、効果的なプログラムが実施できます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
これまでの学校プログラムの取組み

平成 16 年度から事業を開始

学校プログラムは、平成16年度にスタートしました。平成20年度には「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」を設立して事務局の基盤を強化しています。この９年間で、のべ460校あまりの横浜市立の小・中学校、特別支援学校で、６万人を超える児童・生徒たちが、アーティストと時間をともにしました。

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
参加児童・生徒数	**319**	**434**	**1,500**	**9,956**	**11,802**	**13,432**	**8,706**	**9,945**	**7,623**
実施校数	**6**	**8**	**22**	**52**	**67**	**82**	**79**	**77**	**73**
音楽	4	-	7	34	40	38	36	39	27
美術・工芸	-	3	5	3	8	11	15	14	13
演劇	1	2	4	8	9	11	10	6	9
ダンス	1	3	3	3	4	6	6	5	10
伝統芸能	-	-	3	4	6	16	12	13	12
複合	-	-	-	-	-	-	-	-	2
応募校数	-	-	24	52	76	86	85	94	90

多様なコーディネーターによる、プログラムの実施

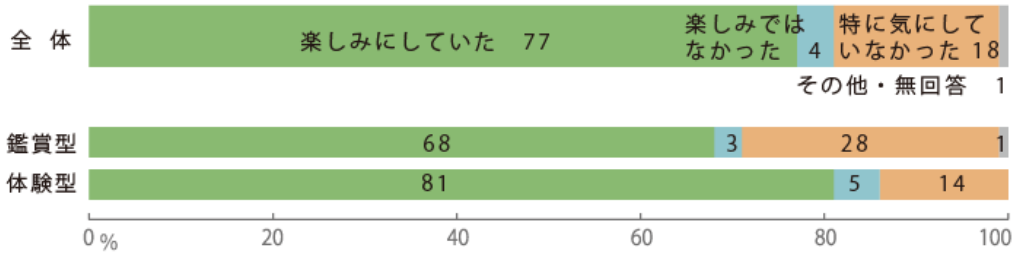
平成 19 年度以降、コーディネーターとして活動する団体・文化施設を拡大し、現在の学校プログラムは、コーディネーターとしてかかわる横浜市内の文化施設と、市内外のアートＮＰＯなど民間の芸術団体に支えられています。

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
文化団体	-	-	-	4	10	13	13	12	11
文化施設	-	-	-	0	4	12	14	16	17
事務局構成団体	1	1	1	2	2	2	2	2	2
合　計	1	1	1	6	16	27	29	30	30

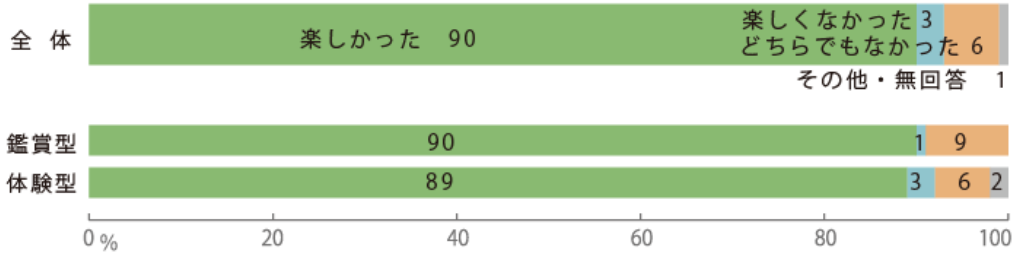
学校プログラム　アンケート結果
児童・生徒向けアンケートから

平成 24 年度の「学校プログラム」実施校の児童・生徒に対してアンケートを実施しました。アンケートの集計数は 5,585 人（うち鑑賞型プログラム 1,884 人、体験型プログラム 3,701 人）です。なお、このアンケートは、小学3年生以上を対象とし、複数学年での取り組みではどこか1つの学年でアンケートを実施しています。また特別支援学校では任意で実施しました。設問のうち自由記述は各取組み報告のページに示しました。

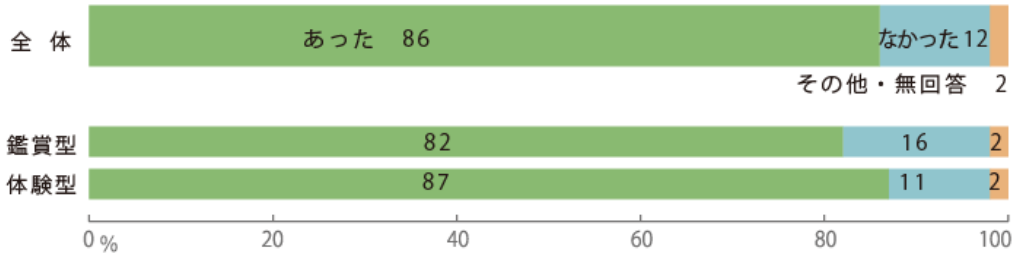
今回の授業を前から楽しみにしていましたか？



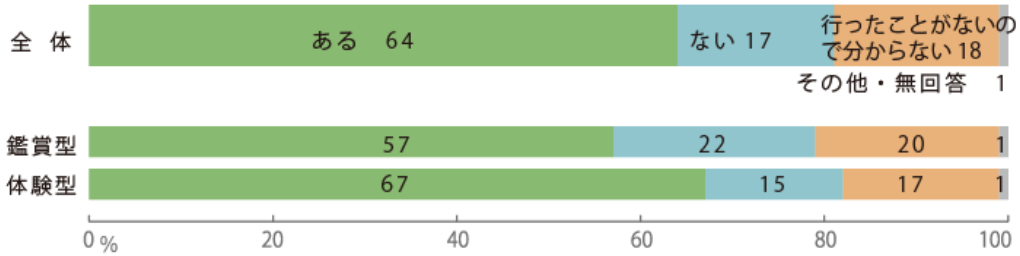
授業は楽しかったですか？



あなたにとって、この授業でためになったことはありますか。



あなたは、劇場や美術館、音楽ホールに興味や関心はありますか？



学校プログラム　アンケート結果
教員向けアンケートから

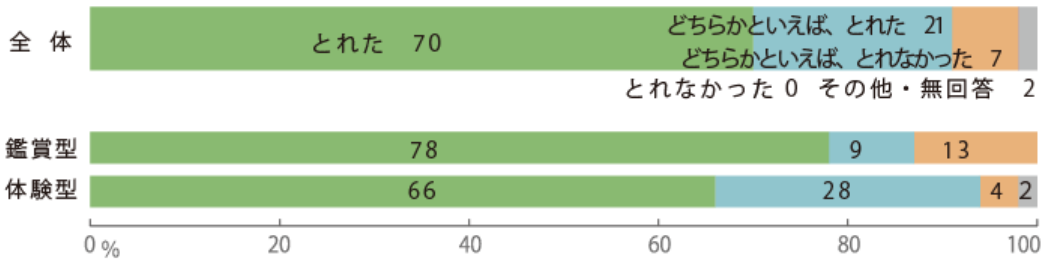
平成 24 年度の「学校プログラム」実施校の学校（もっとも事業に関わった教員）に対してアンケートを実施しました。アンケート回収数は 70 校（全実施校：73 校、回収率：95.8%）でした。

プログラム全体について

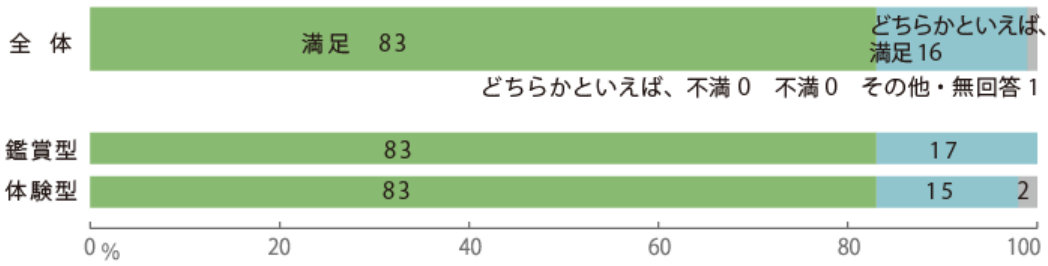
学校での取組みの実施にあたって、コーディネーターと適切なコミュニケーションが「とれた」「どちらかといえば、とれた」はあわせて 9 割程度。教員からみた子どもたちの満足度や、先生のねらいに照らした満足度も高評価でした。

鑑賞型・体験型の間に見られた差は大きなものではありませんが、プログラムが複雑化する複数日にわたる体験型プログラムに関しては、教員とコーディネーター間でより密な連携ができる余地があると考えられます。

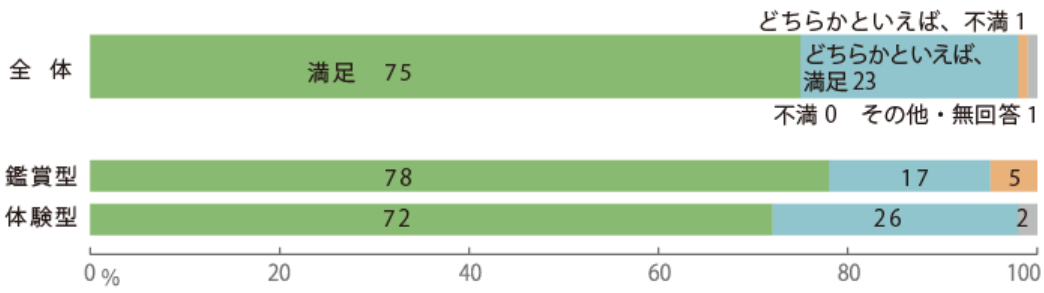
実施にあたって、コーディネーターと適切なコミュニケーションをとることはできましたか。



子どもたちはプログラムに満足していたようでしたか。

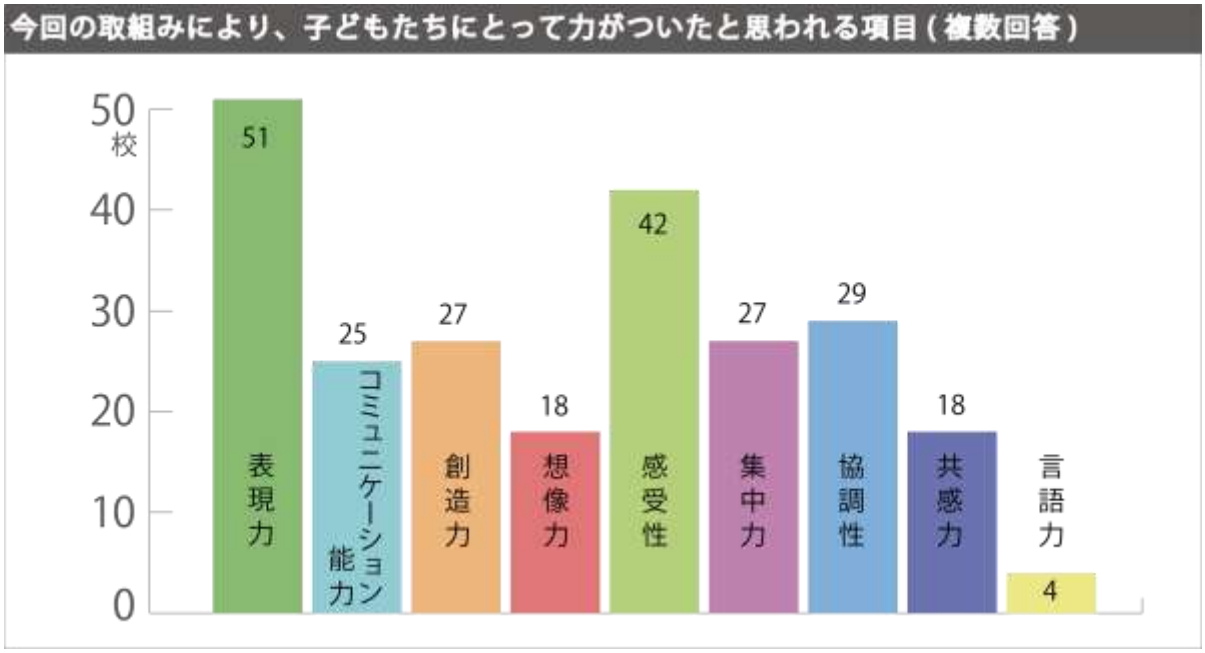


先生のねらいに照らして、今回のプログラムは満足できるものでしたか。



実施終了後に子どもたちに「身についた力」

取組みを経て子どもたちに「身についた力」はどのようなものだったかを調べました。複数回答でもっとも多かった回答は「表現力」でした。次に高かったのが「感受性」。以下「協調性」「集中力」「創造力」「コミュニケーション能力」と続きます。目に見えにくい、基礎的な力にも先生の注目が集まっていることが分かります。



それぞれの力は、具体的にどのようなものだったか、先生の自由回答を整理したものを、以下にまとめました。

表現力

・表現を目の前で見て、口の開け方、笑顔など、よさを感じて、同じように表現してみようとしていた。

・人前で何かをすることに苦手意識がなくなってきたような気がする。他学習でも発言が増えたり、まちがえたりしても堂々としていたりしている姿が見られた。

・実際にできるかどうかは別にして、表現するときに何が大切か、ということを実感としてとらえることができた。

・グループの友だちと協力し合い、考え、みている人を楽しませるように頑張っている子どもたちの姿が見られた。

・「表現ってこういう風に体を動かすんだ」と子どもがわかったことが一番大きかった。体の使い方を知ると、今度は自由に動き始めていた。

・表現するときには勇気がいるというお話から、子どもたちは、思い切って表現することができるようになった。

・子どもたち一人一人が進んで楽しく取り組むことができた。表現してみたい、何かを創造する力が身についた。

コミュニケーション能力

・言葉に頼らず、身体で伝えることの楽しさと難しさについて実感できた。

・相手のことを考えて、やさしくていねいに伝えることの大切さを感じられた。

・新しい表現方法を学ぶことができた。

・とても仲良く協力してやっていた。「へぇー！！そうなの？」と仲間を理解し合っていた。男女でもペア可能だった。

・鑑賞形式の授業だったのだが、アーティストの方との交流を深めることにより、コミュニケーションの能力を高めることができた。

創造力

・ひとつのテーマについて協働的に活動することを通して、対話をし、コミュニケーションをはかっていた。

・考え方のちがいでの話し合いで、新しい視点が生まれ創造的な作品ができた。

・アドリブで、自由にその場の雰囲気を読んで作品をつくっていくのは、子どもの創造力を育てる上で非常に面白い活動だった。

・授業と違って自由な雰囲気の中で目の前にない物を想像したり、表現したりする経験ができた。言語表現活動もできた。

・新しい発見が子どもたちの中にあった。

・グループでのワークショップで、物語の情景を思いうかべ、場面をつくり上げていこうとするのがよく感じられた。一人ひとりが場

面をよく考えていた。

・自分たちのイメージを形にして、協力しながら創り上げていくことができた。

・いろいろ試行錯誤しながら集中して取り組む姿がみられた。

・教わったことをやりとげるだけでなく、自分たちにまかされている部分を自由につくれるよさがあった。

想像力

・イメージをふくらませて表現することにより、想像力を豊かにすることができると思う。

・友だちとじゃんけんをする行動など、すすんで、行動していた。何か（動物など）になったつもりで、行動するのを楽しんでいた。

感受性

・初めてプロの方の演奏を目の前で聴き、とても印象的であったようである。そして実際に弾いて音を楽しんでいた。

・音色、ハーモニーの特徴や良さに気がついた。

・良いものは良いと感じる。

・子どもたちの聴きやすい曲を演奏して下さり、琴の音色の美しさや先生たちの演奏テクニックに感動したようだった。

・きれいな音がひびき合っていて、よかった。

・ほとんど知識がない子ばかりであったが、とても興味をもって真剣に聴く姿が見られたので、子どもたちの心に響いたのだと思った。知っている曲は大変喜んで聴いていたが、知らなかった曲もよく聴いていた。

・鑑賞する、音楽を聴くことに集中する、他の人も聴いている、演奏者も伝えたいことがある、など、他者を意識した鑑賞をすることができた。

・演奏をきいて感じ取ったことを言葉や体で表現することが出来るようになってきた。

・アーティストからさまざまなアプローチをしていただき、五感をとおした鑑賞をさせていただくことができた。

・耳や気持ちを研ぎ澄まして、周りの音や空気の動きに対峙し、自分なりの何かを返すことの面白さに気付くことができた。

・音、光、振動、リズムなど日頃体験できない空間の中で、子どもたちの微細な感覚・感情を引き出すことができた。

・日常生活では聞くことのない音に触れることができ、音楽に対して興味が広がった。

集中力

・集中して練習する様子や教え合う子どもたちの姿がたくさん見られた。

・友だちの演奏に合わせるために音を集中して聞き、活動に取り組む姿が見られた。

・美しい音色に心を動かされた子どもたちはプロの技といつも最高の音を求める姿勢にも感動していた。

・五線譜ではない楽譜を目で追いながら互いに声を出し合って指を動かす活動に集中して取り組めていた。

・日ごろ楽器が苦手と感じている子どもも「できる」という実感から「合わせよう」「聴こう」という意欲→それが集中力につながった。

・時間をかけて一つ一つの動きに集中することで、集中力が高まっていった。

協調性

・二人組になって演奏するので、相手の動きを見ないと音もタイミングも合わない。また次にたたく人のことを考えて自分の動きをどうしたらよいかを考えないといけない。同じグループの仲間とかけ声を出す、おどる、たたくという一連の流れを見て他者を思う協調性が最もついた力だと思う。

・ねらい通り、どのクラスもそれぞれのよさを見つけ出し、表現していくことができた。子どもたちの関わり合いを深めていくことができた。

・学級での取組から始まり、学年約 100 人の集団の表現へと展開、ひとりひとりが力いっぱい表現し、友達と合わせる楽しさを特に感じた。

・「どんな発表を目指すのか」全体で共有することができた。

・相手の体を聞くという経験を通して協調性が高まっていった。

共感力

・アーティストの表現に対する思いがよくわかった。

・照れることなくセリフを言ったり、クラスで協力して小道具を作ったり、クラスでの話し合いが活発になっていった。

・児童がアーティストと一緒に演奏することができた。

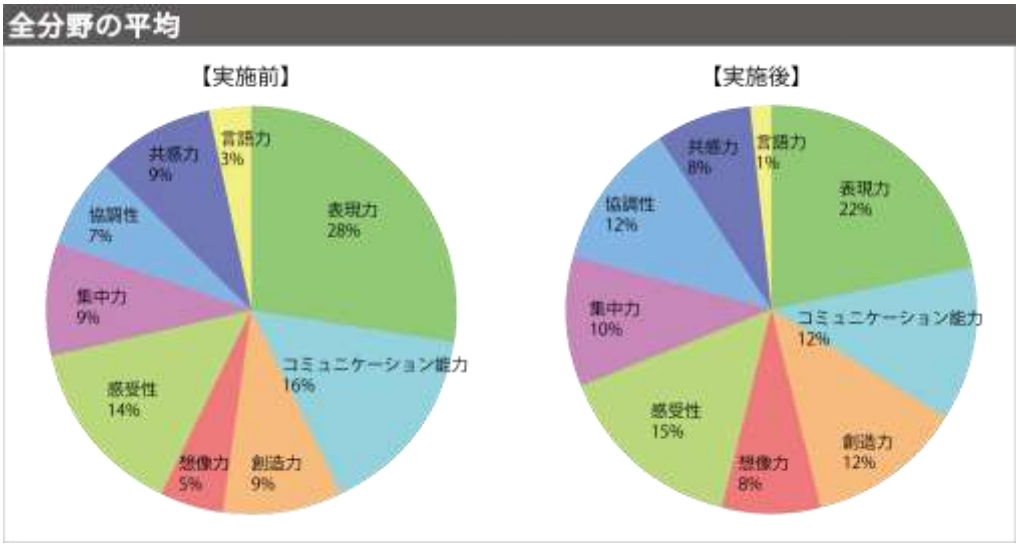
・鑑賞を通して、友達の作品のよさに共感する力もついた。

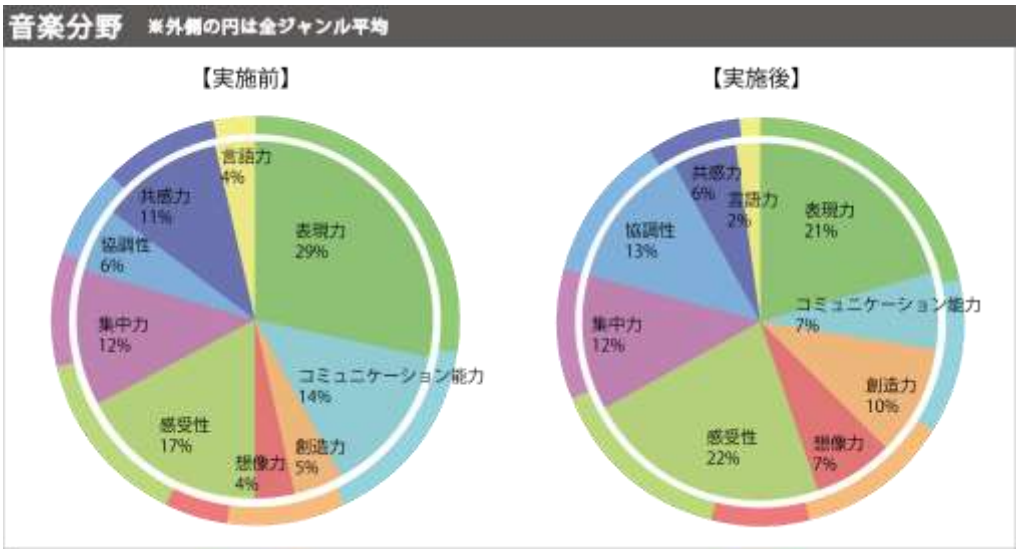
言語力

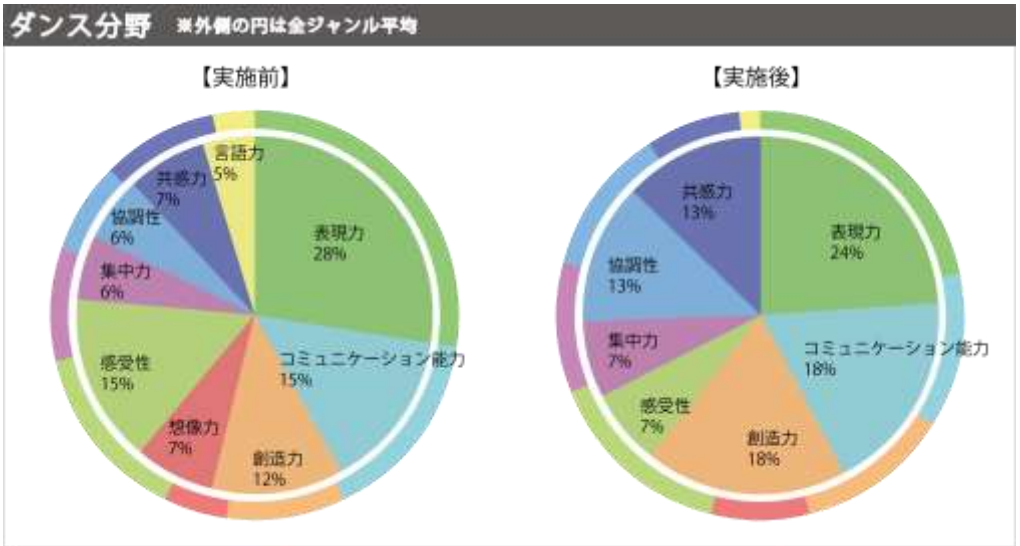
・グループワークなどで、対話しながら鑑賞し、言語力の充実をはかることができた。

プログラム実施前・実施後の取組みジャンル別比較

以下のデータは、実施前と実施後を取組みジャンルごとに比較して、先生が子どもたちに「身につけたい」と願っていたことと「身についた力」をみたものです。具体的には、実施希望調書と学校報告書をそれぞれジャンルごとに分類（複数分野・複数能力を示した学校については按分）し、各ジャンルの合計が 100%になるよう調整したものです。希望から実施決定、調整段階を経る中で、別の分野への取り組みに変わった学校があるため単純な比較はできませんが大まかな傾向が分かります。実施後に、音楽・美術分野では「表現力」がやや減った分それ以外の力に焦点が移っています。ダンスでは「創造力」が、演劇では「コミュニケーション能力」が、伝統芸能分野では「感受性」が伸びている傾向がうかがえます。

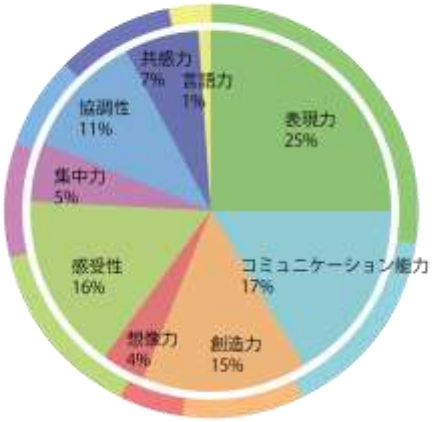




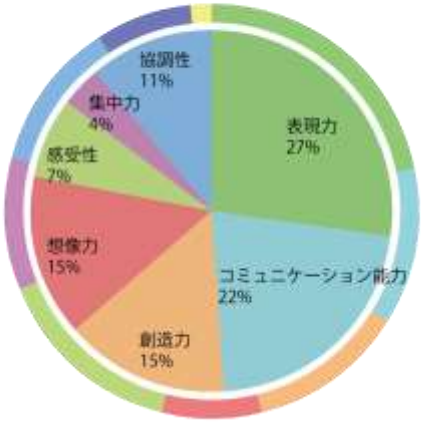


演劇分野　※外側の円は全ジャンル平均

【実施前】

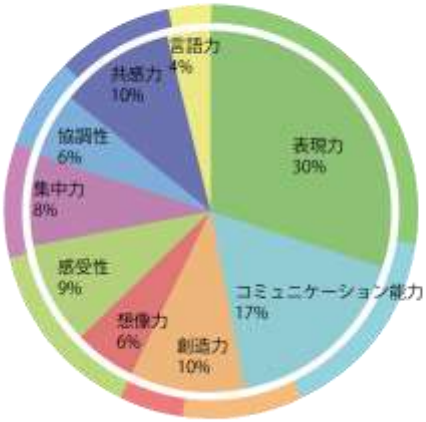


【実施後】

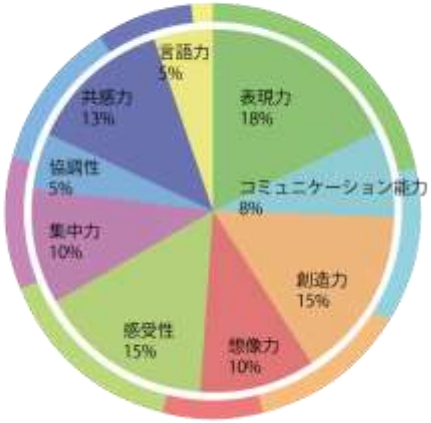


美術分野　※外側の円は全ジャンル平均

【実施前】

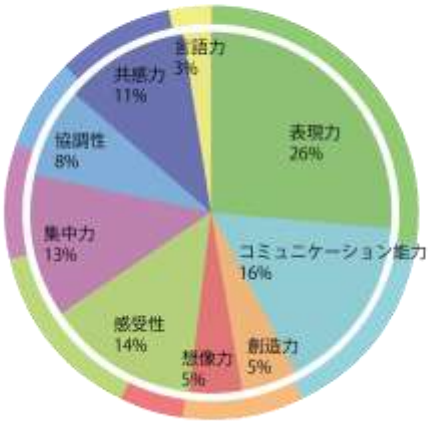


【実施後】

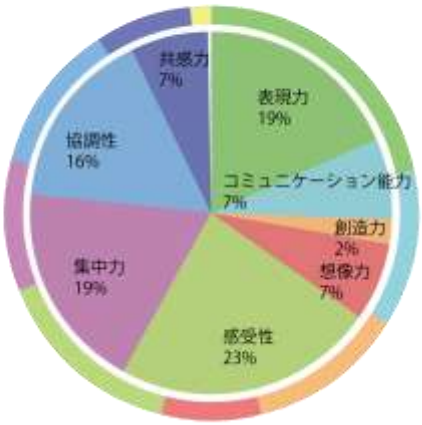


伝統芸能分野　※外側の円は全ジャンル平均

【実施前】



【実施後】



【学校プログラムの個別報告】

音楽分野の取り組み

目の前で縦横無尽に奏でられる「生の音」に触れてみます。聴くことや見ることといった鑑賞を足場に、自分たちが実際にやってみる体験へと活動を広げ、音楽の楽しさを実感していきます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立神奈川小学校＋子どもに音楽を ヴァイオリン・ピアノ体験

担当アーティスト	川田知子（ヴァイオリニスト）、田中麻紀（ピアニスト）
実施校	横浜市立神奈川小学校（神奈川区）
コーディネート	NPO 法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／3 学年、2 学級、70 人
実施日程	2012 年 9 月 12 日

授業のねらい

今回は対象学年が 3 年生との事で時間を通常より短く 40 分として、曲目も 3 年生を念頭に演奏家に決めて頂いた。

アーティストから

今回は 3 年生ということでプログラムも短めにして、飽きが来ないように工夫しました。結果、とても真剣に聴いてくれていた子どもが多かったです。子どもに迎合する訳ではありませんが、年令を考慮したプログラム作りも必要かと思いました。子どもたちの中に入って給食をいただきましたが、とっても元気な子が多く、質問攻めにあいました。

コーディネーターから

通常は子どもたちとは別に給食をいただいているが、今回は教室で子どもたちと一緒に食べたが、両教室とも賑やかで新しい体験をすることができた。全体を通して、担当の先生がとても丁寧に対応して下さり、活動は行いやすかった。

先生から

普段、聴けない生の演奏を聴けて、子どもたちも喜んでいました。プロの演奏者がいらっしゃるので、子どもたちも聴くマナーについて話し合いました。音楽室で身近かにプロの方の演奏を一生懸命聴こうとする態度も養えて良かったです。聴くだけでなく、一緒にリズム奏をしたり、体を動かしたり、歌ったりする場面もあるともっと良いと思いました。授業以外では、給食も一緒に過ごしていただき、いろいろ経験豊富なお話もしていただき、和気あいあいと仲よく過ごす事ができました。

子どもたちから

もっとピアノが好きになった。ピアノとバイオリンのバランスがすごい。バイオリンを普段聴けないのですごい。生演奏で聴いたことがないのでいい経験をした。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立神橋小学校＋横浜みなとみらいホール 歌のプレゼント（１）

担当アーティスト	山田英津子（ソプラノ）、前田勝則（ピアニスト）
実施校	横浜市立神橋小学校（神奈川区）
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／声楽／6 学年、3 学級、75 人
実施日程	2013 年 2 月 6 日、2 月 26 日、3 月 5 日

授業のねらい

声楽の魅力、プロの演奏家の声の美しさを体験し、歌うことの楽しみを知ってもらう。発声練習を充実させて、卒業式の合唱で大きな声で歌えるように。

主な内容

（1 日目）発声（2 日目）発声+曲練習（3 日目）曲練習+仕上げ+アーティストミニ発表

アーティストから

神橋小学校アウトリーチの依頼を受け、沢山の期待と沢山の不安―。そんな中、第一回目の授業がスタート。小学６年生は男子の声変わり、女子の恥ずかしさなどが目立ってくる年頃。心身ともにフォローをしながらの指導に難しさを感じつつも、声を出すこと、歌うことへの興味を持って頂けた様子でした。ウォーミングアップ、発声練習のほか、卒業式の歌２曲を積極的に取り組み、時間を重ねる度に生徒たちの歌声に大きな変化を感じることが出来ました。ハーモニーの美しさや響きのまとまりを生徒たちも体感して頂けたのではないでしょうか。歌うことが得意な生徒も、苦手な生徒も、各々が一生懸命に歌ってくれている姿はとても愛らしく、本当に嬉しく思いました。今後の彼らにとって、何かしら良い刺激になってくれたら…と心から願っています。最後に、神橋小学校の先生方、横浜みなとみらいホール・アウトリーチ担当の皆様に貴重な体験をさせて頂いたことを感謝しております。

コーディネーターから

１）少ない回数で卒業式の曲目の練習をサポートしたかたちであったが、私たちがいないときに何回も音程をとるための練習をつけていたようで、それによって完成度が高い仕上げになっていった。２）一般にはあまり知られていない声を大きく出すための工夫の数々をアーティストが披露。確実に児童は大きな声で自信を持って歌えるようになった。アーティストの参加が子どもの成長に役立ったと思う。

先生から

子どもたちのことばではありませんが、やはり「本物」はちがう。本物にふれることで、子どもたちの目が輝きます。それがすぐに成果には結びつくわけではありませんが、「本物に対するあこがれ」や「技術のすばらしさ」何より、そういう本物の「本当に目の前」でみて、ことばをきくだけで、子どもたちの心の成長に大きな影響を与えると考えます。

子どもたちから

プロはちがう。山田先生の声はすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立子安小学校＋かなっくホール
ゴスペルを歌おう

担当アーティスト	HAL&Panda（ゴスペルシンガー、ボイストレーナー）
実施校	横浜市立子安小学校（神奈川区）
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ゴスペル／5 学年、4 学級、147 人
実施日程	2012 年 10 月 18 日、10 月 26 日

授業のねらい

12/1（土）実施予定のウィンターコンサートに向け、この体験を通じて音楽を表現する楽しさを味わい、友だちとともに歌うことで得られる一体感や達成感を大切にしようとする気持ちを育てる。

主な内容

（1 日目）ゴスペルの説明、HAL＆Panda の演奏、発声練習、歌ってみよう！（2 日目）発声練習、歌ってみよう！（コール＆レスポンス、英語の歌二声合唱など）

アーティストから

音楽（歌）と共に歩く人生が豊かだと実感している私たちが子どもたちに伝えたい事は沢山あります。限られた短い時間の中でも歌う事の楽しさや喜びを伝えたい！と子どもたちと向き合いました。最初は、やや恥ずかしそうにしていた子どもたちでしたが段々と声量も上がり、集中力が高まって来るのが感じられました。慣れない英語の歌に最初は戸惑いも感じていたようですが何度も繰り返すうちに自然に身体でリズムを取り、大きな口を開けて歌い始めました。真剣な顔で眼がキラキラと輝いていました。この瞬間がとっても好きです。彼らのこれからの人生に、いつでもそばに歌があるように祈りつつ。

コーディネーターから

昨年度も同校を担当させていただき、マスクワイヤ・スタイルのゴスペル・ワークショップを実施しましたが、今回はより子どもたちの「体験」に重きを置いた内容のプログラムを行いました。普段から合唱に慣れ親しんでいる子どもたちだけあって、声を出すことへの抵抗感も無く、すんなりと未経験の音楽体験を楽しんでいたようです。前回同様、先生たちも一緒になって取り組み、楽しんでいただけたことで、このワークショップの企画意図がより豊かに具現化できたように感じます。

先生から

本校ではウィンターコンサートという行事があり、学年で合唱や合奏に取り組みます。そのウィンターコンサートに向け、音楽を表現する楽しさを感じ、友達と一緒に歌うことで得られる一体感や達成感を味わってほしいと思い、今回の取り組みに参加しました。子どもたちは HAL&Panda さんのゴスペルを聞き、目を輝かせていました。最初は戸惑っていた様子がありましたが、だんだんと心を開いていき、最後には学年みんなで笑顔で歌い、音楽表現の楽しさを全身で表すことができていました。

子どもたちから

HAL&Panda さんの歌がすごかった。一緒に歌えて楽しかった。音楽がもっと好きになった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立西寺尾第二小学校＋オフィスマキナ
ジャズのアドリブを体感

担当アーティスト	ユキ・アリマサ（ジャズ・ピアニスト）
実施校	横浜市立西寺尾第二小学校（神奈川区）
コーディネート	株式会社オフィスマキナ
実施科目・教科名	音楽・総合的な学習の時間
実施概要	体験型／ジャズ／4 学年、3 学級、100 人
実施日程	2013 年 1 月 28 日、1 月 29 日、1 月 31 日

授業のねらい

子どもにとって聴く機会の少ないジャズを体験します。本物のアーティストによる生演奏を間近で鑑賞し、ジャズ特有のリズムやハーモニーを体験します。また子どもたちも楽器を持って、実際にアドリブに挑戦します。音を自由に作る楽しさと、お互いに聴き合いながら演奏する喜びを味わうことを目的とします。

主な内容

（1 日目）楽器紹介、講師による演奏鑑賞、音楽の雰囲気作り（2 日目）曲を作る、アドリブに挑戦（3 日目）ジャムセッション、保護者の方への発表

アーティストから

とてもリズム感の良い子どもたちでした。手を挙げて質問をしてくれた子も多く、アドリブに挑戦したいという子たちがとても積極的に参加してくれました。休み時間にも、大勢が楽器のまわりに集まって興味津々の様子でした。最終日にクラスごとに演奏した際は、少々まとまらない部分もありましたが、子どもたちならではの勢いがありました。思い切って自由に音を出し、音楽を楽しんでくれたと思います。

コーディネーターから

１、２日めは３クラスを２グループに分けていただいて実施したので、人数が多いかなと少し心配していましたが、杞憂でした。講師の演奏や話を聴くときは、皆とても集中していました。ドラムのリズムを良く聴いて、真似して演奏する際も、とても敏感に反応していたと思います。初め恥ずかしがったり、困惑した様子だった子も、だんだんと楽しそうに、体を動かして音を出すようになっていたのが印象的でした。

先生から

子どもたちにとってプロの本物の音楽に触れること自体が貴重な経験であることがまず第一だった。やはり、演奏は心から「すごい」と思い、子どもたちもそう感じたに違いないだろう。アリマサさんが子どもたちのありのままの姿を受け入れ、音楽としてすてきだとおっしゃって下さったことは好感をもった。普段、自己表現をするのが苦手な児童がいきいきと楽器に触れていたことは、今回の授業の成果だと思う。「音楽作り」の場面で、こういったワークショップを活用することで、子どもの自信につながることを期待している。

子どもたちから

皆で曲を作るって楽しかった／初めて音楽を楽しいと思った／アドリブでもめちゃくちゃにならず曲になるんだ／ドラムが音楽の雰囲気を作るんだ／ベースの音の低さ、はじく難しさを知った

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立南神大寺小学校＋かなっくホール
体でリズムを刻もう！

担当アーティスト	若鍋久美子（打楽器奏者）
実施校	横浜市立南神大寺小学校（神奈川区）
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／パーカッション／6 学年、2 学級、46 人
実施日程	2012 年 12 月 17 日

授業のねらい

リズムアンサンブルやラテン音楽、ジャズや即興表現等体験することで楽しさを味わい、子どもたちが音楽を愛好することを目指す。

主な内容

1.鑑賞：「おお、シャンゼリゼ」「ぞう（“動物の謝肉祭”より）「I Got Rhythm」2.体験：ボディパーカッション（“小さな世界”を題材に。1 番が歌、2 番が歌＋手拍子、3 番がボディパーカッションで表現）3.鑑賞：「クリスマス・メドレー」

アーティストから

あっという間に時間が過ぎました。興味を持って集中してくれていたのが､子どもたちの視線からもとても伝わってきました。6 年生でしたが協調性があってとても素直だったので体験もやりやすかったです。最後に「目を閉じて聴くと、たくさんの人で弾いているみたいに音が重なり合っていました」という感想を言ってくれた子もいて、とても嬉しかったです。子どもの頃の経験の質や量はその時にはすぐに生きなくても、必ず役に立つと思いますし、直接的にではなくても、きっかけや心に引っかかる何かを子どもたちと見つけることが出来ればと思いました。

コーディネーターから

少人数の小学校なので、児童一人一人に目を配ることができ、普段は体験できないジャンルに子どもたちも満足そうでした。また担当の先生方にも、来年もお願いしたい、とのお言葉をいただきました。

先生から

今回は音楽でしたが、いろいろな分野の方々に出会うこと自体が子どもたちには、得るものがあったと思います。その出会う人が、特技をもっていて、それを教えてくれることで、子どもたちは目を輝かせながら、取り組むことができました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立浅間台小学校＋横浜シティオペラ
オペラへの好奇心（１）

担当アーティスト	横浜シティオペラ
実施校	横浜市立浅間台小学校（西区）
コーディネート	NPO 法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／全学年、11 学級、260 人
実施日程	2012 年 12 月 20 日

授業のねらい

オペラ鑑賞を間近で体験し、その素晴らしさや愉しさを知ってほしい。また今後の音楽表現や人間関係を創る助けになってくれることを望みます。

主な内容

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」ハイライト

アーティストから

鑑賞態度はとても良く、物語に興味を持ち、目を輝かせて観てくれていた。反応も良く出演者たちと共に喜び、共に笑ってくれた。オペラの後に生徒全員と出演者とで合唱をした時にも元気よく、明るい子どもたちに大変感動した。

コーディネーターから

舞台とは音響的に異なる体育館での公演でしたが、機械ではなく生の音を聞いてもらう事によって、毎回明らかに子どもたちの音への好奇心が増し、演技へ集中しているのが感じられました。これをきっかけに子どもたちがオペラというジャンルに対して親近感を持ってくれることと思います。

先生から

子どもたちに本気で向かってくださる姿勢が有難かったです。また、終演後に質問コーナーで真剣に子どもたちの質問に答えてくださる中で、音楽や芸術に対する思いや、努力されている姿勢などにも触れてくださったことも子どもたちの心に響いていると思います。日頃の音楽の授業の中での「響く声」、歌と劇、楽器の総合的な楽しみ方など、様々な学習ができました。関心を広げられる機会になったと思います。本当にありがとうございました。

子どもたちから

ピアノと歌だけで、場面の様子を想像させられることがすごいと思いました。一つの作品をこうかいするために、たくさんの練習をしているのがすごいなぁと思いました。大きな歌声でおどりもひろうしていたのがすごいと思いました。表情もすごかったです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立西富岡小学校＋神奈川県立音楽堂
打楽器を楽しむ

担当アーティスト	神田佳子（打楽器演奏者）
実施校	横浜市立西富岡小学校（金沢区）
コーディネート	神奈川県立音楽堂
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／打楽器／5 学年、2 学級、53 人
実施日程	2012 年 10 月 3 日、 10 月 4 日、 10 月 5 日

授業のねらい

子どもたち全員が楽しめるワークショップを行うことを目標に企画した。

主な内容

（1 日目）打楽器ワークショップ（演奏を聴く。打楽器を叩いてみる。アンサンブルしてみる。）（2 日目）打楽器ワークショップ（身の回りの物を叩いてみる。良い音を探してみる。リズムに乗る。）（3 日目）合同ワークショップ＆リハーサル／合同発表会

アーティストから

いろいろな楽器を知り、体験し、音楽の楽しさや奥深さを触れさせることができたことと、ほかのクラスより良い演奏を発表会でしようとする意気込みが子どもたちに芽生えました。短い期間ではありましたが、そこから生まれてくる団結力が日に日に強まってきたことを感じ、これからの学校生活にプラスになると感じました。

コーディネーターから

訪問する学校の規模や生徒の日頃の音楽活動の状況等、様々な要件により、同じ打楽器のプログラムでも最後の発表会に各クラスごとの個性を発揮する。こうしたプログラムが教育現場に多様性、創造性をもたらす糸口になっていることを実感。引き続き学校側、演奏者側との連携を密にし、有用なアウトリーチを実施していきたい。

先生から

短期間ではありましたが、集中して取り組んだことにより、子どもたちの未知のエネルギーのすごさを感じることのできる授業でした。身のまわりの物や、知っている楽器が、プロの演奏家の手によってすばらしい音楽になる迫力を体験できました。また、自由に音楽をつくること、創作することは、これでいいんだという自信につながる体験だったと思います。私自身もこれからの授業の参考になりました。

子どもたちから

音楽に元気をもらえると感じた。／みんなをまとめて指揮ができたこと（5 の 1）／発表がうまくできたこと。／たくさんの拍手をもらったこと。／先生方に丁寧に教えてもらったこと。／先生方のマリンバの演奏がすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立能見台南小学校＋横浜みなとみらいホール
歌のプレゼント（２）

担当アーティスト	鶴川勝也（ＮＰＯ法人ミラマーレ・オペラ）、相原郁美（ピアニスト）、竹田有輝子（ソプラノ）
実施校	横浜市立能見台南小学校（金沢区）
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／声楽／5 学年、4 学級、130 人
実施日程	2012 年 10 月 31 日、11 月 12 日、11 月 16 日

授業のねらい

声楽の発声の力強さや美しさを体験し、全身を使って歌うことを楽しみながら知ってもらう。

主な内容

（1 日目）自己紹介・発声と身体の仕組み（2 日目）発声と曲練習（3 日目）児童発表とアーティストのミニミニコンサート

アーティストから

子どもたちに歌を聴いてもらったり、どこで呼吸するのか実際にお腹を触ってもらったら大変興味を示したことに驚きました。普段我々が歌を歌っていることが特殊なことだと、改めて新鮮な気持ちになりました。『歌をやめたいと思った事はありますか？』という質問で、思った事はあるけど何事も諦めずにやれば出来るという事が伝わったら幸いです。最後は私が教えた通りに体をいっぱい使って歌ってくれた事に感激しました。とても素直で良い子どもたちでした。良い経験をさせて頂きました。

コーディネーターから

１）アーティストの個性（若く、親しみやすい）を活かし、児童の意見をことあるごとに聞くスタイルでスタートさせた。感想を求めて児童に質問するたびに手が上がり新鮮な質問が出ていて、大変児童とのコミュニケートが出来たプロジェクトだったと思う。２）アーティストの身体を触って、呼吸するときの身体の動きを多くの児童に体験してもらった。身体全体で声を出している様子が実感させられた。また、ミニミニコンサートではオペラアリアも演じてもらい、コミカルに動きながら歌う様子に大きな喝采があった。

先生から

今回のようにプロの演奏家の指導を直接受ける事ができて、子どもたちは新鮮な感動があったようである。特に声を出す時の体の使い方を実際に触れさせていただきながら実感できたことだったようである。歌うことが大好きな子どもたちなので今回の体験を生かして、より自信をもって生き生きと表現できるようになることを期待している。

子どもたちから

最後の演奏会でソプラノの高音がすごいと思った／動きの入った二重唱がとても楽しかった

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立城郷小学校＋子どもに音楽を ヴァイオリン・ピアノを楽しむ

担当アーティスト	山口裕之（ヴァイオリニスト）、広海滋子（ピアニスト）
実施校	横浜市立城郷小学校（港北区）
コーディネート	NPO 法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／6 学年、3 学級、120 人
実施日程	2013 年 11 月 1 日、12 月 13 日

授業のねらい

学校側の希望に沿って 12 月に設定した。「演奏家の息遣い・楽器の音色などを出来るだけ身近で体験して欲しい」という私たちの思いも伝えた。対象は 6 年生一学年だが、人数が 120 名なので 2 回の演奏会を設定した。出演者が N 響のコンサートマスター山口裕之さんということで、担当の先生が喜んでおり、当日を楽しみにしていらっしゃった。

アーティストから

6 年生ということもあってか、質問は少なかったが、静かに集中して聴いててくれたと思います。一生懸命に聴いてくれるその姿勢、気持ちが演奏する側にもしっかり伝わってくるので演奏により心が伴ってくるので、嬉しいことです。

コーディネーターから

打ち合わせの初めからスムーズに全て対応していただき、しっかりした形で活動できたと思う。実際の活動は山口さんに進行もお願いしたが、素敵な演奏で涙ぐんでいた子もいた様に思う。反面、六年生が対象だったので質問の挙手は少なかった。そこで二回目の演奏の後に NPO 側からの発案で担当の先生に突然「今日の感想を言える人はいませんか？」の問いかけをしてもらった。その後、指名をされた三人の子どもたちが率直な感想を言ってくれた。また、二回目の演奏には校長先生はじめ、6 年生担当の先生以外の先生も演奏を聴いて、とても喜んでくださった。

先生から

音楽会にはなかなか行く機会がないとは思っていましたが、ほとんどの子が初めて生のバイオリンを聴いたと言っていることに驚きました。一流の方が演奏して下さるなんて、本当に幸せだと思います。また聴きたい、バイオリンを弾いてみたいと言っています。

子どもたちから

まだ完璧じゃないという演奏者の気持ちがすごかった。／難しい曲なのにカンタンそうに弾いているのがすごい。／きれいな音に感動した。また聴きたい。／バイオリンに興味がわいた。／心が軽くなった。／いろいろな音色が出るのがすごい。／バイオリンにはすごい力がある。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立東戸塚小学校＋横浜市芸術文化振興財団
ゴスペルの体験（１）

担当アーティスト	城田有子（ピアニスト／歌手／作曲家／編曲家／プロデューサー）、河原厚子（歌手）
実施校	横浜市立東戸塚小学校（戸塚区）
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	特別活動、音楽
実施概要	体験型／ゴスペル／5 学年、5 学級、184 人
実施日程	2012 年 10 月 30 日、10 月 31 日、11 月 1 日

授業のねらい

身体をいっぱいに使って、声を出す心地よさを感じながら、クラスで１つの作品をつくりあげる過程を体験し、表現することの楽しさや音楽の豊かさを感じます。歌う曲は『アメージンググレース』。高学年になると苦手意識を持ちがちな「歌う」ことを、英語の歌詞を使うことで払拭していきます。また、各クラスの個性を発揮したアレンジに取り組み、最後にお互いのクラスの曲を聴きあうことで、音楽の持つ魅力に気づくことも目標とします。

主な内容

（1 日目）声を出すことへの抵抗感をなくすための練習をする、歌う曲の意味を知る（2 日目）クラスごとにアレンジを決めて、３日目の発表に向けて練習をする。（3 日目）リハーサルを行い、体育館でクラスごとに発表を行う。

アーティストから

毎年楽しみにさせていただいている教育プログラムですが、今回も東戸塚小学校は、5 クラス、どこまでの作品が仕上がるか、若干不安でした。しかし、一日目、子どもたちがほとんど歌えるようになっていてとても驚きました。事前に学習して下さったとの事。さすが５年目！先生方のご協力に感謝です！２組合同のチームもあったので、結果的にできあがった４つの独創的なパフォーマンスは、またまた驚きの連続でした。素晴らしいダンスのチーム、芝居仕立てのチーム、船を表現したチーム、感心させられてばかりの３日間！

コーディネーターから

講師が、時には質問を投げかけたり、歌声を披露したり、笑いを誘ったり・・子どもから自由なアイディアが出る雰囲気を作りだしていました。子どもたちは講師のアドバイスを受け創意工夫をし、クラスごとにまったく違ったアメージンググレースの世界を表現。歌うことを通じて、世界観や気持ちを表現すること、クラスの仲間や先生と協力して１つのものを作りあげることを楽しみながら体験している様子でした。

先生から

数年間続いてきた行事として、子どもたちも先生方も期待していた活動でしたが、思った通り、それ以上に楽しい活動となりました。毎年来てくださった講師の先生方のお人柄と子どもたちの発想をひとつひとつ受けとめ、楽しんでくださる姿勢がこのようなすばらしい授業につながりました。ここで学んだことを今後の授業に生かしていきたいと思っています。

子どもたちから

たった 3 日間でも思い出に残るすばらしい時間だった。1 つの曲でいろんな表現ができて雰囲気が変わるのがすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立俣野小学校＋アートの時間
熱帯バリ島の不思議な音楽“ガムラン”

担当アーティスト	櫻田素子（ガムラン演奏家）
実施校	横浜市立俣野小学校（戸塚区）
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／民族音楽／4 学年、1 学級、23 人
実施日程	2012 年 10 月 1 日、10 月 5 日、10 月 12 日

授業のねらい

・西洋音楽とは成りたちの異なった音楽を肌で感じ、自ら体験することで、子どもたち自身の音楽表現の幅を広げる。・お互いの音を聴き合い、からだを使って息を合わせるという、演奏におけるコミュニケーションを体験し、大勢で演奏する楽しさを実感する。

主な内容

（1 日目）デモ演奏と楽器の紹介。楽器の体験。（2 日目）曲の練習。ガムランの音のイメージをクレヨンで描く。（3 日目）仮面をつけた人の動き（テンポ）に合わせて曲の練習。全校生徒と保護者に発表。

アーティストから

子どもたちの、音楽を聴き、感じようとする素直で真剣な姿勢、また、楽器の奏法や曲のフレーズなどを自分なりに最大限獲得しようとする探究心・好奇心の強さに感動し、刺激を受けました。日本を含む世界の民族音楽の本来の姿である、楽譜を使わず師匠の演奏を見聴きして覚えていく音楽を、実際に体験する貴重な機会を持ってもらえたと思います。息を合わせ、目や身体の動きで互いにコミュニケーションし、助け合う、ガムランのアンサンブルの面白さを感じてもらえたことで、子どもたちの音楽の世界がますます広がっていくことを願っています。

コーディネーターから

ガムランは演奏をする前には、神様にお花と水、お菓子、お線香のお供えをするのだと聞くと、子どもたちの表情は引き締まり、演奏者は腰に帯を巻かねばならないと聞くと、配られた色とりどりの帯を手にして彼らの気分が高揚していくのが分かった。単に珍しい楽器を体験するだけでなく、信仰と深く関わるガムランの世界観を厳かなものと受けとめ、楽器と真摯に向き合う子どもたちの姿から、近年失われつつある様式美の魅力も再発見させていただいた。

先生から

ガムランの音楽は、私自身も初めての経験でした。子どもと同じ気持ちで楽しみにしておりました。3 回の活動で演奏できるようになれるところが、子どもたちにとってもとても満足でき、ガムランの楽しさを味わえたところだと思います。せっかくの機会なので、今後もしばらくガムランを続けさせていただけると子どもたち（他学年の）も喜ぶと思います。

子どもたちから

みんなとなかよく音楽ができた。／楽器に神様がすんでいるのがびっくりした。／先生がたが楽しくやさしく教えてくださった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立永谷小学校＋吉野町市民プラザ「展覧会の絵」によるみんなの展覧会

担当アーティスト	中川賢一（音楽家、ピアニスト）
実施校	横浜市立永谷小学校（港南区）
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	音楽・図画工作
実施概要	体験型／クラシック音楽／4 学年、3 学級、94 人
実施日程	2013 年 1 月 8 日、1 月 9 日、1 月 10 日

授業のねらい

身近に本物の音楽に触れ、心が揺さぶられるような感動を味わってもらいたいです。ムソルグスキー『組曲「展覧会の絵」』を聴いて、音楽から感じるものを絵で表現し、一つの作品として発表できるものをクラスのみんなで作ることにより、感じ方や表現の仕方がたくさんあるということをみつけ、コミュニケーション力を高めます。またこの創作を通じて、お互いに個性を尊重し合い、協力しながら作り上げるおもしろさを味わい、新しい発見をしてもらいます。最後にじっくりとクラシック音楽を鑑賞する場を持ち、感じること、音楽の楽しさを実感します。

主な内容

（1 日目）ピアノの仕組みを知ろう！ワークショップと演奏（2 日目）組曲「展覧会の絵」(ムソルグスキー作曲)を聴いて、自由に絵を描く（3 日目）3 クラス合同コンサート(みんなの絵とともに)

アーティストから

３日間連続で集中して「展覧会の絵」を聴いてもらうこのプログラムは、学校側の素晴らしいバックアップがあったからこそ実現できたものです。音楽を聴く、ピアノの仕組みを知る、聴いて感じたことを絵に描いて表現する、それを見ながらまた演奏を聴く。回を重ねるごとに子どもたちの集中力が高まっていくのを感じました。「展覧会の絵」は非常に重い内容の曲であるにもかかわらず、子どもたちがそれを聴いて抽象画で表現したり、演奏をじっくり聴いたりできたのも、先生方と子どもたちの日頃からの信頼関係がしっかりと築かれていたからだと思います。そんな恵まれた環境のお陰で、この曲が持つ素晴らしさや音楽を通して感じること、表現することの楽しさを伝えるために、自分の持つ力を１２０％出すことができ、大変有意義な時間となりました。

コーディネーターから

本気の 3 日間。永谷小学校では、校長先生はじめ、副校長先生、ご担当の先生、担任の先生、事務の方･･･、このプログラムのためにすべての関係者が一丸となって本気で取り組んでくださいました。アーティストはその万全な態勢の中で子どもたちに音楽の素晴らしさを全力で伝えていました。子どもたちもそれにどんどん引き込まれて本気で表現し、何かを感じ取ろうとしていました。今の世の中、みんながこんなに熱くなる機会は滅多にないように思います。そんな場にご一緒し、貴重な体験を共にさせていただけたことに深く感謝いたします。どうもありがとうございました。

先生から

アーティストの方に、力を存分に出していただき、それにより子どもたちのよさや力が少しでも伸ばせればよいと思い何年か実施してきましたが、今回は子どもたちの心が揺さぶられて、いろいろなことを感じていることが特に伝わってきてその点にも感動しました。アーティストの方と子どもたちとのコミュニケーションがうまくいったことが大きかったと思います。

子どもたちから

自分たちが描いた絵を見て即興で曲をつけてくれたことがすごいと思った。／いろいろな聴き方がわかった。／音楽を聴きながら絵を描いたことが思い出に残った。／中川さんの演奏がすばらしかった。／30 分の曲をおぼえてひいていてすごかった。／中川さんが一つ一つの音に気持ちをこめていることが感じとれた。その表情をはじめて近くで「生」で体験できた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立日限山小学校＋オフィスマキナ
みんなが持っている楽器「声」

担当アーティスト	山口佳子（声楽家）
実施校	横浜市立日限山小学校（港南区）
コーディネート	株式会社オフィスマキナ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／声楽／5 学年、3 学級、110 人
実施日程	2012 年 11 月 27 日、11 月 30 日、12 月 4 日

授業のねらい

子どもたち自身が、自分の持っている楽器である「声」の魅力に気づくことを目標とします。からだをほぐし、腹式呼吸を学び、全身を使って歌う楽しさや面白さを体験します。また、文部省唱歌を課題曲とし、日本語を丁寧に発音して、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら歌うことを学びます。

主な内容

（1 日目）講師によるミニコンサート（1、2、3、5 年生が鑑賞）・発声練習（2 日目）発声練習・歌唱練習（3 日目）発声練習・歌唱練習・クラスごとに課題曲を歌い聴き合う・卒業式の歌を練習

アーティストから

二年目という事で音楽専科の先生との連携もスムーズにいき、普段の授業の中でも充分に準備をしてくださったようです。子どもたちは非常にすんなりと授業内容を受け入れてくれました。発言や質問も次々に飛び出し、積極的に参加してくれたので声や歌い方にもすぐに変化が見られました。最終日に課題曲以外の曲にも今回は取り組みましたが、基礎を応用に生かせる力もついていることがわかりました。

コーディネーターから

からだを使って歌うってどんなこと？限られた時間で子どもたちにわかりやすく伝え、体験してもらうため、アーティストは毎回入念に準備をして臨んでいます。昨年に続いて 2 回目、今年の 5 年生も、皆最後まで一生懸命取り組んでいました。音楽の先生、担任の先生方の支えもあり、それがとてもいい形で子どもたちの背中を押しているようです。また、嬉しいことに、ワークショップとは別に、音楽室や教室、廊下などで声をかけてくれる子どもたちがいて、いろいろな質問をうけていました。

先生から

子どもたちは、今回の授業を大変心待ちにしていました。そして、子どもたちの期待を裏切らないすばらしい授業をしていただきました。プロの声楽家の力強さや美しさを敏感に感じ取り、感動していた様子です。声の出し方が分かるようになった、という子どもがたくさんいましたし、練習や努力を重ねることにより＜人間の声があのように素晴らしいものになる＞という事に気がついていました。今後もぜひ、この活動を継続していただき、歌の好きな子どもを増やしてほしいです。

子どもたちから

体を使って歌うのが楽しかった。／きれいな声を出せてよかった。／先生のきれいな歌声が思い出になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立白根小学校＋サンハート
ボディーパーカッションでリズムを楽しもう

担当アーティスト	山本愛香（ボディーパーカッショニスト）、藤井里佳（打楽器奏者）
実施校	横浜市立白根小学校（旭区）
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／ボディーパーカッション／4 学年、3 学級、100 人
実施日程	2013 年 2 月 1 日

授業のねらい

楽譜を読めなくても、楽器を演奏したことが無くても、音楽はこんなに楽しい！身近にある音楽の楽しさと、表現する事の重要さを、クラスメートと一緒に体験し、発表する。

主な内容

ボディーパーカッションに挑戦し、色々なリズムを体験し、全員で発表する。

アーティストから

サンハートの皆様の温かいおもてなし精神が本当に素晴らしく、気持ちよく演奏させていただく事ができました。学校関係者の皆様にもお喜び頂き、大変嬉しい限りです。子どもたちと一緒に創り上げた舞台、とても良い思い出となりました。

コーディネーターから

鑑賞型の授業という事だったが、小学校側の強い希望で、一日体験型のワークショップと発表会、さらに講師による特別コンサートという三本立てのプログラムとなった。ワークショップでは、身体の色々な部分を使ったパーカッション演奏の楽しさを体験し、さらに世界のリズム（サンバ、ロック、日本）を学んだりと、2 時間とは思えない程、大変内容の濃い、楽しいプログラムになった。また、学校側からの希望により、社会科見学も兼ね、サンハートのホールを使用して 実施した。児童に対し、ホールという特別な場所を見学し、そこで自らが発表するという経験も提供する事ができた。

先生から

限られた時間ではありましたが、アーティストのお二人の魅力に引き付けられ、生き生きと活動し、ボディパーカッションを楽しむ子どもたちの姿がみられました。10 歳を祝う会の中での発表や演奏は。子どもたちや保護者の方々にとっても思い出に残るものになったと思います。子どもたちのことを考え、長期間にわたり準備してきて下さったアーティストの山本さん、藤井さん、そしてサンハートの方々に大変感謝をしております。

子どもたちから

リコーダーで「つばさをください」がすごかった。楽器の演奏の仕方がすごかった。みんなで一つのことを作りあげるのは楽しかった。広いホールを使えたことが心に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立十日市場小学校＋横浜シティオペラ
オペラへの好奇心（２）

担当アーティスト	横浜シティオペラ
実施校	横浜市立十日市場小学校（緑区）
コーディネート	NPO 法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／全学年、6 学級、150 人
実施日程	2013 年 1 月 29 日

授業のねらい

オペラ鑑賞を間近で体験し、その素晴らしさや愉しさを知ってほしい。また今後の音楽表現や人間関係を創る助けになってくれることを望みます。

主な内容

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」ハイライト

アーティストから

鑑賞態度はとても良く、物語に興味を持ち、目を輝かせて観てくれていた。反応も良く出演者たちと共に喜び、共に笑ってくれた。オペラの後に生徒全員と出演者とで合唱をした時にも元気よく、明るい子どもたちに大変感動した。

コーディネーターから

舞台とは音響的に異なる体育館での公演でしたが、機械ではなく生の音を聞いてもらう事によって、毎回明らかに子どもたちの音への好奇心が増し、演技へ集中しているのが感じられました。これをきっかけに子どもたちがオペラというジャンルに対して親近感を持ってくれることと思います。

先生から

横浜シティオペラの方たちを紹介することができたのではないかと思います。今後は実際に体験しながら親しんでいけるような体験型のプログラムを実施してみたいと思いました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立山下小学校＋横浜みなとみらいホール
弦楽器の響きを味わう

担当アーティスト	清水詩織（東京都交響楽団チェロ奏者）、今泉真梨子（ピアニスト）
実施校	横浜市立山下小学校（緑区）
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／チェロ／5 学年、3 学級、90 人
実施日程	2012 年 11 月 9 日

授業のねらい

弦楽器の本物の響きを近くで味わう。

主な内容

チェロとピアノのコンサート、1 曲は児童と合唱で共演

アーティストから

緑区でのアウトリーチは、とても勉強と発見が多いものとなりました。各楽器紹介での反応、そして特にシューベルトの「ます」に関しては、子どもたちの記憶力と好奇心にびっくり致しました。合唱では、子どもたちとチェロとピアノが 1 つになった瞬間を肌で感じることが出来、弾きながらとても感動致しました。そして感想文では、チェロという楽器に興味を持ってくれた子どもたちがとても多かったので、大切な時間を共有出来たことを大変嬉しく思います。

コーディネーターから

先生からは当初ヴァイオリンでというご提案もあったが、「チェロ」で再提案した。結果的には大きな楽器という見た目のインパクトと技術、多様な表現力で、「チェロ」は正解だったと思う。ちなみに、「ます」は夏にレコード鑑賞でピアノ五重奏の演奏を聴いたということで演奏曲に歌曲の「ます」の編曲版を組み入れた。

先生から

チェロの音のひびきを体感できた。（ゆかからのひびき、楽器からのひびき）実際の音、演奏者とのやりとりで生まれる空間は、やはり子どもたちに直接感じるものがあり、よい経験になったと思う。今後もできれば多くの学年で体験させたいなどと思った。プログラム内容が考慮され、希望曲を取り入れて頂いたり、時間の配慮などして頂いたり、充実した授業となっていた。

子どもたちから

曲名をしっかり覚えている。楽器のひびき、ピアノのひびきのことがよくわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立桂台小学校＋横浜市芸術文化振興財団
ゴスペルの体験（２）

担当アーティスト	城田有子（ピアニスト／歌手／作曲家／編曲家／プロデューサー）、河原厚子（歌手）
実施校	横浜市立桂台小学校（栄区）
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ゴスペル／5 学年、2 学級、73 人
実施日程	2012 年 11 月 27 日、11 月 28 日、11 月 29 日

授業のねらい

身体をいっぱいに使って、声を出す心地よさを感じながら、クラスで１つの作品をつくりあげる過程を体験し、表現することの楽しさや音楽の豊かさを感じます。歌う曲は『アメージンググレース』。高学年になると苦手意識を持ちがちな「歌う」ことを、英語の歌詞を使うことで払拭していきます。また、各クラスの個性を発揮したアレンジに取り組み、最後にお互いのクラスの曲を聴きあうことで、音楽の持つ魅力に気づくことも目標とします。

主な内容

（1 日目）声を出すことへの抵抗感をなくすための練習をする、歌う曲の意味を知る（2 日目）クラスごとにアレンジを決めて、３日目の発表に向けて練習をする。（3 日目）リハーサルを行い、オープンスクールにてクラスごとに発表を行う。

アーティストから

今年で５年目の桂台小学校ですが、今回も素晴らしいパフォーマンスにメンバー一同感動させていただきました。そしてなぜだか、１組も２組もお芝居仕立てでした。とはいえ、中身は、ぜんぜん異なるもので、それぞれのアイディアが活かされ、現代社会の問題をしっかり子どもたちが見据えていて、その意識の高さに驚かされました。また、桂台小学校の子どもたちはみんな仲良しで、学校自体がとても暖かい時空間だと感じました。先生方もまっすぐ子どもたちと目線を合わせて話し合いをして、とても充実した３日間を過ごす事ができました。

コーディネーターから

発表会に向けて 2 日間、「アメージンググレース」の世界をどのように表現するのか講師と子どもたちでアイディアを考えました。内容に関して子どもたちもかなり悩む場面が見られましたが、講師が最後は必ず子ども自身が決定するようじっくり向き合ったため、子どもたち自身が納得のいく発表内容になったと感じました。内容は 2 クラスで違うものになりました。1 クラスは劇を加えながら世界観を表現。別のクラスはボディパーカッションを加え力強いアメージンググレースを表現しました。

先生から

どの先生方も、子どもたちの良さを見つけ、引き出そうとしてくださっている姿にとても感謝しました。また、自分たちの思いを形にしていくことやひとつにまとめ、高めていく技術の高さに驚きました。活動中は「今」「ここ」「生きる」など、たくさんの「生」のエネルギーを感じました。

子どもたちから

友だちとの絆が深められて思い出に残った。先生方の教え方が分かりやすかった。ほめてもらえて自信がついた。音楽はとても心をいやせるんだと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立上郷小学校＋子どもに音楽を
チェロとピアノの音色を楽しむ

担当アーティスト	古川展生（チェロ）、小森谷裕子（ピアノ）
実施校	横浜市立上郷小学校（栄区）
コーディネート	NPO 法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／5・6 学年、6 学級、196 人
実施日程	2012 年 11 月 1 日

授業のねらい

アーティストに間近に接し、演奏を聴いたり話を聞くことで、子どもたちに本物の音楽を身近に感じてもらう体験を希望、という学校側の意図を汲み、一方的な演奏会というのではなく演奏家自身のお話を交えてのコンサートにしたい。生徒数が多いので 40 分で 2 回の公演にした。

アーティストから

子どもたちはとても静かに聴いてくれて感心しました。質問も多く、チェロに興味を持ってくれた様に感じ嬉しく思いました。給食も美味しくいただくことができ、気持ちの良い活動をすることができました。

コーディネーターから

古いピアノだったが、何とか問題なく使うことができた。弦楽器にとっていつも気になる気候に関しては窓を少し開け丁度良い状態だった。古川さんが進行をして下さったが、時間配分内容とも申し分なかったと思う。校長先生のおっしゃる通りの素直な子どもたちで静かに聞いており、質問もたくさんあった。担当の先生は、コンサート前に曲が少し難しすぎるのでは…と心配されて、事前の授業で楽曲の説明などをしてくださっていたようだが、終わった後には「全く問題なかった」との感想を頂いた。

先生から

一流の演奏者の息づかいや身体の動きを含め、音楽の素晴らしさを感じることができるコンサートでした。子どもとのコラボ等はできませんでしたが、素晴らしい演奏でした。

子どもたちから

チェロとピアノのあいしょうがよかった。チェロでも色々な音が出せるんだと思った。チェロがかなりでかかったということが思い出に残った。音楽は素晴らしいものだと思い、音楽関係のものはなにか力があるのではないかと思いました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立小山台小学校＋リリス
歌を楽しもう！

担当アーティスト	前田進一郎（声楽家）、藤井麻理（ピアニスト）、中桐かなえ（声楽家）
実施校	横浜市立小山台小学校（栄区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／声楽／3・4 学年、2 学級、55 人
実施日程	2013 年 1 月 11 日、1 月 16 日、1 月 23 日

授業のねらい

普段身近に接する機会のないプロの声楽家による迫力ある音楽に触れることで、体中で音楽を感じ、音楽にのせて自分の思いを表現することを学ぶプログラムとする。歌を歌う楽しさや喜びを実感できるように、自らの体を動かしながら声を出すワークショップや、プロのアーティストとの共演プログラムなど、参加しながら音楽を学べる内容とする。なお、三日目には全校生徒の前でコンサートを予定。その際に、ワークショップで指導を受けた楽曲を披露する。

主な内容

（1 日目）ワークショップ（2 日目）ワークショップ（3 日目）コンサート

アーティストから

礼儀正しく元気で活気あふれる３、４年生の皆さんに迎えられ、とても有意義なワークショップでした。全体を通して感じたことは、授業や音楽を聞く姿勢がとても良く、またみんな歌がとても好きだという事です。また、１人１人が一生懸命に音楽に耳を傾けてくれるので、演奏もワークショップも非常にやりやすかったです。コンサートの最後にはサプライズで児童から歌のプレゼントがあり、驚きと感動で涙がこぼれそうでした。

コーディネーターから

アーティスト、学校ともに熱意をもって臨んでくれたため、気持ちが伝わるとても素晴らしい内容のワークショップ・コンサートとなった。やはり、子どもたちと直接触れ合うので、気持ちや熱意の部分というのは重要であると改めて感じた。また、経験豊富なアーティストだったため、当日も子どもたちの反応を見ながら、臨機応変に内容を変更していたことは、非常に勉強になった。事前に内容を詰めることは必要だが、ある程度アーティストにフリーハンドで委ねることもワークショップの内容を豊かにするのだと感じた。今後の参考にしたいと思う。

先生から

前田さんは子どもたちの様子を見ながらワークショップを進めて下さったので､最後まで集中して取り組むことができました。歌の実力だけでなく指導もお上手だと感じました。私自身の指導のふり返りにもなり、本当にやってよかったと思いました。次は歌以外の力にもふれあわせたいと思います。

子どもたちから

これからも前田さんにならった事を忘れずに歌いたい。／コンサートで一緒に歌った事。／すごい声で思い出に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立千秀小学校＋横浜シティオペラ
オペラへの好奇心（３）

担当アーティスト	横浜シティオペラ
実施校	横浜市立千秀小学校（栄区）
コーディネート	NPO 法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／全学年、6 学級、200 人
実施日程	2012 年 11 月 13 日

授業のねらい

オペラ鑑賞を間近で体験し、その素晴らしさや愉しさを知ってほしい。また今後の音楽表現や人間関係を創る助けになってくれることを望みます。

主な内容

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」ハイライト

アーティストから

鑑賞態度はとても良く、物語に興味を持ち、目を輝かせて観てくれていた。反応も良く出演者たちと共に喜び、共に笑ってくれた。オペラの後に質問コーナーを設けたが、大変多くの質問が寄せられ、子どもたちがおおいに好奇心を持ってくれたと感じました。

コーディネーターから

舞台とは音響的に異なる体育館での公演でしたが、機械ではなく生の音を聞いてもらう事によって、毎回明らかに子どもたちの音への好奇心が増し、演技へ集中しているのが感じられました。これをきっかけに子どもたちがオペラというジャンルに対して親近感を持ってくれることと思います。

先生から

本物の「オペラ」を鑑賞する機会は少ないと思うので、実際にパフォーマンスをしている姿を近くで見ることができてよかった。体育館という場所の為か、せっかくの歌も、何を言っているのか聞き取りづらい部分もあったが、ほとんどの子が知っている内容であったことと、途中のナレーションが入ることで、気にならなかった。時間もちょうどよく、子どもたちは最後まで集中して見ることができた。

子どもたちから

声がすきとおっていて、聞きやすかったです。声がすごくひびいていてすごかったです。初めてオペラを見て感動しました。私もあんな声が出せたらいいなと思いました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立豊田小学校＋横浜こどものひろば
ラテン音楽を楽しもう

担当アーティスト	古川はじめ、荒谷葉子、上村純（東京カンソン）
実施校	横浜市立豊田小学校（栄区）
コーディネート	NPO 法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ラテン音楽／4 学年、3 学級、102 人
実施日程	2012 年 11 月 16 日、11 月 21 日、11 月 27 日

授業のねらい

芸術文化の持つ創造性を通して、子どもたちが互いの力を認め合い伸ばしていく能力を育てる。学びの基礎づくりの中で発揮すること、コミュニケーション能力の育成など豊かな感性を育てる。

主な内容

（1 日目）ラテンリズムとパーカッションの体験。（2 日目）シェーカーを作って演奏してみよう。（3 日目）バンドのリズムに合わせてシェーカーを振りながら踊ってみよう。

アーティストから

普段から学校で目にしているラテン打楽器のほか、非常に特殊な物まで沢山の打楽器を持ち込んだ。それらの音色、出方、不思議な奏法に皆驚いていたのと同時に、叩けば鳴るということ、それぞれのリズムに合わせて様々なステップで踊るなど、音楽本来の楽しさを伝えることが出来たと思う。そして、積極的な子どもたちは、素手で叩けば鳴るのに、プロと自分が叩くのとでは全く音色が違うことを全員が感じただろう。本当に単純で簡単に見える職人技が実際に、そうはいかないことを四年生という年齢で体験できる数少ない方法だと考える。それは単純ではない音階楽器では、敷居が高く最初から手を伸ばさないから。

コーディネーターから

今年で 2 年続けての開催となった本プログラムは、2 年とはいえ積み重ねた分だけの成果を感じさせる取り組みとなった。それは学校の担当先生方とアーティストの信頼関係にも表れていて、お互いにもう一歩先に進みたいという授業への意欲に結びついていた。また、アーティスト自身も授業内容や進め方に工夫がなされていた。また、授業内容の進歩に呼応して生徒さんたちの反応も一層大きなものとなり、参観に見えていた保護者や大人たちを感動させたと思った。こうした取り組みが毎年積み重ねられることの大切さを感じさせられた取り組みでした。

先生から

2 年間続けて来校いただきました。昨年度もご自身の楽器を自由に触らせて下さったり、身近に関わって下さったりして子どもたちの学習意欲を引き出して下さいました。3 回のワークショップを子どもの側に立って進めて下さいました。生き生きと楽しく、ラストのコンサートではアーティストさんと子どもたちが一体となって盛り上がり、終了後もとても充実した気持ちになりました。3 回のワークショップにしてよかった。2 回だと時間的余裕がありませんでした。

子どもたちから

音楽を通して楽しく体を動かすこと。／ボーカルの人と一緒に楽しく唄ったことがとてもよかった。／ダンスもたのしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立東中田小学校＋テアトルフォンテ

うごいて、たたいて、つたえよう！～ボディーパーカッション～

担当アーティスト	峯崎圭輔（打楽器奏者）
実施校	横浜市立東中田小学校（泉区）
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／ボディーパーカッション／4 学年、3 学級、100 人
実施日程	2012 年 12 月 4 日、2013 年 1 月 17 日、2 月 14 日

授業のねらい

言語活動だけではなく、身体を使って気持ちを伝えることが出来れば言語表現の苦手な子にとって新たな体験となり豊かな気持ちを味わうことが出来る機会となる。1/2 成人式で（全体の場で）学んだことを発表できる内容を目指す。

主な内容

（1 日目）クラス別練習、ソロ前まで、ソロを次回までに考える宿題（2 日目）前クラス合同、学習参観、ソロ以降確認、決めポーズを宿題（3 日目）1/2 成人式本番、笑顔で「うごいて、たたいて、つたえよう！」

アーティストから

今回、リズムでアンサンブルをするということ、また、自らリズムや振り付けを考えるということで、一つのパートがもつ役割の「責任感」、音をひとつに揃えるための「協調性」、リズムを自分たちで考える「創作力」「想像力」また、叩く体の部位による音の違い、どこをどう叩くかなど「アイデア（発想力）」「発見」、そして、みんなでそれらを作り上げる、「チームワーク」など、様々なことを学ぶ機会にもなればと、ボディパーカッションという題材を選びました。本番の生徒たちのパフォーマンスは、とても勢いがあり、そして一体感を感じました。また独創的なソロや、元気で積極的な掛け声に、見ている私たちもとても嬉しくなりました。

コーディネーターから

プログラム名にもなっている「うごいて、たたいて、つたえよう！」は普段主として行なっている言葉によるコミュニケーション以外の方法の表現のこと。大昔から変わらずに受け継がれている動く、叩く、表情や言葉じゃない声などをフルに使う事で相手への伝える気持ちや気持ちをくみ取る実践につなげた。少ない回数で心を 1 つにして何かを成し遂げることはとても難しく、アーティストの魅力的な指導と回の間の期間、先生方のもと行なってきた宿題がしっかり発揮され、一丸となった心伝わる 1/2 の成人式となった。

先生から

身体を使って表現することの楽しさを教えていただけた。発言が苦手な子もいたので、そういった子たちもボディパーカッションで、みんなで表現することで、安心して取り組めた。全 3 回に渡る授業で子どもたちも継続して取り組むことができ、1 つの演奏を作り上げていく充実感があった。

子どもたちから

いろいろなことば(食べものなど)にもリズムがかくれていて、いろんなリズムを作れることが楽しかった。自分たちで作ったリズムで踊れて楽しかった。パフォーマンスを見て、バケツやフライパンが楽器になるのがすごいと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立美しが丘小学校＋よこはま音楽広場実行委員会
即興音楽を楽しむ

担当アーティスト	岡崎香奈（音楽療法・音楽教育）、松尾香織
実施校	横浜市立美しが丘小学校（青葉区）
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／即興音楽／6 学年、2 学級、65 人
実施日程	2012 年 12 月 12 日、2013 年 1 月 10 日

授業のねらい

ピアノやヴァイオリンを習っている児童は多いが、常に枠組みがある中での表現を求める傾向があり、それは教員にとっても共通してくることからも、即興のような瞬時に自己を音楽に反応させながら自己の表現を構築する体験は、いつもの音楽との関わり方からさらに自己表現の拡大が期待される。

主な内容

（1 日目）即興音楽について―ひとが表現するということ―音楽療法紹介、イメージを用いた即興音楽　など（2 日目）即興音楽について―ひとが表現するということ―　さまざまなリズムによる自己表現、即興音楽コミュニケーション　など

アーティストから

「普段と違う音楽体験を」というご要望を受け、2 回訪問しました。即興的音楽療法を紹介するコーナーでは、生徒たちは数分の映像から “即興音楽がなぜ効果的なのか” を的確に捉えて発言してくれ、 その素直な感受性に感激しました。 即興音楽を演奏するコーナーでは、静寂を聴くこと、音で自由に自己表現すること、 お互いの音を聴き合い、音でコミュニケーションすることなどに取り組み、生徒たちのエネルギッシュで多彩な音楽表現にこちらも大いに刺激を受けました。先生方にもご協力いただき、感謝しております。

コーディネーターから

事前リスニングで「知識偏重な傾向がある」とお話下さったことが発端となり今回の内容が決まりました。「どんな表現にも間違いはない」とお話され、一人一人の表現や発言を受容していく講師たちの一貫した姿勢が生徒の自己表現への防衛を弛め、思春期の生徒が自己のアイデンティティについて安全に探求できる契機にも繋がったと思います。 2 回の取り組みを通し、生徒のみならず担任教師の表現が伸びやかに変容していったことも印象に残っています。

先生から

色々なリズムパターンを体験することで、子どもたちが楽しみながら身体表現を経験し、次第に自己解放をしていく様子がみてとれました。また、自由に楽器を選び、思い切り音を出す自由即興体験は、「まちがいなどはない」という講師の先生の言葉にも後押しされ、生き生きと思いのままに表現し、活動そのものを楽しむことができたと思います。受験を控えた 6 年生が多かったのですが、とてもよい機会になったと思います。

子どもたちから

思い切り表現できて楽しかった。リズム体験が面白かった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立鴨志田第一小学校＋フィリアホール
声楽家との交流～歌を楽しむ～

担当アーティスト	宮本益光（オペラ歌手、声楽家、オペラ訳詞家）、高田恵子（ピアニスト）
実施校	横浜市立鴨志田第一小学校（青葉区）
コーディネート	青葉区民文化センターフィリアホール
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／声楽／6 学年、2 学級、49 人
実施日程	2012 年 9 月 14 日、10 月 2 日、10 月 10 日

授業のねらい

10/31 の鴨志田中学校・鴨志田緑小学校との 3 校合同の合唱祭に向けての合唱指導。発声や発音、曲や詩の具体的な解釈のほか、音楽全般、人間としての表現することの大切さなどを総合的に学び、満足感や一体感、自己有用感を味わえる授業を目指す。本校には 20 代～30 代前半の若い先生が非常に多く、この授業を通して彼らの指導者としての意識改善･改革を図るため、生徒に交じって多くの先生も受講予定である。

主な内容

（1 日目）自己紹介・演奏、合唱指導、発声や呼吸の基礎要素の確認（2 日目）合唱指導、キャリア教育、演奏（3 日目）本番を想定した合唱指導、自己トレーニング法

アーティストから

良い学校と子どもたちにめぐりあえて良かった。幸せな 3 日間だった。久しぶりのアウトリーチだったが、また機会があればやりたい。演奏家として、さまざまな場所で良い企画、演奏を数多く示していきたいと思う。

コーディネーターから

合唱指導やお話・演奏の中で、宮本氏のアーティストとしての覚悟・在り方にも触れることとなり、6 年生たち自らに何かを考えさせるきっかけづくりができたのではないかと思う。教職員、関係スタッフも貴重な経験ができた。

先生から

プロのオペラやピアノ演奏をあんなに間近で聴いたことがなかったので、子ども以上に感激してしまいました。腹式呼吸の仕方、「良い合唱とは？」を共有する方法、息を合わせるためのかんたんなゲーム、など実践を見せていただき、たくさん学ばせていただきました。また、「伸ばすところはただ伸ばすのではなく、音符の集合だと思うこと」など、具体的な声かけもすぐ実践できそうです。また、音楽的なこと以外でも、子どもとの接し方も上手で、そういったところも見習っていきたいと思いました。

子どもたちから

プロのオペラやピアノの演奏を聴けて「すごい！」と思った

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立川和小学校＋Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ
サンバのリズムを楽しもう

担当アーティスト	ＴＡＭＡＫＩ（スチィールパン奏者）
実施校	横浜市立川和小学校（都筑区）
コーディネート	企業組合Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／打楽器／4 学年、2 学級、52 人
実施日程	2012 年 12 月 17 日

授業のねらい

1 日鑑賞に体験も組み込んだプログラム。音楽に興味がわき作る音楽や手段について自分の考えや願いをもち見通しをもって活動できる。

主な内容

スチィールパン演奏の鑑賞と体験。様々なリズムで演奏してみる

アーティストから

サンバがテーマだった川和小学校４年生 52 名。聞く姿勢・手拍子の自然発生・話に対しての反応・ワークショップへの参加態度など、すべてパーフェクトだったと感じます。Steel Pan 体験(６名×３回)ではキラキラ星を練習、Steel Pan 体験できなかった子どもたちはシェイカーでサンバのリズムをドラマー佐藤由氏より学ぶ。練習後には全員で「サンバ de キラキラ星」を楽しみました。校歌もサンバ調にしたりと、テーマにそった演奏・体験ができたと感じます。

コーディネーターから

普段あまり実際に触れることが少ないスチィールパンで音を出す体験をしてもらいました。90 分の枠の中で鑑賞と体験でしたので全員に触ってもらうことは不可能でしたが、これからもいろんな楽器や音色に触れてより音楽への興味を持っていただけたらと思います。

先生から

リーダーの TAMAKI さんのトーク、そしてメンバーの演奏が大変素晴らしく、子どもたちも私もスチールパンの世界にどんどんひきこまれていきました。とても寒い日でしたが南国ムードあふれる音楽、スチールパンの音色は見た目のドラム缶とは異なりとても暖かく感じさせてくれるものでした。また実際にドラムにふれさせていただいて子どもたちはとてもうれしかったようです。

子どもたちから

スチールパンの音がきれいだった。スチールパンはピアノのように音が順番になっていないことにびっくりした。見て、きいて、演奏できて、楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽・ダンス」

横浜市立東俣野特別支援学校＋ＳＴスポット横浜
全体を感じる時間

担当アーティスト	石川高（笙、竿、排笙）、上村なおか（ダンサー・振付家）
実施校	横浜市立東俣野特別支援学校（戸塚区）
コーディネート	NPO 法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	体験型／笙／全学年、4 学級、30 人
実施日程	2012 年 12 月 5 日、12 月 7 日、12 月 19 日

授業のねらい

日常では触れる機会の少ない生の音楽を体験する。新たな物を受け入れる、という感受性を養ったり、今までとは違った「気づき」を体験する。継続して取り組むことで「経験」を積み重ね、子どもたち自身が豊か感じられる時間をつくりだす。

主な内容

（1 日目）小学部：楽器での即興演奏、日本古来の記譜法での作曲（2 日目）中学部・高等部：楽器での即興演奏、日本古来の記譜法での作曲（3 日目）全校でのコンサート、笙とダンスのコラボレーション

アーティストから

石川高：先生方が年月をかけて作りあげてきた、子どもたちの自己表現のための独創的な工夫に満ちあふれた学校でした。先生とご家族の愛に包まれて、明るく生きている彼らを観ていると、幸せとは何なのかを考えさせられます。3 回の演奏会を通して彼らと顔なじみになり、ストーリー的な展開のある音の世界を創ることができました。また、日本古来の記譜法を応用して、子どもたちの選んだ言葉で歌を作曲しました。共に音を響かせる瞬間に現われる笑顔の尊さに感動しながら、充実した時間をすごしました。素晴しい機会を与えていただき、本当に感謝しております。

上村なおか：あまり予備知識を入れすぎないで訪れた東俣野特別支援学校。学校全体にすでに緩やかに温かい空気が流れていた。石川高さんのやわらかな声と笙の響きが天井に昇ってから降ってきて子どもたちに触れてゆく。お互いが身体全体で聴いて、演奏して、歌って、そしてもしかして踊った。どこがどう、というより全体だった。そこにいる全員がその「全体」を味わっていたように思う。感じる、ということはきっとこういう事なんだろうな、と腑に落ちた。

コーディネーターから

重度重複障害のある子どもたちとの取り組みは、すべての感覚をひらいていくような時間となります。普段は見落とされてしまいそうな微細な表現や表出も、彼らと一緒に作品創作を行うときには、とても重要なものになります。笙は、その微細な表現や表出を際立たせ、ひとつの空間をつくりあげていきました。最終日には、ダンサーも参加し、身体や気配といったことも意識する時間となりました。

先生から

継続しての取組みということで子どもたちの中に、今回のプログラムが定着しているということを感じました。又、昨年度と違い、小グループの取り組み→全体の取り組み、という手順を踏んだことで、子どもたちも見通しを持って授業に参加していたようでした。又、ダンサーの参加があったことが更に充実した授業になったと思いました。是非とも来年度も継続した取り組みにして頂きたいです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立本郷特別支援学校＋リリス
管楽器を楽しむ

担当アーティスト	Big Boss Brass Quintet（金管楽器）
実施校	横浜市立本郷特別支援学校（栄区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／金管楽器／中学年、8 学級、50 人
実施日程	2012 年 11 月 2 日

授業のねらい

普段の生活ではなかなか触れることのない、プロの管楽器奏者の迫力ある演奏を観たり聴いたりすることで、音楽への興味・関心を深めることのできるプログラムとする。また、曲目は童謡や唱歌、アニメの歌などを中心に構成し、生徒がより親しみを持って鑑賞できる内容とする。さらに、歌や手拍子などで生徒にも演奏に参加してもらい、表現活動への興味・関心を深め、豊かな感性を養うことのできるプログラムとする。

アーティストから

生徒の皆さんの反応が非常に良く、演奏に合わせて歌ったり、手拍子をしたり、踊ったりと、生徒の皆さんも私たち出演者も、みんなで一緒に楽しむことのできたコンサートでした。会場は体育館でしたが、ステージを使用せずに生徒の皆さんと同じフロアで演奏したことで、より演奏を身近に感じてもらえたと思います。今後もこのような機会を通じて、普段はなかなか生の演奏に触れることの少ない子どもたちに、演奏を届けられる機会が増えて欲しいと感じました。

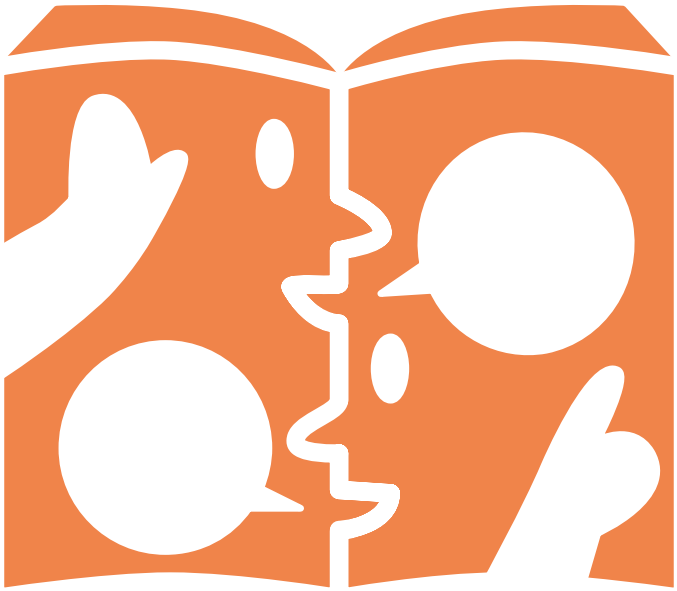
コーディネーターから

初めてお伺いする学校でしたので、学校側のご希望を出来る限り汲みとった内容にできるよう努めました。実施内容に関しては、こちらで開催可能なコンサート案を複数ご提案し、先生方に選択していただくかたちで具体的に内容を詰めていったので、ある程度ご希望に沿ったコンサートを実現できたと思います。生徒の皆さんの反応や表情から、演奏を心から楽しんでいるのが良く伝わってきました。演奏の合間のお話をどの程度の内容にとどめるかは、各学校によっても希望が異なりますが、今回のような特別支援学校の場合は、とくに先生方との丁寧な打合せが必要と感じました。

先生から

普段なかなか金管楽器に触れる機会のない子どもたちですが、今回は自分の学校という安心できる環境の中で、生の演奏を聴くことができ、とてもいい経験ができたと思います。ドラえもん、アンパンマンなど身近な曲を選曲していただいたおかげで、子どもたちそれぞれが心地の良い時間を過ごしていたようです。曲を聴いての楽しい気持ちからダンスを始めた子どもたちにも笑顔で対応してくださり、とてもありがたかったです。おかげで教員も子どもたちと一緒にゆったりと楽しいひとときを過ごすことができました。

演劇分野の取り組み



自分のからだを使って演じる「表現」と、相手の思いを受け止める「コミュニケーション」の二軸をもとにした活動です。
学習発表会などと連携して、学校の中にちいさな演劇空間を協力してつくりあげていきます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立青木小学校＋急な坂スタジオ
街とわたしをめぐる生活

担当アーティスト	武田力（俳優）
実施校	横浜市立青木小学校（神奈川区）
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間（横浜の時間）
実施概要	体験型／身体表現／6 学年、3 学級、102 人
実施日程	2012 年 10 月 29 日、10 月 30 日、10 月 31 日、11 月 1 日

授業のねらい

小学校での最終学年をむかえ、これから子どもたちを取り巻く社会はどんどんと広がっていく、と同時に育ってきた土地とは間遠くなっていくだろう。　現在、土地と密接な関係を保っている子どもの尺度で、ここに世界をつくろうとしたとき。しかもそこには砂以外になにもない、ゼロからのスタートだとしたら。「どんな世界を生み出したい？」それは結果的に、わたしたちのつくってきた世界の、ひとつひとつを問うことにもなる。砂場にあらわれるのは、世界のこれからのものがたり。

主な内容

（1 日目）1 組の砂場での活動（2 日目）2 組の砂場での活動＋1 組のインタビュー撮影（3 日目）3 組の砂場での活動＋2 組のインタビュー撮影（4 日目）3 組のインタビュー撮影

アーティストから

「70 年後の青木町をつくろう」と砂場に現れた街は、同じ小学校でもクラスによってその過程も出来上がりもずいぶんと異なっていて、クラスもまた集団として様々な了解事項や経験を経た上に出来上がる、いわば「ちいさな王国」でした。子どもたちはこれからも生活の様々な場面において、多様な「ちいさな王国」に接し、関与し、その経験からこれまでの王国を取捨選択したり、咀嚼したりしながら、いずれ自身の「ちいさな王国」をつくる。それはいうなれば価値観や信念で。実際の街も、日本という国も、それが元につくり上げられていくのだなと感じました。

コーディネーターから

学校でおもちゃを集めていただいたり、砂場におもちゃを持ち込んだり水を流しいれたりと、先生方のご協力なしには実現できない内容でした。また、総合的な学習の時間の年間の活動テーマと関連した取り組みを行うことで、ほかの学校行事や授業とも連動した、単発で終らない活動となったことが印象的でした。子どもたちは、砂場の中の世界に自分の居場所を見つけて、また、それを実生活に持ち帰って、そして、インタビューにこたえて、自分なりのものがたりを生み出してくれたのではないかと感じました。

先生から

青木のまちをつくりながら、自分をみつめ直していくことができた。土に触れながら、感覚を通して、自分のことを考え、感じさせ、子どもの自己肯定感を味わわせていた。表現は、様々な体験をつなぎ合わせ、自分のよさを出すとてもよいことである。子どもたちは、絵や造形物から、感じ判断し行動している。文字からの情報以前は、絵や造形物から伝わっていたので、この方法はとても有効的であった。

子どもたちから

将来、この青木のまちが、どんな発展をしていくのか考えられた。未来のまちを考えるきっかけとなった。生活感あふれるところや現実離れしているところもあって楽しかった。いろいろなことを感じ、将来を想像することが楽しかったです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立神大寺小学校＋Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ

身体でおしゃべり！！パントマイムで学ぶコミュニケーション力！！

担当アーティスト	カンジヤマ・マイムＢ（パントマイミスト）
実施校	横浜市立神大寺小学校（神奈川区）
コーディネート	企業組合Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／パントマイム／4 学年、4 学級、130 人
実施日程	2012 年 11 月 26 日、11 月 27 日

授業のねらい

身体で表現することの楽しさを体験する。身体を動かしながら友達と関わることで、言葉だけに頼らない表現力・コミュニケーション能力を育てる。

主な内容

（1 日目）講師のパントマイムを観る。演技を実際にやってみる。人文字や大縄跳びのような全員で気持ちを合わせる動き、伝言ゲームのような自分の感じたことを友達に表現で伝える。伝え方を工夫する。：4、1 組（2 日目）講師のパントマイムを観る。演技を実際にやってみる。人文字や大縄跳びのような全員で気持ちを合わせる動き、伝言ゲームのような自分の感じたことを友達に表現で伝える。伝え方を工夫する。：3、2 組

アーティストから

パントマイムに代表される『カベ』『ロープ』などは、表面的な演技だと思われるかもしれませんが、実はそれを見せるには、自分が想像して信じなければ相手には伝わりません。今回のワークショップでは、更に相手の立場になって考え、優しく丁寧に動きにして伝える事。これに重点をおきました。今後この経験を活かして、自分と相手との関係性をより一層深めて、楽しい学校生活をおくって頂けたらと思います。

コーディネーターから

言葉に頼らず表現するテーマでパントマイムを企画しました。1 クラス 90 分という限られた時間のなかで、子どもたちは、講師の身体の表現力に驚嘆し、集中して意欲的に取り込みました。表現の伝言ゲームでは発表する子に「ゆっくりやればわかるよ！伝わるよ！」という声が子どもたちの間から聞こえてきて、こちらが感動しました。想像力豊かな素晴らしい神大寺小 4 年生でした。

先生から

子どもたちにとって、パントマイムは、聞いたことがあるものだったので、とても興味をもって、取り組んでいた。アーティストの方が見せて下さったパントマイムに感動して、自分もやりたいという気持ちを持って、いろんな活動に楽しく参加できていた。アーティストの方も、子どもたちの反応を見て、やり方を工夫して下さったようで、あっという間の 2 時間だった。普段できない体験ができる芸術体験はとてもよい経験となり、どの子も楽しく参加できた。また、身体で伝え合うという活動を通して、相手を思いやる気持ちの大切さが実感できた。今後もこのような体験ができる機会に多く触れさせたい。

子どもたちから

最初は、こんな難しいのができるのかなと思ったけれど、とても楽しんでできた。ダンスが好きになった。分かりやすく教えてくれたので楽しかった。ロボットダンスのプロになれるように練習する。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立坂本小学校＋Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ
パペットをつくる、演じる（１）

担当アーティスト	中村信子（人形劇俳優・美術家）
実施校	横浜市立坂本小学校（保土ヶ谷区）
コーディネート	企業組合Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／パペット／3 学年、3 学級、101 人
実施日程	2012 年 11 月 6 日、11 月 7 日、11 月 8 日

授業のねらい

世界に１つの自分のパペットを使って、自分の思いを持ち、自分の言葉で表現する楽しさを味わえればよいと思う。友達の表現の良さや楽しさに気づきお互いの良さをさらに感じあうことができればと思う。

主な内容

（1 日目）パペット制作（2 日目）操演①班ごとでパペットを動かしてみる（3 日目）操演②班ごとでパペットを与えられたテーマに沿って動かしてみる

アーティストから

これまで毎年伺えて、私としても大変意義深い活動になっています。パペットは、他者と、助けあい、相手を感じながら伝えあうコミュニケーションの一種であると感じていただく体験であればと願っています。

コーディネーターから

継続校として学校行事を視野に入れた事業となっている。先生方も指針をもって取り組んでいただいているので進行もスムーズでした。制作時もオープンスクールで保護者の参観も自由。保護者の方にも普段の教科と違う子どもたちの姿を見ていただけたと思います。ただ 6 時間目まである日が週 1 回しかなく時間数確保が課題です。

先生から

丁寧に指導していただき、どの子も満足のいくパペットを作ることができました。校外の先生に指導していただき心を豊かにしていくきっかけとなりました。

子どもたちから

やさしくおしえてもらって、劇もうまくできたので感謝。パペットはおもしろかったし、動かしてみて大変な思いをしているんだなと、感じました。僕は、劇というものがどれだけすばらしいものかわかりました。影絵やほかの劇もやってみたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立屏風浦小学校＋杉田劇場
心をひらこう

担当アーティスト	団のぼる（演出家・役者）
実施校	横浜市立屏風浦小学校（磯子区）
コーディネート	磯子区民文化センター杉田劇場
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／演劇／4 学年、3 学級、98 人
実施日程	2012 年 9 月 18 日、9 月 19 日、9 月 20 日

授業のねらい

ほかの学年の子たちと比べて、声が小さかったり、おとなしい学年の為、発声や表現を身につけることによって、自己表現を出せるようになってもらいたい。

主な内容

（1 コマ）体をゆすって心を探そう（2 コマ）声を出しながら一歩前に心を開いてみよう

アーティストから

始め他人に無頓着にさわぎ走る子どもたちはやがて向かい合う私たちの姿勢でぐんぐんと変化し成長していきます。演劇の持つ力の大切さ、演劇を続けてきた私たちを受け入れてくれる子どもたちを肌身に感じながら楽しい時間を持て良かったと感じています。給食を一緒に頂きながらあわただしい教育の現場も垣間見れ、改めて人間の心にかかわる演劇をもっともっと広めていく必要を痛感いたしました。

コーディネーターから

初めは恥ずかしがって小さな声で話していた生徒たちも、団さんの話を聞いて、体を動かして行くに連れてだんだんと自分から色々表現していくようになりました。また、積極的に話を聞いていく様になり、指導を通して成長する過程を見ることが出来た。3 日間、という短い時間ではありましたが、子どもたちと接することによって、どのように子ども向け企画に繋げられるかを考えさせられました。

先生から

クラスごとに楽しく活動していたのはよい体験でした。もう少し、計画的に進められれば良かったと思います。(時間がどうしても限定されてしまうので。)※教員以外の芸術家の方の人格に触れることができて子どもにとってはよい機会だったと思います。勉強になりました。

子どもたちから

心を大切にすること／演劇に興味をもった／一人ひとりの心がちがうこと／劇を見てみたい

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立下田小学校＋Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ
パペットをつくる、演じる（２）

担当アーティスト	中村信子（人形劇俳優・美術家）
実施校	横浜市立下田小学校（港北区）
コーディネート	企業組合Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／パペット／2 学年、3 学級、97 人
実施日程	2012 年 10 月 23 日、10 月 25 日、10 月 30 日

授業のねらい

自分なりの発想で作った作品で演じあう体験を通じて友達の良さを知ること、コミュニケーション力、表現力をたかめたい。何事にもいききと活動できる子どもたちの育成をめざすための１つの活動にしたい。

主な内容

（1 日目）1 組・2 組パペット制作（2 日目）3 組・パペット制作／　1 組・2 組・3 組グループで操演①（3 日目）1 組・2 組・3 組　グループで操演②

アーティストから

通常は３年生で行うプログラムでしたが､少ない時間のなかで、ある程度集中して取り組んでいただけたと思います。今後、パペットを通常の活動の中で何かの折に使ってみていただけるとまた新しい発見があると思います。

コーディネーターから

振り返りで､2 年生の図工にある「工夫してつくろう」があり、パペットを経験したことで技術の引き出しが増えた。普段班の中でおとなしい子が活動でき、舞台を使った演技は国語で生かせると感じたなど感想をいただきました。

先生から

全体を通じて、とても意義深い活動になったと思います。自分たちでお気に入りのパペットを作り、実際に演じる授業は、2 年生にとって本当によい経験となりました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立平戸台小学校＋ＳＴスポット横浜
むかしむかしのものがたり

担当アーティスト	倉品淳子（俳優）
実施校	横浜市立平戸台小学校（戸塚区）
コーディネート	NPO 法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	国語
実施概要	体験型／身体表現／1 学年、2 学級、37 人
実施日程	2012 年 11 月 27 日、12 月 3 日、12 月 10 日、12 月 13 日

授業のねらい

自分のからだを使っての表現活動を通し、友達とつながり、相手の思いを受け止めるコミュニケーション能力を高める。

主な内容

（1 日目）コミュニケーションゲームを通じての体ほぐし（2 日目）国語教材をもとにグループに分かれて場面をつくる（3 日目）擬音や指人形を使って、様々な表現に親しむ（4 日目）構成を考えて、クラスごとに発表する

アーティストから

みんな本当にゲキ遊びが大好きで、私たちも思いつかないようなびっくりするアイデアをたくさん出してくれました。今回の題材である日本古来の童話は、起承転結のアーチがしっかりしていて、題材や登場人物が魅力的なので、どう飛躍して演じても本質を外れない素晴らしい素材でした。演劇は「相談の芸術」だと思います。創造の過程を見ていて、みんなで相談しあってひとつの作品を作ることは、演劇を学校の授業でやるひとつの意義なのだと感じました。

コーディネーターから

国語の教科書における物語について、アーティストと先生が話し合いながら活動をつくりあげることができました。物語を単になぞるだけではなく、子どもたちが自分で考え、創造し、表現することを通して、より深く物語をつきあうこととなりました。また、学校の中で幕や箱馬などを使って、劇場空間につくり出しました。子どもたちが自分の頭で考え、たくさん相談し、試して、挑戦した時間となりました。

先生から

今回、国語の学習「昔話がいっぱい」1 年とタイアップさせ行うことができ、可能性を広げることができたと思います。計画の段階から一緒に考え、授業を創っていけたことがとてもよかったと思っています。劇遊びは豊かなイメージを育むことができる活動だと思います。現在青少年をめぐる暗いニュースが多い中、相手の気持ちを考えたり、思ったりする想像力が大変重要になってくると思います。共通のイメージを持って、心も言葉も身体も総動員して集団で遊ぶ「劇遊び」の活動は、生きる力の基礎として学習内容に取り入れていく必要があると思います。そしてこのようにプロの方に教えていただける機会をもつことができ大変感謝しています。アーティストの方もスタッフの方もとても熱心に対応していただき子どもたち共々本当に幸せに思っています。

子どもたちから

劇のやりかたが分かってどんどんできました。はじめて劇ができてうれしかった。劇のことをしゃべったりうごかないでやって幕があいてみせたのが楽しかった。みんなと一生懸命にやって、本番も成功したけど、みんなも頑張って成功しました。わたしもみんなに負けません。わたしは劇で大きな声で言うことができました。さるかにばなしの柿がぶつかったことが楽しかったです。つみきで家とかをつくったのが難しかったです。これから、わたしは勉強を頑張りたいです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立深谷小学校＋アートの時間
身体で表現！「モチモチの木」

担当アーティスト	柏木陽（俳優・演出家）
実施校	横浜市立深谷小学校（戸塚区）
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／演劇／3 学年、2 学級、60 人
実施日程	2013 年 2 月 6 日、2 月 15 日、2 月 21 日

授業のねらい

3 年生の総合の時間では畑で白菜作りを体験し、資料館の見学や地域の高齢者から昔のくらし、昔の遊びを学ぶ。その学びの延長として国語の「モチモチの木」を自分たちの身体で表現してみることで、より物語への理解を深めたい。また、子どもたちが、このプログラムを通して、日々の学習では得られない自分の姿と友達の姿を理解し合い、学び合える態度を育てるきっかけとする。

主な内容

（1 日目）講師とのコミュニケーションを図る。演劇を行うためのルールをゲームを通して伝える。（2 日目）「モチモチの木」の場面を区切り、身体で表現。（3 日目）表現を深め、発表。

アーティストから

深谷小に限らず、学校現場は年々先生対子ども、子ども同士、コンセンサスをとることが難しくなってきていると感じています。子どもたちの想像力の射程範囲が狭く、提言、苦言が耳に入っていかない。私たち外部の者が先生と同じことをしゃべったり、同じ問題をつきつけたりと、価値観を対峙することで、少しでも、先生のおっしゃることが子どもたちに伝わりやすくなればよいなぁと思います。やんちゃな分、ポテンシャルは高いと感じるだけに、もっと、ほめたかった、もっとほめさせてほしかった。認められた後に出てくる表現はどんなに素晴らしいだろうと期待させられる子どもたちだった。

コーディネーターから

かまどって？なんのために湯を沸かしていると思う？実を臼ですりつぶすには？「霜が足にかみつく」とはどんな感じだろう？「昔のくらし」の調べ学習、畑での白菜づくり体験から、文字で具体的に書かれていない部分までも丁寧に表現できました。3 年で別々に学んだことを、自分の体を通してひとつにして表現するという 2 月にふさわしいプログラムとなりました。特別支援学級の先生から、クラスに戻ってからも「モチモチの木」ごっこを皆でやってますよと伺い、3 日間だけにとどまらず広がりをみせていることもうれしいです。

先生から

学校の授業にも通じる点が多く、勉強になった。アーティストさんの子どもへの接し方や声のかけ方は全体の雰囲気を大切にしながら、個々へ必要なアドバイスをしているようで、子どもたちの意欲が接続でき、とてもよかった。

子どもたちから

「すごいね、この手」とほめられてうれしかった。グループの友達と協力できて楽しかった。「だるまさんがころんだ」が楽しかった。「モチモチの木」の動作をつくったのが楽しかった。全部のグループを続けてみたらすごいと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立港南台第一小学校＋横浜こどものひろば

椋鳩十「大造じいさんとガン」「わらぐつの中の神様」「百年後の村を守る」の劇づくり

担当アーティスト	望月純吉（文学座　演出家）
実施校	横浜市立港南台第一小学校（港南区）
コーディネート	NPO 法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	国語、音楽、総合的な学習の時間
実施概要	体験型／身体表現／5 学年、3 学級、113 人
実施日程	2012 年 10 月 16 日、10 月 23 日、10 月 30 日、11 月 6 日、11 月 12 日

授業のねらい

５年生の国語の教科書に載っている作品を劇にして上演する活動を通して、友だち同士はもとより、多くの方々と触れ合うことで、表現する楽しさと、コミュニケーション能力が育てることに繋がっていけるようにしたい。

主な内容

（1 日目）どんな話かを読んでみた。（2 日目）舞台の上で演じてみた。おおよその動きを決めた。（3 日目）歌の練習などを含めて、各場面を丁寧に作った。（4 日目）それぞれの劇を通しで練習をした。小道具を作った。（5 日目）本番前にリハーサルし、発表した。

アーティストから

担任教諭の意欲やコミュニケーション力で作成進行の違いがでる。子どもたちは皆、本当はやりたいのであるが、恥ずかしさや、雰囲気の違いなどを敏感に察知して表現できずに終わってしまうこともある。子どもたちのルールありきの上での自由な表現を支えるのは担任の先生の言葉だと、改めて痛感した。今回は制作途中で若い先生が指導力を発揮し、子どもが先生の言うことを聞くようになった。先生が先頭に立ち子どもの創作を支えるという、理想的な展開になった。教諭も多くのことを実感できたのではないかと思う。

コーディネーターから

第一日目、第三日目、第五日目に参加したが、日を重ねることにより、まるで見違えたかのように、子どもたちがいきいきとしていたことが印象的。今回は望月氏が許す限りのスケジュールを提供して頂き、先生方と共にどこを目標にして行くかを丁寧に進められたと感じました。発表当日は地域の方々にお客様として来て頂き、上演後、拍手を受けてはにかむ子どもたちの顔が明るかった。

先生から

演出家というみ力的な職業に子どもたちも教員もふれ合うことができた。望月さんは、とても子どもの扱いが上手で、無理なことを要求することもなく、自由にのびのび育ててもらった。いつも笑顔でやさしい方で、小学校に向いていると感じた。劇は好きで何回か指導したことはあったが、やはりプロの方に指導していただき、舞台への乗せ方や全員が動作に意識して演じることなど、たくさん教えていただき感謝しています。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立鴨居小学校＋横浜こどものひろば
表現あそび　ー楽しんで自分たちを表現するー

担当アーティスト	中市真帆（表現活動講師、演出家）
実施校	横浜市立鴨居小学校（緑区）
コーディネート	NPO 法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	生活、国語
実施概要	鑑賞型／身体表現／2 学年、3 学級、86 人
実施日程	2012 年 11 月 26 日

授業のねらい

自己肯定感が低いと見受けられる子が多く、楽しさの中で自分を表現できることを目標とする。その点を中心に考え、非日常的な出会いの場としての表現あそびの手法を用いて、からだを動かしながら、絵本を題材にした物語的要素を取り入れる。

主な内容

『表現と自発性』　乳幼児期の野放図な表現を卒業した小学生たちの、自発的な（楽しさを伴う）表現の時間をイメージした。

アーティストから

『ジャンケンゲーム』は、相手の様子を見ないと声や手をかけられないし、『身体で字を！』は、イメージを身振りや言語で伝えなければならない。『ライオンとラクダ』は、足の踏み出しと共に心が動いてくれたと思いました。動かされるのではなく、つい動いてしまう楽しさと、それをを共感出来る相手がいる幸せを体感出来た時間になれていたら幸せです。アクティブな彼らに感謝！

コーディネーターから

中市真帆さんから子どもたちへ、わずか数分の言葉かけで既にお尻がぴょんぴょんし始める子どもたち。みんなと楽しいと感じるにはルールがあることや、「もしかして今日の様な、表現することが好きではにと思う人もいるでしょう。でも、一度もやらずに嫌いになってしまうことはもったいない、だから今日は一緒にやってみよう！」と話しかけ、ジャンケンゲームに入っていった時には、もう中市真帆の時間を安心してあそぶ子どもたちの姿があり、また『ライオンとラクダ』ゲームでは捕まりたくない一心でルールからはみ出すのも子どもらしく、素敵な自分たちを表現する 2 年生に出会えました。

先生から

みんなで遊ぶ方法のバラエティの豊かなことに感動した。私たちは、ドッジボールをしようとか、声をかけるが、遊びには運動の技能が伴わなくても、全員が楽しみにできるものがあることを再確認させられた。やっぱり鬼ごっこ類はシンプルでわかりやすく、わくわくして面白い遊びだなぁと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇・音楽」

横浜市立浦舟特別支援学校＋ＳＴスポット横浜
話して、作って、やってみる

担当アーティスト	柏木陽（俳優・演出家）、片岡祐介（打楽器奏者、作曲家）
実施校	横浜市立浦舟特別支援学校（南区）
コーディネート	NPO 法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	体験型／創作／全学年 18 人
実施日程	2012 年 10 月 30 日、10 月 31 日、11 月 20 日、11 月 28 日

授業のねらい

入院・療養中の児童生徒が通う学校において、演劇と音楽を通じて、話し合い、自分の思いを伝え合うことや、身体感覚を重視したコミュニケーションの豊かさを学ぶ。

主な内容

（横浜市立大学付属病院院内学級）主に楽器での即興演奏、子どもたちから出てきたアイデアをもとにした作曲。（本校）サウンドオブミュージックをもとに院内学級でできた曲も含めた演劇づくり。

アーティストから

柏木陽：ストーリーを考え演じてみる、そんなことになんの意味があるのか。人は案外納得しないことは出来ない。彼らは戸惑い、不安に思いながらおずおずと手を伸ばし自分たちで意味を見出していった。演劇に出来ることがあるか分からないが、彼らは演劇に命を吹き込んでくれた。感謝しかない。
片岡祐介：劇中、歌うことが禁じられている場所「ダークナイト」から逃げてきた子どもたちは、声なき声があっという間に空気を震わせる「エアーうた」を歌い、故郷へ帰ることを決意する。そうか。歌とは希望のことなんだった。ミュージカルの発表を見て、僕もこの子たちについて行きたくなった。新しい調和のかたちを夢みて。

コーディネーターから

院内学級と本校の二か所での活動を行いました。院内学級は、医療と教育がまじりあっている子どもたちにとっての生活の場所であり、その時に居合わせた子どもたちとの創作は一期一会のものとなりました。本校では、院内学級でできた曲「エアーうた」や自分たちの自己紹介の曲「自己紹介ソング」を入れ込んだミュージカルをつくりました。自分のやりたいこと、みんなでやると楽しいこと、ひとつひとつ相談しながら作品をつくることができました。

先生から

横浜市立大学付属病院院内学級：今回の授業は、前日まで授業ができるかどうかという不安な状態と、子どもたちも集合授業をしていなかったため、子どもたち同士のつながりもコミュニケーションもとれていない状態でした。準備も素地つくりもできていないので、かなり不安でした。アーティスト（片岡さん）の誘導で、子どもたちが片岡さんの鳴らす音を聞き、どうするの？？？と思いながらも楽器を鳴らしている姿に、体力の心配はありましたが何とかなるかと安堵しました。楽器の音でコミュニケーションをとることが自然に伝わり、なんとなく楽器を鳴らし、また、「ドレミ・・・って鳴らすんだよ」と、自分は鳴らさないのに鳴らしている子どもに助言している子もいたり・・・。こちらが強引に誘導するのではなく、リズムを投げかけて「待つ」という姿勢から、子どもが表現する偶然の音楽をひろい、つなげ、音楽（うた）にしていく流れに感心しました。もとになるフレーズは片岡さんのものであっても、感じたことや考えたことが吸い上げられ、言葉がホワイトボードに書かれてメロディー（音符）になると、子どもの表情が生き生きとしてくるのがわかりました。嬉しい、楽しい、ちょっと恥ずかしい・・・いろいろな気持ちがまざって、みんなの感じたことや考えたことがひとつの歌になったということが、その場で目に見える達成感として得られたことは素晴らしい体験でした。今後、また自分たちで達成感を得られるように表現していきたいと思っています。いろいろなエッセンスをいただきました。子どもたちから出てくる素朴な表現をつなげて創作活動をしていこうと感じることができました。また、授業を行いにきていただきたいと思っています。そのたびごとに子どもたちが違う教室です。その、一期一会にも近い集団で一つのものを作り上げる喜びをまた感じたいです。
本校：最初は緊張気味だった児童生徒も、親しみやすい講師の先生のリードで大いに楽しんで活動できました。子どもの個性を最大限尊重して「表現」につなげていただきました。例えば、通常では直すよう指導される言葉遣いや態度なども、否定されず「演じる」ことに昇華されました。その体験は子どもにとってとても新鮮に感じたようです。自分に合った役割を演じ、一つの舞台を作れたことで、自己有用感も高められたのではないかと感じました。

子どもたちから

5 年ぶりにみんなで歌をうたって昔のことを思い出した／自分のせりふがたのしかった／自分の歌ができて思い出になった／劇をしたこと／おっちゃんと兄さがおもしろかった／厳しい先生がくるのかと思ったら楽しい人で安心できた／3 日間の間にうたったり劇の練習ができてよかった／また先生に来てほしい./劇はみることが多かったのですが、やるのもすごく楽しいんだなあと思った。／自分の発した何気ない言葉が自己紹介そんぐとしてできてうれしい。

ダンス分野の取り組み

言葉や文字にならない何かをからだで表現するダンス。
自分のいる空間をしっかり把握して、まずはからだをうごかしてみるところからはじめます。五感を研ぎ澄ませて、身体感覚の大切さを体験します。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立山王台小学校＋杉田劇場
ステップアップスクール

担当アーティスト	大島おりえ（ダンサー、振付師）
実施校	横浜市立山王台小学校（磯子区）
コーディネート	磯子区民文化センター杉田劇場
実施科目・教科名	クラブ活動
実施概要	体験型／ダンス／4～6 学年、ダンスクラブ、25 人
実施日程	2012 年 11 月 15 日、2013 年 1 月 14 日、2 月 14 日、3 月 1 日

授業のねらい

練習回数も少なく、専門的な指導ができていないので、基礎や基本的な動きを教えて欲しい。（追加：短い曲 1 曲振り付けして欲しい）

主な内容

（1 日目）ウォーミングアップの仕方、ダウンのアップのリズムの取り方、フィオーメーションの動き（2 日目）ウォーミングアップ～前回のおさらい、振り付け（3 日目）前回のおさらい～その先の振り付け（4 日目）ミニ発表会の見学

アーティストから

三日間という短い期間で､生徒たちはよく頑張ってくれました。集中力のない生徒には厳しくしましたが、最後までついてきてくれて良かったです。レベルの差もありましたが、教えあったり、協力しながら自主練習をしてくれて、私もやり甲斐を感じました。最後に発表会を見て感じたのは、ダンス部員は人気があるという事でした。お友達が沢山応援に来てくれていて、生徒たちも嬉しそうでした。技術的にレベルアップするには時間が足りませんでしたが、一つの作品を作る為にはチームワークが大切！という事は、最後に伝えられ、生徒たちも頷きながら聞いてくれていました。ダンスだけでなく、色々な事で助け合いは必要なので､少しでも心に響いていてくれたら嬉しいです。また機会があれば、もっともっと色々な事を伝えてあげたいと思います。

コーディネーターから

月 1 回というごく限られた時間に短時間で行なわれるので、1 回 1 回無駄な時間がもったいなかった。今まで、ちゃんとしたダンスレッスンは受けたことがない子どもたちが大半なので、参考になったと思う。ダンススタジオのような設備が整ったところではないので、色々苦労しながら教えていたが、子どもの心を掴んで、しっかりと指導をして頂けて助かりました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立小雀小学校＋ＳＴスポット横浜
生き物の 10 年を踊ってみる

担当アーティスト	福留麻里（ダンサー・振付家）
実施校	横浜市立小雀小学校（戸塚区）
コーディネート	NPO 法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／4 学年、2 学級、58 人
実施日程	2013 年 2 月 18 日、2 月 20 日、2 月 22 日

授業のねらい

2 分の 1 成人式にむけて、ダンスの小作品をつくる。元気いっぱいの子どもたちとともに身体を十分な動かして活動を行う。

主な内容

（1 日目）体をほぐしながらダンスを体感する（2 日目）クラスごとにテーマをもって、表現に挑戦（3 日目）前回つくったものを組み合わせて、4 年生としての作品を構成。

アーティストから

2 分の 1 成人式でのダンスは、10 歳というたった今の自分／自分たちだから出来ることに思い切り向かっていく時間にしたいと思いました。練習過程のある場面で「人生で一番小さくなってみて！」と投げかけたのですが、そうしたら、それまでそれぞれ個性ある動きが出始めていたのに、急に全員同じ形になってしまったのです！選んだ言葉や伝え方のつたなさを感じると同時に、大人の言葉や態度や期待（されてそうなこと）に瞬間的に反応し、半ば自然に自分や周りと調整し合って、学校という特殊な環境を生き抜いている！子どもたちのそんな姿を目の当たりにしたようでもありました。ダンスは、その外側にいる自分／自分たちを発見する入口になるはず！ということを改めて考えながら、その後の子どもたちとの時間を過ごしました。

コーディネーターから

4 年生 10 歳の子どもたちとのダンスづくり。最初はどんな風に関わったらいいのか、どんなことをしたらいいのか、戸惑いがちに始まりました。しかし、身体を動かすことを通して、普段の慣れている言葉から離れて表現することを、だんだんと楽しんでいったように感じられましたクラスごとに成長をイメージした小作品をつくり、最終的に構成するときには、お互いの表現の違いを味わうことができました。

先生から

順序立てて、分かりやすい授業であった。もっと子どもたちが、はずかしがって体が動かないかと思ったが意外と上手に体全体をつかって表現した。2 クラス合わせたところからは、学年が一体となり、みんなで気持ちを合わせて表現していた。寒い体育館であったが子どもたちもよくがんばっていた。

子どもたちから

皆で協力できたことがよかった。一生に一度の「2 分の 1 成人式」で、楽しいダンスを踊れて嬉しかった。生まれて初めてのダンスだった。「頑張れ」という気持ちを伝えることができた。自分たちだけではなく、見ていたお母さんが、「楽しい」と言ってくれたのでよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立相武山小学校＋吉野町市民プラザ
身体で表現してみよう！

担当アーティスト	東野祥子（振付家、ダンサー）
実施校	横浜市立相武山小学校（港南区）
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年、3 学級、119 人
実施日程	2012 年 8 月 28 日、8 月 29 日、8 月 30 日

授業のねらい

言葉を使わない表現芸術であるコンテンポラリーダンス。まずはアーティストのダンスを身近に観て、本物の芸術に触れ、表現の多様さを発見し、言葉に頼らない表現の素晴らしさを実感してもらいます。自分で考えたこと、感じたイメージを身体で表現することの楽しさを味わい、ひとりひとりが積極的に自己表現できるようになることを目指します。また、グループで小さな作品を作り、仲間で協力して創造することにより生まれる広がりや喜びを知って、お互いを認め合い、自分らしさを表現することの大切さを学ぶ機会とします。

主な内容

（1 日目）(1･3 組 1 回目）デモンストレーション、ストレッチ、真似してダンス、体にボールが入っているイメージで動く、イメージでキャッチボール、人を動かす（2 日目）（1 組 2 回目）前回の復習（ストレッチ、真似してダンス）、運動会のテーマソングで振付ダンス、指示された身体の部位で自由な表現（1 人～ペア）、言葉のｲﾒｰｼﾞを身体で表現（1 人～グループ）。（2 組 1 回目 1 ・ 3 組と同様）デモンストレーション、ストレッチ、真似してダンス、体にボールが入っているイメージで動く、イメージでキャッチボール、人を動かす（3 日目）（2・3 組 2 回目）前回の復習（ストレッチ、真似してダンス）、運動会のテーマソングで振付ダンス、指示された身体の部位で自由な表現（1 人～ペア）、言葉のイメージを身体で表現（1 人～グループ）。

アーティストから

今回は、特にしっかりと見本を見せながら説明し、いろいろな身体の動かし方やイメージの表現方法があることを明確に示すよう心掛け、３年生には少し難しい、頭で理解してから動きで表現するということにも挑戦してもらいました。子どもたちは集中して積極的に取り組み、非常に豊かな表現力を発揮してくれました。また、お互いの動きを見て真似ることで相手を尊重し、自分自身とは違った身体表現があることを知り、ダンスをとおしての「コミュニケーション」を実感してもらうことができました。夏休みが終わったばかりの子どもたち、自由に表現することを心から楽しんで、もっとやりたいという気持ちが伝わってくる、とても実り多い３日間でした。

コーディネーターから

夏休みが終わってすぐのプログラム、子どもたちは元気一杯のびのびと身体で表現することをとても楽しんでいました。東野祥子さんは子どもたちの心をしっかりとらえて、みんなの集中力をどんどん高めていきました。校長先生も積極的に参加してくださり、担当の先生方は細やかなご配慮をくださり、学校全体でこのプログラムを支えていただいたことで、子どもたちがより楽しく、たくさんのことを学べたのだと思います。この時間を心から楽しんでいる子どもたちの姿、感動しました。

先生から

「表現の仕方にはいろいろある」と口では説明できても、なかなか伝わりにくいものです。そのバリエーションをプロの方は様々な方法で紹介してくださり、出しやすい雰囲気のもとみんなで活動できました。“本物” を身近で見ることそのものが動機づけ（モチベーション）につながり、生き生きした時間になるんだな～と実感しました。単元の導入で扱わせていただきましたが、その意欲は最後まで続いていたのがとても印象的でした。（おかげで、運動会の表現が例年になく一人一人のオリジナリティの強いものに仕上がりました。）現場の立場に立って、常に寄り添って対応してくださいました。（お願いや要求希望について）本当にありがたかったです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立永野小学校＋吉野町市民プラザ
校歌でダンス！

担当アーティスト	遠田誠（ダンサー）
実施校	横浜市立永野小学校（港南区）
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年、3 学級、109 人
実施日程	2012 年 12 月 4 日、12 月 5 日、12 月 7 日

授業のねらい

自由に体を動かして表現するコンテンポラリーダンスを通して、いつもあるものが違って見える、これまで気付かなかったことを発見できる場になるようにし、ものの見方は１つではないということを体験してもらいます。自由に自分の体を使ってできる表現をたくさん見つけ、ひとりひとりが積極的に自己表現をし、ほかの人々の動きや表現を見て相手を受け入れられることの大切さを実感できる機会となることを目指します。

主な内容

（1 日目）ダンスで自己紹介、準備体操、一緒に踊る、校歌でダンス（2 日目）準備体操、2 人組で動く、相手を動かす･動かされる、背中ジャンプ、ドルフィンジャンプ、場所で決まった動きをする、校歌でダンス（3 日目）各クラス:準備体操、2 人組で動く･バランスゲーム、食べ物の名前に振付、8 つのポーズで歌に合わせて踊る、校歌でダンス　合同発表会:伴奏ＣＤに合わせ、各組が踊る･歌う･観る

アーティストから

「ダンスやらないの～？」「ねーこれダンスなの～？」ワークショップ中、子どもたちからこんな声が聞こえてきました。ヒップホップ、バレエ、エグザイルをダンスだと思っているこの子たちは、一体何だと思って僕の授業を受けていたのでしょう？見たことも聞いたこともないコンテンポラリーダンス（説明もしませんでしたが）を自分たちの校歌に合わせて踊った三日間。最終日の３クラス合同発表会では予想以上に上手に踊ってくれてキレイにまとまりましたが、それはまぁオマケみたいなもの。大人は成果を形にしたがりますが、経験がどう身になるかは本人の感覚次第です。頭の上に大きな“？”が浮かぶような経験を、早いうちに沢山しておくべき。僕は常々そう思っているので「あれは一体なんだったのだろう？」という支離滅裂さのまま終わったとしても、それはそれで良かったのかも知れません。小学 3～4 年生はモノゴコロがつきつつ変な照れもない時期。ダンスに触れるには絶好のタイミングでしょう。朝が早くて体育館がメチャクチャ寒くて、子どもたちが元気過ぎた永野小ワークショップ。とてもシンプルで爽快に疲れました。是非またやらせて頂ければと思っております。

コーディネーターから

とても無邪気な永野小学校の３年生。元気いっぱい、のびのび動いて、身体を動かすことを楽しんでいました。言葉ではなく、身体で表現してコミュニケーションをとる体験は、子どもたちにとって新鮮なひとときになりました。二人組でのちょっと複雑な動きでは、相手と協力したり、助け合ったりしながら、自分だけではできない動きのおもしろさを味わえたと思います。やんちゃな子どもたちを惹きつけ、なんでもダンスにできる、身体でいろんな表現ができるということを遠田誠さんは伝えてくださいました。本プログラム実施にあたり、たくさんのご尽力をくださいました永野小学校の先生方にも深く感謝いたします。

先生から

一人ひとりの子どもたちを自由に伸び伸びと行動する事に対して、共感的・支援的に関わってくださり、指導してくださった方々に心からお礼を申し上げます。子どもたちがどの子も明るく生き生きと活動していた事が大変嬉しく思いました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立野庭すずかけ小学校＋急な坂スタジオ
体で奏でる音とダンス

担当アーティスト	京極朋彦（ダンサー・振付家）
実施校	横浜市立野庭すずかけ小学校（港南区）
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	音楽、保健・体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年、3 学級、100 人
実施日程	2012 年 10 月 16 日、10 月 17 日、10 月 19 日

授業のねらい

楽器や音響機材がなくても、体を使って様々な音楽が奏でられること、人間の体には、もともと様々な音楽的要素が備わっていること、ダンスがそれらと密接にかかわっていることを知ってもらい、それらを使う楽しみを知ってほしい。また、一人ひとり違う体、違う音を認め合い、共に作業していくことで、自分と他者の違いや､共同作業することの豊かさを知ってほしい。

主な内容

（1 日目）体で音とダンスを奏でてみよう！(2 日目）校歌とリズムに合わせてダンスをつくってみよう！（3 日目）各クラスでの練習・全クラス合同での発表会

アーティストから

今回小学校でワークショップをさせていただき、教える立場でありながら、逆に子どもたちから多くのことを学びました。自分の意見を言う勇気、人と協力する喜び、恥ずかしさや、苦手に立ち向かう姿。その姿はとても純粋で辛辣で、豊かなものでした。そして子どもたちの姿もさることながら、各クラスを受け持つ担任の先生の個性の違いが、クラスの雰囲気に大いに影響していたことも印象的でした。今回は校歌を使ってダンスを作りましたが、各クラス、同じ校歌でも全く違う振付が子どもたちから飛び出し、個性溢れる三通りの校歌の振付ができました。先生方のご協力を得て、時間割を変則的に組んでいただき、最終日にお互いのクラスを見合う時間が作れたのも、大変ありがたかったです。互いの個性を見つめ合い、尊重し合うことの大切さと楽しさを、子どもたちも私たちも学ぶことができました。三クラスがいっぺんに踊れるように、振り付け自体にあらかじめ仕込んでおいた隊形移動も、ぶっつけ本番でうまく機能し、最後は全員で歌い、踊ることができました。短期間でここまでできたことには驚きでしたが、その陰には先生方の日々の惜しみない愛情と準備のもと、じっくりと築かれた子どもたちとの信頼関係があったからだと思います。

コーディネーターから

先生方が実施のプランについてとても興味を持って下さり、授業時間をご調整いただけたり、また、当日の活動中にも子どもたちへの声掛けを積極的に行って下さったりと、かなりのご協力をいただきました。子どもたちは、リズムにのって自分なりに踊ることと、みんなで一緒に踊ることの両方を体験することで、それぞれの中でダンスの楽しさを感じられる瞬間を見つけることができたのではないかと感じました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立日下小学校＋芸術家と子どもたち
人や場所と関わっておどる

担当アーティスト	太田ゆかり（ダンサー・振付家・演出家）
実施校	横浜市立日下小学校（港南区）
コーディネート	NPO 法人芸術家と子どもたち
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／身体表現／4 学年、3 学級、87 人
実施日程	2012 年 10 月 22 日、10 月 24 日、10 月 25 日

授業のねらい

前半は 2～3 人組のパートナーワークで身体をほぐしていく。人とふれあって動くことを通して自分や相手の身体を思いやり、身体に対する認識を深めるとともに、日常的な行為がダンスにつながる楽しさを味わう。後半は、パートナーワークの経験を活かしながらグループで小作品を創作し発表を行い、子どもたちがお互いを認め合える時間にする。他者や場所を意識しながら動くことでひろがる表現の可能性や、身体を動かしながら自分自身を解放させる心地良さなどを、子どもたちが体感できる機会となることを目指す。

主な内容

(1 日目)「手つなぎ鬼」「ハグ鬼」でウォームアップ。続いて「アイコンタクトで三角形をつくる」など、できるだけ言葉を使わずに他者と関わりながら、一人ひとりが身体の感覚を目覚めさせていき、後半は 2 日目のグループワークの元となる振付を覚えた。振付の途中にネコの動きを自由に入れるなどの発展形にも挑戦した。(2 日目)1 日目に覚えた振付をもとに、班ごとに小作品を創作した。自分たちで考えた動物の動きを取り入れたり、ボールなどの小道具を用いたりしながら、活発な作品づくりが展開された。発表会では、体育館横の扉から現れるなど演出にも工夫が加わり、どのグループも自由な発想に溢れた作品となった。※各クラス 2 日間（2 回ずつ実施）

アーティストから

今回のワークショップでは子どもたちが、身体を動かすことに抵抗なく、自然にダンスに向き合えた印象を持ちました。最初に体ほぐしとして導入した「鬼ごっこ」から入ったことで、ダンスを特別視することなく、日常の動きと変わらずに向き合うことが、出来たと思います。これが私の狙いだったのですが、授業終了時に「ダンスは、日常の中に転がっていることを発見出来た!」というような言葉を子どもたちが発言してくれたことを嬉しく思いました。また最後に自分たちの習作を見せ合うところでは、各グループで工夫を凝らし、どのグループも大変個性的で興味深い習作が仕上がり、感心しました。習作をまとめていく過程では、各グループでの話し合いや進行も様々と個性がありました。各グループの中で人を気遣ったり、助けたり・・・苦労しながらも一つの目標に向かっていくことで、協調性や達成感を味わえたことと思います。私たちアーティストが通過する創作過程の一部をご紹介出来たのではと思い満足しています。子どもたちが成長する中で、今回のダンスの授業が何かのヒントや力に出来ることを願っています。

コーディネーターから

各クラス 2 回（2 日）ずつのワークショップで、取り組んだ時間としては短かったものの非常に充実した活動になったと思います。もともと、話合いを建設的に進められる子どもたちではあったようですが、中間発表の時点で、アーティストから的確なアドバイスを受けて以降、各グループの作品の、殻を破るような展開には目を見張るものがありました。子どもたち一人ひとりが「自分たちのやり方でいいんだ」「こういう表現もありなんだ」と自信を持てる体験になったのではないでしょうか。「どこから見ても面白いようにつくってみた」「みんなの作品を繋げて長いダンスにしたい」「一人で踊る場面もつくりたい」といった子どもたちの感想からは、彼らの留まることのない可能性や個性が感じられ、心が躍ります。また、創作の過程で対等に向き合うアーティストと子どもたちとの様々なやりとりに、シンプルで力強い“ワークショップ”の在り方を見た思いがして、自分にとっても意義深い機会となりました。

先生から

普段の授業で見せないような豊かな表情を、子どもたちはしていた。友だちと力を合わせて、ダンスを創造していくことで、大きな達成感を得ていた。心と体を開いていくことで、楽しみながら自由に表現していて、担任としてもとてもうれしかった。この授業がきっかけとなって、学校生活でも自分を表現していく場面が増えたように感じる。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立竹山小学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館 ダンスを作ってみよう！

担当アーティスト	ＫＥＮＴＡＲＯ !!（ダンサー、振付家、東京 ELECTROCK STAIRS 主宰）
実施校	横浜市立竹山小学校（緑区）
コーディネート	横浜赤レンガ倉庫１号館
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／2 学年、2 学級、49 人
実施日程	2012 年 12 月 12 日、12 月 13 日、12 月 14 日

授業のねらい

表現が苦手なほうで、引っ込み思案、他人との関わりの中で、アイディアを出すことにもじもじしてしまう生徒が多い。コミュニケーションを重視し、自分を出すことに自信のない子どもが仲間と心を開いて楽しめるような内容にする。２年生なのでどこまで理解できるかはわからないが、アウトリーチを通してダンスの楽しさにも触れる経験としたい。

主な内容

（1 日目）1～2 個の動作からスタートし振付を覚える、自分の好きなものを「動き」で表現する（2 日目）体でリズムをとる練習、1 日目の振付に動きを追加したものを覚える、2 組にわかれて踊る（3 日目）1､2 日目の動きをつなげた一つの振付作品を皆で踊る

アーティストから

今回教え始める前は小学二年生という事もあり不安もありましたが、皆が思ったより積極的に踊ってくれて技術についての質問もあり、意義のあるクラスになったと感じています。また、アシスタントの横山彰乃さんも良くサポートしてくれて、鏡のない環境や大人数のワークショップにはアシスタントは必要不可欠だと思いました。三日間という短い時間でしたが、集中力的にこの年代はこれくらいが緊張感があってやりやすいと感じました。一曲振り付けたのですが、ラストの発表はグッと来るものがあり、今後も継続してヒップホップを表現化したような間口の広いクラスを行なって欲しいと考えています。

コーディネーターから

当館事業で関わりがあるアーティストのため、意向をくみ取る事がスムーズにでき、当館がプラットフォーム事業に関わる意義を感じました。今回のプラットフォームに求めることや受講される生徒さんの特徴などについて、学校の先生方とアーティストで直接意見交換をする機会を増やし、生徒さん側にさらに寄り添った授業を目指したい、と感じました。

先生から

3 日間連続のダンスレッスンで体力的に大丈夫かなと思ったこともありましたが、子どもたちはリズムにのって、楽しそうに踊れたようです。結構複雑そうな動きも、講師の先生が子どもたちに分かりやすく教えていただいたので、どんどんできるようになっていったのが「すごいなあ」と思いました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立中和田南小学校＋アートの時間
心がおどる即興ダンス

担当アーティスト	新生呉羽（美術家、舞踏家）
実施校	横浜市立中和田南小学校（泉区）
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／即興ダンス／3 学年、2 学級、63 人
実施日程	2012 年 11 月 1 日、11 月 15 日、11 月 22 日

授業のねらい

身体を使って自己表現を体験し、表現の幅を広げる。即興表現の面白さ、深さを知る。

主な内容

（1 日目）夢じまんから個性と心を大事に可動範囲を広げて行く。（2 日目）夢じまんを描いた透明シートを使い、遊びの中から動きの探索。（3 日目）パートに分かれて１５分のパフォーマンスを作り上げる。

アーティストから

即興ダンスをするということは「それでいいんだよ、勇気をだしてね」と、自分に話しかけることだと思う。そのことを知ってもらいたくて「夢じまん」「透明な絵」「遊び」などの仕掛けをした。そして、即興ダンスに至る道を子どもたちは少しずつ歩いて行った。パフォーマンスの中では、繊細な心の動きや、大騒ぎ、大変美しい時間もあって、エンディングの全員が集まった円形の足踏みが収束すると、一瞬心を揺さぶる静けさが訪れた。

コーディネーターから

「勇気を出してね」「そう、それでいいんだよ」「とても面白い」―新生さんは何度も子どもたちに声をかける。だからこそ子どもたちは即興ダンスという未知の領域に踏み込んで行ける。日常の中で子どもたちがきらめく個性を発揮したとしても、「いいね。面白いね。それでいいんだよ」と言ってくれる大人がいなければ、きらめきはすぐに色を失うだろう。個を育てるのは周囲の大人の力量にかかっていることをあらためて気付かされた。人は肯定されることではじめて個を大事にできる。

先生から

初めは即興ダンスとは一体どんなものだろうと子どもたちと同じような気持ちでスタートしました。新生さんがどんな動きも「いいね！！」と認めて下さる姿勢を見て、子どもたちは安心して表現したいことを友だちの前で表現することができたと思います。引っこみ思案だった子が「楽しかった」と言っていたのを聞き、表現の楽しさを味わい、今後の学校生活で生かされていくといいなと思います。

子どもたちから

友だちと一緒にやっているとはずかしいのを忘れて楽しくなった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立泉が丘中学校＋テアトルフォンテ
カラダをうごかすことからはじめてみよう

担当アーティスト	井上大輔（ダンサー）
実施校	横浜市立泉が丘中学校（泉区）
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／身体表現／1 学年、4 学級、155 人
実施日程	2012 年 12 月 11 日、12 月 12 日

授業のねらい

ダンス・リズムを通して感性と表現力を向上させる。個々やグループで一つのものを作り上げる達成感及び一体感を獲得する。

アーティストから

皆で身体を自由に動かす表現活動を通して、自分の思いや考えを恥ずかしがらずに伝達することができるようになるきっかけづくりを目指した。身近な「身体」での表現方法や音楽（リズム）を使った身体運動など、中学生ならではの様々な身体表現の楽しさを体験できるワークショップを通して、個々の資質や創造性を無理なく発揮する機会を創ることができたと感じている。生徒の皆さんには、自由な発想で個々の表現方法を楽しむと共に、全員で「ものをつくる」感覚も体験してもらえたと思う。

コーディネーターから

「ダンスって何？」と聞かれても、簡単に教えることは難しいと思います。そらならまずは「身体を動かしてみる」ことからはじめようという、ダンスの体験型ワークショップを提案しました。例えば身体を伸ばしたり縮めたりしてみることで、「身体が実感する」ことから表現力と感性を養うことができます。これがダンスへの「入口」になります。身体表現を通じて、豊かな感性とコミュニケーション能力の向上をめざしました。生徒の皆さんは、思っていたより積極的に取り組む姿勢がみられ、活発で有意義な時間であったように思います。

先生から

恥ずかしがったり、人前で表現することを照れる年代である中学生を、気持ちをつかみながら、とてもうまくリードし、活動につなげてくれた。アーティストの方々に感謝申し上げます。本校の活動も 3 年間続けていますが、充実してきて、さらに発展できるように今後も継続して取り組めるよう、お願い申し上げます。

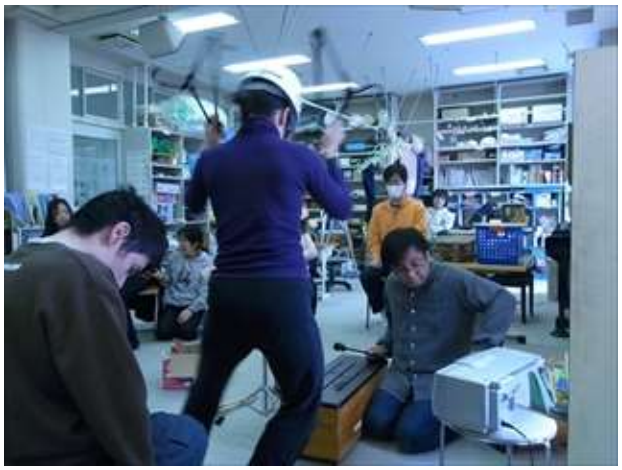
子どもたちから

表現することの楽しさが分かった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽・ダンス」

横浜市立盲特別支援学校＋ＳＴスポット横浜
ただようダンス、とけこむ音楽

担当アーティスト	片岡祐介（打楽器奏者、作曲家）、北村成美（ダンサー、振付家）
実施校	横浜市立盲特別支援学校（神奈川区）
コーディネート	NPO 法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	自立活動、音楽、体育
実施概要	体験型／創作／全学年、70 人
実施日程	2012 年 10 月 10 日、2013 年 1 月 29 日、1 月 30 日、2 月 12 日、2 月 13 日、2 月 14 日、2 月 15 日



授業のねらい

視覚障害を中心として、知的障害や肢体不自由等との重複障害がある児童生徒が在籍する学校において、身体感覚を他者と共有していく中で、多様な表現に触れる。

主な内容

（小学部）うたをつくり、振り付けを考える（中学部）音楽そのものダンスそのものを味わう（普通科生活コース）即興的な取組を通じて、子どもたちの反応を引き出す

アーティストから

北村成美：ダンスは、どこか遠くに習いに行くことでも、特別な技能でもありません。人と人の間に生まれることです。サプライズパーティーを仕掛けるような創意工夫と、それを楽しむ心を分け合うのが、私が目指すワークショップです。それは、音楽家、先生方、コーディネーター、生徒さんたち、一緒に企み、楽しんで下さる方々が居てくれるからこそ成立する一期一会の作品です。どの回も、みなさんの感性が光る、素晴らしい作品になりました。毎日が、日常生活の中にありながら、みんなでステージに立って公演をしているような、心地良い緊張感と連帯感がありました。忘れられない音楽とダンスが満ち溢れ、教室が舞台になりました。片岡祐介：信じられないくらい空間的な音楽がうまれました。時間の感覚がおかしくなるのです。部屋の隅々で鳴らされる音や声のひとつひとつが、精密に細い糸でつながっているかのよう。僕が今まで聴いた音楽の中でも格段のクオリティ。ノせてるのかノせられてるのか分からなかったですね。ダンスも「触わる音楽」「動く音楽」でした。

コーディネーターから

各学部の子どもたちとアーティスト、そして先生がじっくりと取り組む時間となりました。どの学部においても、アーティストがぐいぐいと引っ張るだけでもなく、子どもたちのやりたいことをやるだけでもなく、先生や見学者、コーディネーターも含めたその場にいる全員が一緒に場をつくり出すという機会となりました。場所や空間ということを飛び越えて、ただただダンスと音楽が存在する、そんなひとときとなりました。

先生から

中学部：同じアーティストの方々に、2 年続けて来ていただき、お互い相手を知っているという安心感をもって始めることができました。与えられたものを身につけるのではなく、自分の周りから、あるいは自分の中から材料を見つけ出して表現すること、さらに、それを周りに強調させたり、周りの人から受け取り返していく感受性やコミュニケーションの力が大いに発揮される場面があり、子どもたちの力を引き出していただけたと感謝しています。
普通科生活コース：生徒たちの普段みることのできない様子がみられて楽しかったです。特に、「どうしていいかわからない」生徒が、そのカラを破って表現できた瞬間を数多くみられたことは得難い経験でした。今年でたくさん生徒が卒業してしまうので、来年は少し寂しくなると思いますが、総合コースの授業もあるので、そちらも楽しみたい（新たな発見を！）です。

子どもたちから

音楽室に炎があった。／皆が一緒になってリズムにのったのがすごく楽しかった。／時間があっという間に過ぎた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立二つ橋高等特別支援学校＋Offsite Dance Project
身体表現を楽しもう

担当アーティスト	Co.山田うん（ダンスカンパニー）
実施校	横浜市立二つ橋高等特別支援学校（瀬谷区）
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年、6 学級、48 人
実施日程	2013 年 2 月 6 日、2 月 7 日、2 月 8 日

授業のねらい

多くの生徒が卒業後に就労する中、卒業後の余暇の幅を広げることにつながるような身体表現の楽しさを体験するプログラムを全学年で実施。コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指します。また、最終日は全校生徒参加の発表会の中で、体験クラスのデモンストレーション（生徒・講師）や全校生徒で行う体づくりを行う予定です。

主な内容

（1 日目）自己紹介ダンス～自由ダンス（好きな場所、好きな方向、好きな時にからだを動かしてみる）～変容していくモノや様子をダンスにする（2 日目）自己紹介ダンス～自由ダンス（好きな場所、好きな方向、好きな時にからだを動かしてみる）～変容していくモノや様子をダンスにする（3 日目）自由ダンスの発表～アーティストのパフォーマンス～全校生徒で自由ダンス！

アーティストから

今回、事前に打ち合わせに行けて、実際に担当をされる先生と企画の趣旨、アーティスト側、学校側の希望をそれぞれに交換できたことが重要だったと感じます。また、実施日当日、先生方の授業への参加態度もかなり子どもたちの態度への影響があると感じました。今回の授業では先生方に一緒に楽しみながら授業へ参加していただいたことで子どもたちも本当に伸びやかに楽しく踊っていたと思います。直後に就職を控えている子どもたちだったため、挨拶等の規則が多いにも関わらず、本当にのびのび踊る子どもたちの笑顔が印象的でした。

コーディネーターから

このプログラムでは、これまで自立の時間の中でも「スポーツ」を選択した一部の生徒が対象だったが、今回は学年全員が参加できるようにプログラムを組み立てた。また、当初学校側からコンテンポラリーダンスが少し難解ではとの懸念があったことから、特別支援学級での経験があり、かつ形に捉われない「自由ダンス」で定評のある Co.山田うんを起用。男子生徒が多数を占めることから、アーティストも男子 2 名＋女子 2 名の三人体制で、子どもたちが楽しんでからだも気持ちも全開に解放していった。最終日の発表では、ほかの学年の生徒も巻き込まれ、全校生徒が体育館いっぱいに自由ダンスを繰り広げた。アーティストが「踊らなくても、同じ場所に存在していればいい」という緩やかな方針のもと、一人一人の違いや想いを認め合う柔らかい空気に満ちあふれた素晴しい授業だった。

先生から

自分で考えたこと身体で表現することができて、生徒は楽しそうだった。周りの人と身体や動きを通じて、気持ちを通わすことができた。3 年生全員が取り組めたので、学習発表会で 3 年生が楽しそうに踊る姿を見て、1.2 年生も自然にからだを動かし、楽しむことができ、学校全体でプログラムに取り組むことができた。

美術・工芸分野の取り組み

自分で考えて、自分でつくってみる。その面白さと難しさを体験します。のびのびと創作することを通じて、イメージや感覚をとらえ、表現する面白さを深めます。自分や友だちの多様な表現に触れる機会となります。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術工芸」

横浜市立駒岡小学校＋サルビアホール
古代文字を書いて文字の成り立ちを体験しよう

担当アーティスト	天真書法　咲碧玄会（書家）
実施校	横浜市立駒岡小学校（鶴見区）
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／臨書／6 学年、3 学級、100 人
実施日程	2012 年 8 月 30 日

授業のねらい

中国古代より歴史に残る碑帖の書を時代順にパネルなどを用いて鑑賞し、中国の歴史や漢字や文字の変遷、現代で使っている文字との差異を理解すると共に、文字当てクイズや書道体験を通して、古代文字を楽しく学ぶ。この事業が児童たちの書道や中国の歴史に対する興味を深めるきっかけになればと思う。

主な内容

古代文字の成り立ちを知り、実際に甲骨文字を書く。

アーティストから

指導を行う中で、児童一人ひとりの個性や各クラスごとの雰囲気の違いなどを感じ、とても楽しい経験でした。甲骨文字は書き順がなく自由に書けるものですが、その「自由に書く」ということに難しさを感じているお子さんが多く見られ、驚きました。このような事業の大切さを実感し、子どもたちの未来へ向けて、また何かお役に立てることがあればと思いました。

コーディネーターから

「甲骨文字を体験する」という実施内容は大変珍しく、私たちコーディネーターも貴重な体験をさせていただきました。アーティストの方々が甲骨文字に関する資料やクイズなど十分な準備をしてくださったおかげで、児童のみなさんも古代文字を書くことの面白さを体験する様子が見てとれ、充実した実施内容になったと思います。教員の方々にも興味をもっていただくことができ、良かったです。

先生から

2 人の講師の方にていねいに見ていただけたのがよかった。／半紙を準備していただき、書きごこちのよいものだったことで、子どもたちも気持ち良く書けた。／一人ひとりの力を認めていただき、はじめは、５枚だったのがどんどん追加して書くことができ、十分に楽しむことができた。／内容が予想とちがい、字に対して新鮮な感覚で向き合うことができた。

子どもたちから

古代人の文字について知ることができ、実物にさわることができたのがよかった。／骨とう文字があることは知っていたけど、生で見たのは初めてだった。／友だちの作品をみて、みんな個性が出ていると思った。／昔の字がわかったので小野授業をしてよかったなと思った。／自分の名前は、どのように書くのかなと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術工芸」

横浜市立末吉小学校＋横浜市民ギャラリー

マイ・キャラでコマ撮りアニメーションをつくろう

担当アーティスト	布山タルト（アニメーション作家）
実施校	横浜市立末吉小学校（鶴見区）
コーディネート	横浜市民ギャラリー
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／アニメーション／5 学年、4 学級、149 人
実施日程	2012 年 11 月 6 日、11 月 15 日、11 月 16 日

授業のねらい

つくり出すことへの喜びを味わう。

主な内容

（1 日目）4 クラス合同：「アニメーション」についてのプレ・レクチャー（2 日目）ワークショップ：コマ撮りアニメーションの実制作（3 日目）ワークショップ：コマ撮りアニメーションの実制作

アーティストから

今回、150 人もの子どもたちを相手にするということでかなり不安でしたが、結果的にはすごくうまくいったなあと思います。授業時間の短さが一番ネックでしたが、その点はうまく事前に行われた授業（キャラクターをつくる）と連携することで解決できました。いわば先生方とのコラボです。おかげで 2 コマだけの授業にも関わらず、各クラスとも 50 本前後の素敵な作品が生まれ、いずれもアニメーションならではの動きを追求した楽しい表現にあふれ、僕としてもうれしい限りでした。

コーディネーターから

プレ・レクチャー後の 2 日目以降は、クラスごとに図工の時間に制作した紙製のマイ・キャラクターと、事前に準備したキャラクターの特徴と 3 秒間の動きを示したシートを持ち寄って、グループごとに協力しながら、布山氏が独自に開発した制作ツール KOMAKOMA を使って 1 人 1 作品制作しました。アーティストが大学におけるアニメーション教育に軸足を置いた活動を背景に持ち、かつ経験豊富であること、そして実施校のプログラムに対する事前準備と当日サポートの体制が十分に整っていたため、本事業の趣旨に適った充実した授業を行うことができたのではないでしょうか。担当の先生方には夏に市民ギャラリーで開催された布山氏のレクチャーも事前に聴講していただきました。

先生から

「自分が描いたキャラクターが動いたら…」という思いが現実のものになる、そんな授業を受けた子どもたちは、自分たちの想像力をフルに働かせ、とても楽しそうに表現活動に取り組んでいました。自分では考えもおよばないような分野を、専門のアーティストの方に指導していただくことで、こんなにも子どもたちの力が生き生きと伸びるのかと感心しました。子どもたちのためにも今後も同じような取組みがあれば積極的に活用したいと思います。

子どもたちから

自分がかいた絵がうごいていてすごくおもしろかったです。自由じざいにマイキャラを動かしたところが思い出にのこった。みんなの作品が見られて、おもしろいところや工夫などを見つけることができ、とても楽しい授業だった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術工芸」

横浜市立洋光台第四小学校＋横浜市芸術文化振興財団
木炭画で似顔絵、自画像を描く（１）

担当アーティスト	黒田晃弘（木炭画家）
実施校	横浜市立洋光台第四小学校（磯子区）
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型／木炭画／5 学年、2 学級、52 人
実施日程	2012 年 11 月 8 日、11 月 9 日

授業のねらい

１　似顔絵を描くという表現活動を通じて、想像力や感性を高めます。また集中力を養い、情緒の安定を促進します。２　友達の顔を描くことで、相手の友達そして自分自身のことを考えるきっかけを提供します。３　創作に取り組むことで、成し遂げた時の達成感、成就感を感じる機会を提供します。

主な内容

（1 日目）粘土で横顔、木炭を使ってみる（2 日目）木炭で友達の似顔絵を描く

アーティストから

洋光台第四小学校は、先先代の校長先生からワークショップを続けさせていただいております､私にとっても母校のようです。今年の 5 年生は､素直でとても明るく､チームワークの取れた、とても優秀な生徒さんたちでした。私の指導をよく聞き、全員が一生懸命、描いていました。そのため、出来た作品には、細かな表情が現れ、個性的な絵が多かったです。目、口、鼻を細部まで仕上げ、濃淡の描き分けをもつかんだ生徒さんもいました。

コーディネーターから

講師の描く木炭画を見たり、描き方の技術をレクチャーしてもらいながら､線を引く･陰影を付けるなどの体験を行いました。2 日目はいよいよ友達と向き合いお互いの似顔絵を描きました。好きなこと・将来の夢などをお互い聞きながら描いた作品は、友達の特徴をとらえ一人ひとり個性が溢れる作品に仕上がりました。木炭画を通じて、相手のことを深く知る・考えるきっかけとなっている様子でした。

先生から

プロの人の話を聞いたり、一緒にやったりすることで子どもたちは刺激を受けることになると思います。子どもたちの目は真剣に何かを習得しようというやる気に満ちていました。学校では、教えられることが限られていますが、普段と違った風（授業）が入ることは子どもたちにとっていい影響を与えると思います。

子どもたちから

レレレーで簡単に絵がかけて楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術工芸」

横浜市立品濃小学校＋アートの時間
仮面パレード 2012

担当アーティスト	深澤純子（アートファシリテーター）
実施校	横浜市立品濃小学校（戸塚区）
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／5 学年、3 学級、95 人
実施日程	2012 年 9 月 6 日、9 月 13 日

授業のねらい

普段の授業では扱わない材料や題材に触れることで、子どもたちのの表現の幅を広げる。図工に対する興味、関心を広げる。共同作業のなかから、互いを信頼する心や互いの良さを認め合う心を育てる。

主な内容

（1 日目）３人１組で、石膏包帯を使って顔の型どりをし仮面を作る。(2 日目）仮面に装飾を施し、衣装もつけて、校内をパレードする。

アーティストから

このワークショップの目的は大きく２つある。１点目は、３人一組になって、マスクを作り合う作業。全員が初めての体験を違う立場からはじめ、２回目、３回目とその立場が変わるが、感情が、意識が、場が進化する面白さ。２点目は「学校」という日常の中で「非日常的な体験」をすること。マスクをつけ異形のものとなり授業中の教室になだれ込む。マスクの下の彼／彼女らの目には、怖がったり面白がったりする子どもたちの表情が、しっかり見えたはずだ。日常と非日常の「橋」を行き来する体験になっただろう。

コーディネーターから

回を重ね､校内にもこのワークショップが浸透しているようで、授業時間内のパレードにも関わらず、ほかの学級から苦情が出ないばかりか、教室内へも快く迎え入れてもらっている。そして、このことが下級生への刺激となり､「５年生になったら自分たちもやるんだ」という思いを膨らませているのを感じる。先生方とのふりかえりの中で､「仮面をつけて町中へ出て行っても面白いんじゃないか」という次なる展開への発想が出たのも、年を重ねた効用ではないかと思う。

先生から

アーティストの方の自由な発想でアートを楽しむことの良さが、子どもたちにしっかり伝わったと思います。今度で４回目となる授業ですが、毎回いきいきと楽しそうに活動しています。ぜひ今後も続けて欲しいと思います。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術工芸」

横浜市立二俣川小学校＋サンハート
木炭画で似顔絵・自画像を描く（2）

担当アーティスト	黒田晃弘（木炭画家）
実施校	横浜市立二俣川小学校（旭区）
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／木炭画／4 学年、3 学級、96 人
実施日程	2012 年 10 月 23 日、10 月 26 日

授業のねらい

１．似顔絵を描くという表現活動を通じて、想像力や感性を高める。また集中力を補い、情緒の安定を促進する。２．友達の絵を描くことで、相手の友達そして自分自身のことを考えるきっかけを提供する。３．創作に取り組むことで、成し遂げた時の達成感、成熟感を感じる機会を提供する。

主な内容

（1 日目）木炭で友人の似顔絵を描く（2 日目）似顔絵の技法を使って、自画像に挑戦する

アーティストから

二俣川小学校 4 年生 3 クラスを指導しました。皆さん素直で、私の話すことをしっかり聞いて、楽しく取り組んでいました。1 日目の「友達の似顔絵を描く」授業では、友達が今どんなことが好きかを質問しながら、相手の考えをきいたり、表情を見たりすることで、より深い友人関係を考えることができたと思います。技術面の指導では、「線で描く絵」「陰影で描く絵」のちがいをわかりやすく説明しました。陰影で描くことで絵に立体感が出てくることを発見した子どもも多かったと思います。自画像の授業では、皆真剣に鏡を見つめていた様子で、多少なりと自分について考える機会ができたと思います。これからもみなさんが絵を描くことを楽しんで、人との関わりの中でも絵を描けることを試してもらいたいです。

コーディネーターから

黒田先生の授業は、絵を上手に描く事だけでなく、描く事を通じて、人間関係を見直したり、自我について考える企画を提供してくれます。また、お友達と話をしながら授業が出来るという事が、児童にとっては、とても楽しかったようで、苦手意識もなく、全員が楽しく取り組めたようです。是非継続して実施したい授業です。

先生から

教師自身も体験させてもらい、「下手」とか思いこんでいることが問題なんだと知らされました。「下手」と思わせる授業をしてはいけないと改めて感じました。とても「楽しかった」のは「お！！これいいね（できるね）」という瞬間がたくさん体験できたことが何よりでした。ちなみに私は、3 年前（？）も体験させてもらいましたが、あらたな発見、よろこびがちゃんとありました！！感謝しています。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術工芸」

横浜市立公田小学校＋リリス
陶芸を基本にした造形ワークショップ

担当アーティスト	李真希（陶芸作家）、松本光世（造形・五感ワークショップ講師）
実施校	横浜市立公田小学校（栄区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／個別支援学級（3、4、5 学年）、1 学級、3 人
実施日程	2012 年 12 月 5 日、12 月 6 日、

授業のねらい

児童が今まで体験したことのない陶芸という造形体験を通して、造形が持つ楽しさや驚きを実感できるプログラムとする。制作した作品は後日窯で焼かれ、完成した状態となって子どもたち手に戻す予定。実際に自分が作った作品を使用することで、作ることの大切さを学ぶ機会となると良い。また、少人数でのワークショップなので、講師と児童が制作を通して親密なコミュニケーションをはかり、心の交流がもてるワークショップとなるように努力する。

主な内容

（1 日目）陶芸ワークショップ・器作り（2 日目）陶芸ワークショップ・レリーフ作り

アーティストから

3 人の児童は、すぐに打ち解けて興味を示し、導入の話や関連絵本の紹介もよく聴いてくれた。児童たちが意欲的で自然に取り組んでくれて、その集中力に圧倒されました。どちらかと言えば､器作りのほうが粘土を自由に扱えるので楽しそうでした。子どもの無限の可能性を感じるとともに、自分にも子どもがいるせいか児童たちをいとおしく感じました。また先生方の温かい眼差しの中、穏やかな雰囲気のクラスで、子どもたちはのびのびと表現活動を楽しんでいた。

コーディネーターから

3 回目の実施ということで、事前の準備から実施までとてもスムーズに進めることができた。継続することの大切さを改めて感じました。少人数でのワークショップのため、アーティストとの交流もでき、親密な空間のなか制作をすることができました。また、今回アーティストの協力で、釉薬をつけて窯で実際に作品を焼く予定ですが、そうしたことが実現できるのも、少人数でのワークショップの良い点だと思います。

先生から

昨年も実施した際、とても子どもたちが意欲的に取り組む姿があり、今年も同様にとても興味を持って集中して取り組む子どもたちの姿は、見ることができ感謝しております。アーティストの先生方の分かりやすい説明やサポートのおかげです。また、機会がありましたらよろしくお願いいたします。

子どもたちから

できた作品がすごかったです。お皿を作るのが楽しかった。ぼくは、お皿に模様をつけるのが楽しかったです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術工芸」

横浜市立伊勢山小学校＋テアトルフォンテ

きって、ひねって、つなげると ～ おもしろいかたち たのしいかたち ～

担当アーティスト	齋藤眞紀（美術家）
実施校	横浜市立伊勢山小学校（泉区）
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／2 学年、2 学級、68 人
実施日程	2012 年 10 月 24 日、10 月 25 日

授業のねらい

１人１人のもっている豊かな発想を形にし、作りあげる喜びを体験してもらう。素材の一部を自由に選択することにより、子どもの個性を引き出す。作品を始めから終わりまで根気よく作ることにより、達成感を得る。芸術家の指導により、自由な発想、形にしていく楽しみを発見する。

主な内容

（1 日目）2 年 1 組実施。3・4 校時：作品作成。1 人 1 人自由に作る。5 校時：作品展示。（2 日目）2 年 2 組実施。3・4 校時：作品作成。1 人 1 人自由に作る。5 校時：作品展示。

アーティストから

今回、伊勢山小の２年生が、先生方のお陰でクラスが良く纏まっており、とても授業がやりやすかったのが第一印象。紙（平面）から形（立体）を起こして行くある意味難しい課題を、それぞれが創意工夫を凝らし、制作に集中し励んでいた点も素晴らしかった。初日（１組）にあった多少の戸惑いも、２日目（２組）には感じられず、子どもたちがより一層のびのびとしていたように見受けられたのは、クラスの違いよりも、学校側と私ども双方の慣れ（カリキュラムの習熟）による面が強かったのではないかと思います。その点でも２日連続の授業は大変意味が大きかったのではないでしょうか？

コーディネーターから

個々の作業過程の違いはありましたが、悩みつつも自由に様々な形になることへの発見と完成させることへの満足感が見てとれた。また、作る楽しみだけではなく互いの作品を鑑賞し意見交換をするという楽しみ方も学んでもらえたと思う。完成の形は自分で決めるという制限の無い自由な作成方法に、試行錯誤しつつも個性溢れる面白く楽しい作品を作っていた。「作成過程での偶然性」や「自分のイメージを表現する」ということの楽しさを発見できたプログラムだった。

先生から

昨年度もお世話になった講師の先生で、児童の実態もある程度理解していただいていたので、題材としては適切であったと思います。学校を開く習慣に実施したので、通常の学習とは違った内容に保護者からの反応もよかったです。本校ではここ数年美術工芸系（体験型）のプログラムを２年生対象に行っています。１年生の子どもたちも２年生になったらと期待しているようです。継続して実施できるとありがたいです。

子どもたちから

好きな形に切ったり、好きな色をつかったりしたので、楽しくできた。あんな大きなハサミがあるのにおどろいた。シールおり紙があったので、すぐに作品ができてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術工芸」

横浜市立あざみ野第二小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野
ふしぎなアートハット

担当アーティスト	うめぐみ（ワークショップアーティスト）
実施校	横浜市立あざみ野第二小学校（青葉区）
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	図画工作・総合的な学習の時間
実施概要	体験型／造形／１～6 学年、18 学級、600 人
実施日程	2013 年 1 月 10 日、1 月 11 日

授業のねらい

みんな同じ「帽子のもと」からはじめて、それぞれ個性的な形ができる造形遊びを行う。1～6 年生まで同じ課題の帽子づくりを行うが、それぞれの発達段階による出来上がりになる。保護者の見学、参加も可。

主な内容

（1 日目）1 学年 75 分ずつ 1,2,3 年生（2 日目）1 学年 75 分ずつ 4,5,6 年生

アーティストから

6 学年、同じ内容で実施したが、できた帽子は個人はもちろん学年それぞれ違ったものになったと思う。同じ素からスタートしてそれぞれの表現に広がる活動ができたと思う。

コーディネーターから

活動自体はシンプルな内容だが、600 人 600 様の帽子ができたのは、よかったと思う。自分のアイディアを形にすることや、人のアイディアを見て自分も参考にしてみることは全員で取り組む意義でもあると思う。

先生から

子どもたち一人一人が進んで楽しく取り組むことができた。わかりやすい指導であった。材料の準備等よく準備されていて、子どもたちが取組やすかったと思う。一人一人の配慮がされていて良かった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術工芸」

横浜市立山田小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野
土粘土の体験

担当アーティスト	うめぐみ（ワークショップアーティスト）
実施校	横浜市立山田小学校（都筑区）
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	鑑賞型／土粘土／5 学年、3 学級、96 人
実施日程	2012 年 7 月 17 日

授業のねらい

想いを形にするために必要な手の育ちを、粘土の活動を通して育む。

主な内容

土粘土の活動

アーティストから

初めに手を動かす練習として、一人 1.5ｋｇの粘土を四角にしたり、丸めたり、全員で同じことをした。後半はそれぞれ「人」をつくり、様々な「人」ができた。友達同士、楽しく取り組みながら、手をよく動かすことができたと思う。想いを形にするために「手」を動かす、という経験になったと思う。

コーディネーターから

手を動かすことで心も動き、その心をかたちにするという活動ができたと思う。

先生から

あれ程大きな粘土を自由に操れる機会はなかなかないので、とても良い経験になりました。アーティストの方々もとても親切にして下さり、子どもたちも真剣に耳を傾け、楽しそうに活動することができました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術工芸」

横浜市立汐見台中学校＋横浜美術館
木彫制作の体験

担当アーティスト	大島康幸（彫刻家・美術講師）
実施校	横浜市立汐見台中学校（磯子区）
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／彫刻／1 学年、5 学級、170 人
実施日程	2012 年 12 月 18 日、12 月 19 日

授業のねらい

現役の彫刻家で横浜美術館の収蔵作家でもある大島康幸氏を講師に迎え、中学生を対象に、ご自身の彫刻（木彫関係）、その作品の内容、実際の道具や制作方法等、実演やお話を通して知ってもらいます。今回は彫刻を中心に、その作者について、また横浜美術館の収蔵作品について学ぶ機会をつくります。

主な内容

（1 日目）大島康幸氏の木彫制作について及び、鑑賞と生徒の体験。（1 クラス×２）（2 日目）大島康幸氏の木彫制作について及び、鑑賞と生徒の体験。　（1 クラス×３）

アーティストから

中学生対象の授業ということで慣れてはいるものの果たして 50 分間でどれだけ彫刻の事や自分の作品についての思いを伝えられるか正直不安でした。いつもと違う環境、いつもと違う顔ぶれ、中一ということで様々なケースを想定していましたが、生徒たちの素晴らしい鑑賞態度と素直な好奇心に後押しされ、ついつい一所懸命になっている自分を感じました。２日間気持ちよく授業ができたことは担当の先生の事前指導と横浜美術館のスタッフの皆様の応援あってのことと感謝しています。

コーディネーターから

生徒が直接、横浜美術館の収蔵作家である彫刻家の考え方を聞き、彫刻作品（収蔵作品とは別のそれに劣らない作品を学校に搬入）の鑑賞や、デッサンや模型、道具、制作方法等に触れることができたのは、とても有意義な時間だったと思います。担当教諭の準備、学校側の協力体制、美術館のスタッフ、作家の力量がすべて生かされ大変良い授業が出来たと思います。

先生から

作品が校内に展示されていたので、“芸術家の人” の写真とお話の鑑賞のあと、実物にさわれたり、いろいろな角度から作品をみたりする体験をさせていただきました。また、美術館の木下様や横田様の支援で木を彫る体験まですることができました。日頃素直な子どもたちでありましたが、この日の目の輝きや喜びようは今までにないものでした。この授業を企画してほんとうによかったと思いました。

子どもたちから

木材の暖かみがわかった／木づちとノミを使って作業した／作品の作り方／作品を間近でみることができた、触れることができた／木を彫って思ったより難しかったけれどよかった／木でできているのに皮のように見えるのがすごかった／初めて彫刻したのでわくわくした／貴重な作品を触ることができ楽しかった。小さなものでもいいから作ってみたいです。／大島さんに握手を求めたら快くしてくれた。フレンドリーそうな笑顔と優しく詳しい説明でとてもわかりやすかった。汐見台にわざわざ遠くからきていただきありがとうございました。木がとてもいいにおい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術工芸」

横浜市立小田中学校＋横浜市民ギャラリー
映画について知る―ゾートロープ制作＋編集ゲーム

担当アーティスト	SHIMURAbros（映像作家）
実施校	横浜市立小田中学校（金沢区）
コーディネート	横浜市民ギャラリー
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／映像／3 学年、4 学級、120 人
実施日程	2012 年 12 月 5 日、12 月 6 日

授業のねらい

体験を通して、豊かな表現力とコミュニケーションの力を育てる。

主な内容

（1 日目）作家紹介、作品上映、ゾートロープ制作、編集ゲーム（グループワーク）（2 日目）作家紹介、作品上映、ゾートロープ制作、編集ゲーム（グループワーク）

アーティストから

今回は、映像メディアについて映画の基礎的な事を踏まえて授業を行いました。強く感じたのは生徒たちは映像に関する分野について学習意欲が高いという事です。携帯電話で映像を撮る事が普通にできるなど、日常的に“読み書き”しているものなのに、きちんと学ぶ機会が少ないからではないでしょうか。しかしながら映像についてしっかりと伝えるには、授業の時間が足りないように感じました。また進路など、人生の課題についても相談が自然と出てきたので、定期的に同じ学校にアーティストが派遣されたりすると、生徒とのつながりも深くなってきて面白いと思います。授業を通じてとてもポジティブな反応を生徒たちが返してくれたので、私たちにとっても素敵な出会いになりました。（SHIMURAbros）

コーディネーターから

市民ギャラリーで 9,10 月に開催された企画展出品作家である SHIMURAbros 氏に講師を依頼したこともあり、プログラム実施校の担当の先生に展覧会でアーティストの最新作を事前にご覧いただき、アーティストトークにも参加していただくことができました。先生のご協力のもと、当日は生徒たちから「楽しみにしていた」との声が聞かれ、アーティスト共々うれしく思いました。授業は打ち解けた雰囲気のなか、映画・映像の基礎を伝え、創作活動に欠かせない多角的な視点を提示するものでした。若手アーティストの授業は 10 代の学生たちにとって、良い刺激になったのではないでしょうか。

先生から

SHIMURAbros（ユカ＆ケンタロウ）氏の作品紹介の後、映画の原理を理解するために、ゾートロープアニメーションの制作を行いました。その後、ものの見方について対話型の鑑賞を行いました。普段見ているものを問い直し、考えて見るという現代美術の「新たな視点」に生徒は大いに驚き、芸術のすばらしさに感動していました。また、芸術家という立場から、「夢」を持って生きることのすばらしさについて語っていただき、生徒もその出会いに感謝していました。すばらしい授業でした。

子どもたちから

映画のしくみはすごい。普通の人は思いつかないような発想の映画などを見て、現代アートの深さを知ったこと。初めての感覚、体験ができてよかった。美術には、パラパラ漫画とかいろいろあるんだなと思いました。表現は自由なんだと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術工芸」

横浜市立本郷中学校＋横浜美術館
伝統木版画の世界を楽しむ

担当アーティスト	高橋由貴子（創業安政年間高橋工房代表、東京伝統木版画工芸協会組合理事長、ＮＰＯ法人伝統木版画ルネサンス理事長）
実施校	横浜市立本郷中学校（栄区）
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／木版画／2 学年、6 学級、205 人
実施日程	2012 年 11 月 26 日、11 月 27 日

授業のねらい

摺り師による伝統木版の実演と、はがきサイズの多色摺りの体験を実施予定。職人による伝統的な手仕事、専門的な知識や道具に触れる貴重な機会となる。同時期に、横浜美術館では「はじまりは国芳ー江戸スピリットのゆくえ」展を開催中。当館学芸員による展覧会の話も盛り込み、プログラム終了後の鑑賞教育につながるようにする。

主な内容

（1 日目）伝統木版画の世界を楽しむ（2 クラス合同 2 校時×1 回）（2 日目）伝統木版画の世界を楽しむ（2 クラス合同 2 校時×2 回）

アーティストから

この度横浜市本郷中学２年生を対象に伝統木版画について発表させていただく貴重な機会をいただきました。そして生徒たちの真摯な眼差しと素直な反応を見て、この仕事に携わる者として何よりも大きな励みを頂きました。浮世絵木版画に代表される江戸木版画は日本が世界に誇る工芸品であるにもかかわらず、関心、知識を持つ日本人が思いのほか少ないのが現状です。伝統木版画がこれからの若者たちにとって自国の良さを知り、誇りを持って世界ではばたき活躍してもらうための材料の一つであってほしいと思います。そのためにも教育現場で今回の様な実体験がカリキュラムに組まれればと願っています。

コーディネーターから

生徒たちにとって日常である「学校」という場所で、プロの摺り師の仕事に触れたり、浮世絵を手にとって鑑賞したりする時間が組み込まれることの大切さを感じました。打ち合わせから当日を迎えるまで、約半年かかりました。講師側・学校側それぞれが充分な準備をすることで初めて生まれる、貴重な時間であったと思います。

先生から

摺師の方の仕事を身を乗り出してくいいる様に見つめる生と。浮世絵を手に取って鑑賞し、きら刷りの美しさや表面の凹凸の感触を楽しんでいる生徒。生き生きとした生徒の姿を見ることができました。普通なかなか出会うことのない伝統版画の作品と職人さんに出会えたこの授業を機に、日本の美術文化に関心と誇りを持ち、美術館へも行って鑑賞してみようという気持ちが、生徒に芽生えたことを期待しています。

子どもたちから

目の前で刷っているところを見ていてすごいなと思ったし、刷り上がった物は、とてもきれいだった。ばれんの作りがあんな作りになっているとは思っていなかったので、おもしろいなと思いました。浮世絵が見られて嬉しかった。ワークショップがすごく楽しかった。摺師さんの仕事は見ていてすごく楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術工芸」

横浜市立中村特別支援学校＋ART LAB OVA

まひるのディープ・ヨコハマ＊アートクラブ・ナイト

担当アーティスト	来島友幸、岩塚一恵、ノシロナオコ、大森彩子、今井紀彰、村井啓哲、栗原元、タムラタクミ、スズキクリ、ART LAB OVA
実施校	横浜市立中村特別支援学校（南区）
コーディネート	ART LAB OVA
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	体験型／現代美術／全学年 67 人
実施日程	2013 年 1 月 21 日、1 月 22 日、1 月 23 日、1 月 24 日、1 月 25 日

授業のねらい

外出など、様々な経験をしたり、いろいろな人に出会ったりする機会の少ない子どもたちなので、ふだん学校では体験できないことを体験させたい。特に五感に訴えるような試みを考える。昨年度の取り組みが好評だったので、それをさらに突き詰める。

主な内容

（1 日目）小さな音、弱い光などの微細な変化に身をおき、感覚を開く。 子どもたちの写真も撮影（2 日目）小さな音、弱い光などの、微細な変化に身をおき、感覚を開いてゆく。 （3 日目）ダンサーが動くことで、空間を共有し、他者を意識することから始まるコミュニケーション。（4 日目）子どもたちの心臓音と心拍音を変換して合奏。その音をボディソニックで体感する。（5 日目）心臓音と心拍音を変換、震動させ、ミラーボールの光の刺激により空間を感じる。

アーティストから

スズキクリ：なるべく五感で感受できる表現を基本としながら、生徒の個別性や多様性を重視して考えた。同時に先生にも興味を持ってもらえるようにバランスもとりながら組み立てた。今回は多数のアーティストが参加できたこともあり、日常では体験できない密度の空間と時間が提供できたと思う。

来島友幸：弱い音と弱い光は、通常の音や光よりも情報量が少なく視聴者がそれらを感受するには時間がかかるし集中力や、ときに忍耐力が必要となります。しかしそうした行為によって普段意識しない集中をすることによって新たに感じるものがあるでしょう。うす明るい電球の明滅、水滴、水泡の音、絞った空間の中で参加者めいめいが粘り強く自身で自身を感受されていた。

岩塚一恵：微細な光と音響世界の中で共に過ごし、序々に研ぎすまされていく感覚と、とてもパーソナルな夫々の心象風景が交感する瞬間を目指しました。微かな変化を感じ取る力の逞しさに、新鮮な驚きを憶えながら過ごす時間はとても印象深いものとなりました。

大森彩子：色んな声を出しながら子どもたちに近づいたり遠のいたり、高くなったり低くなったり、円を描いたり、そして薄暗い中ダンスの気配を感じてもらったりした。驚いた事にこちらに手が伸びてきて指から物凄いビームを出された。思わずこちらも真似して踊った。あれ、さっきもいたよね？と思う子どももいて、反応が沢山あってとても嬉く、皆の可能性を感じた一日だった。

ノシロナオコ：ダンサーや音響が操作する空間に子どもたちが点在し、あらゆる感覚をもって空間をイメージすることから始まる意識のダンス。変則的なアプローチで高度な内容ではあったが、子どもたちは食い入るように意識のアンテナを張りめぐらせ、圧倒的な集中力を発揮した。その力強い眼差しに、未知の体験から育まれる生命力を感じた。

今井紀彰：子どもたちに自分の存在を改めて認識してもらうために、一人一人の日常風景を撮影しました。実際に教室に入って撮影をしてみるとシャッターの音に反応する人、レンズの丸いガラスに反応する人、反応の現れが見えにくい人と、それぞれでした。

村井啓哲：参加者の心拍をモチーフにした音の試みも今年で 2 回目となった。前回のように聴診器で拾った心音を大きく増幅して体感することに加え、今回は赤外線センサーを利用して捉えた心拍信号で電子的に音源を鳴らすことも試みた。そこに多様な可能性と課題を垣間見ながら授業は終了したが、やはり面白く感じるのはそれぞれの心拍があらわす表情の多様性とその変化である。語らずとも伝わるものがそこにはあるようだ。

コーディネーターから

渉外担当の先生がいらしたこと、昨年度に引き続き 2 回目であったことから、様々なことがスムーズに進み、授業に集中することができた。ほとんどのアーティストにとって特別支援学校に行くこと自体が初めてであり、そこでの試みは学校にとってもアーティストにとっても良い意味での刺激にあふれていたと思う。また今年は参加アーティストも 10 人に増やしたので、複数のアーティストで協働したからこそ実現した濃密な空間を子どもたちに提供できた。アーティストたちは今回を経て、すでに更なる授業の可能性を考え始めている。元来多様な大人たちであるアーティストと多様な子どもたちとの貴重な出会いは、お互いにとって今後の拡がりに通じる大きな一歩になった。この事業の継続は子どもたちの大きな力になるにちがいない。

先生から

子どもたちが、小さな音、弱い光などの微細な変化や音の増幅・変調といった音響空間の中で、感覚を開き、体感しながら興味関心を拡げてきました。また、ダンスのプログラムによって、子どもたちが、ダンサーの存在を音や気配でたどりながら空間の中で自由に意識を巡らせ、新しい身体感覚、新しいコミュニケーションの形を感じ取っていました。継続・発展という意味からも、来年度も是非同じようなプログラムが実施できればと思います。

写真：今井紀彰

伝統芸能分野の取り組み

古くから伝わる楽器が織りなす音楽や、歴史を体現している
伝統芸能特有のしぐさや身体表現、話芸の鑑賞や体験など、
ふだん触れる機会の少ない伝統芸能の世界を感じてみます。
知らない世界と出会う楽しさがひろがります。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立鶴見小学校＋久良岐能舞台
狂言を体験しよう！（１）

担当アーティスト	善竹富太郎、前田侑太郎（大蔵流狂言師）
実施校	横浜市立鶴見小学校（鶴見区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語・社会・総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年、4 学級、130 人
実施日程	2012 年 12 月 25 日

授業のねらい

国語の教科書で取り上げられている伝統芸能「狂言」の鑑賞と体験を通じて、伝統芸能をより身近に感じ、楽しんでもらうことを目標とする。子どもたちがより関心を示すように、事前学習を各学校で実施する。(レジュメ配布)狂言鑑賞「柿山伏」(多くの小学校の教科書で取り上げられている演目)を鑑賞した後に、狂言の所作や発声法、簡単な役を演じる体験を実施する。

アーティストから

このように狂言師が学校を回ることはやってるようでやってない。小学校も狂言師に来てもらうように依頼したいと思っていても、敷居が高いから出演料も高いのではないかと心配してしまうが、間に横浜市が入り、小学校は無料で鑑賞できるのはお金の心配をしなくて済むので良い。今後も活動をつづけ、子どもたちが能楽堂に足を運ぶきっかけになってくれることを願っています。

コーディネーターから

本牧南小とは打って代わって大所帯でのアウトリーチでした。クリスマス、冬休みといった楽しみが続く日にみんな真剣にこの課題に取り組んでくれました。今回、私たちが播いたのは本当に小さな種です。ですが、この小さな種が 10 年後、大きく芽吹いて、見所の片隅で「見に来たよ～。」と手を振ってくれる事を願わずにはいられません。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立浦島小学校＋よこはま音楽広場実行委員会
琴を体験しよう（１）

担当アーティスト	吉澤延隆（箏・十七絃箏）
実施校	横浜市立浦島小学校（神奈川区）
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／箏／6 学年、2 学級、64 人
実施日程	2012 年 9 月 26 日

授業のねらい

今回は教員側と生徒側と二つの目標が挙げられた。児童側の目標について、伝統楽器に触れる機会が少ないため、観る・聴く・触れることをバランスよく取り入れる事で自分らしい表現を身につけさせたい。また、教員側の要望については音楽専科が琴を授業で扱えないため、基本的な演奏について講師から学びたい。

主な内容

琴の体験と鑑賞

アーティストから

今回の学校プログラムは、六年生を対象とした授業で、スケジュールも一日で各クラス 2 コマを行いました。演奏体験では、しっかりしたタッチで高学年らしい演奏をする子や、「出来ない」と言いながらも積極的に質問してくれたことが印象的でした。加えて、楽器を前にするとコト柱を動かしたり、楽譜にはないことを弾いてみたりと、“自分たちで楽器をいじりたい”というような様子もみられ、高学年でのプログラムにはもう少し自主性を尊重するべきかと感じる一面もありました。また、学校所有の箏が 7 面もあるというめったにない環境で、これらの楽器が、今後の学校独自の授業にうまく活用されていけば嬉しいなと期待を持ちました。

コーディネーターから

学校に 7 面の琴が眠っているので活かしたいという学校側の希望が明確であった為、講師には事前に学校を訪問して頂き、楽器の保存状態を確認して頂いた。その時、担当教員や学年主任と講師が顔を合わせて話し合いの持てる機会を作ったことは、実際に講師が学校のニーズを感じてプログラムを構成するいい機会となったように思われる。

先生から

2 時間でほとんどの児童が弾けるようになり、「難しそうだと思ったがやってみたらできた！」から楽しめたのだと思う。短い時間で、琴の歴史から名前、楽譜の読み方までていねいに説明があり、練習時間も二人の先生が優しくていねいに個人指導してくださってとても素晴らしい授業でした。その後、授業で琴をあつかっていきたいと思い、色々相談にも乗って頂き感謝しています。

子どもたちから

吉澤先生が弾いた曲が心に残った

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立羽沢小学校＋よこはま音楽広場実行委員会
琴を体験しよう（２）

担当アーティスト	吉澤延隆（箏・十七絃箏）
実施校	横浜市立羽沢小学校（神奈川区）
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／4 学年、3 学級、93 人
実施日程	2012 年 9 月 25 日、9 月 28 日

授業のねらい

日本の伝統楽器に触れる機会を持つことで、日本固有の音楽への理解へと繋げていきたい。昨年度の体験を振り返り、今年度も「さくらさくら」を習得することで、伝統楽器を奏でる喜びや音楽への興味をさらに深めていきたい。

主な内容

（1 日目）琴の基本的知識を学ぶこと、体験（2 日目）琴の体験、演奏発表会「さくらさくら」、講師の演奏を鑑賞

アーティストから

学校プログラムも今回で３回目となりました。最初は、“何を、どのように子どもたちに伝えるか”が気にかかっていましたが、自然と、普段の演奏活動で感じることや思っていることを鑑賞と体験時間で伝えられるようになりました。今回の授業終わりに、「もう一回、演奏聴きたかったなぁ」と言われた時には、本当に嬉しかったです。成果発表のミニコンサート時間では、皆で集中力を持って最初の音を弾き始めたり、友達の演奏に歓声をあげて喜んだり、受け取り方も表現も素直で、何事も楽しめる子どもたちの姿に、演奏家として嬉しさが込み上げるとともに、気持ち新たになる思いでした。

コーディネーターから

昨年度と同じ担当教員だった為、事前連絡などは確認程度に留まり、実施に関しても滞りなく行われた。また、保護者の見学も年々増え、過去に体験した児童が講師との再会に喜ぶなど、継続性のあるプログラムの良さが引き出されているように見受けられた。その反面、ほかの分野への興味を広げる機会を学校側がどのくらい意識しているかが懸念された。児童のニーズと教員のニーズを見極めていく必要性を感じている。

先生から

琴の体験や琴曲の鑑賞を２日間の間にバランスよく組みこんで下さり、日本の音楽や琴の魅力を子どもたちはたくさん感じることができたようです。1 日目は、琴の楽器や演奏の仕方を丁寧に教えて下さいました。体験の時間も十分にあり、先生方が子どもたちを順番にまわってやさしく指導して下さいました。2 日目は、1 人 1 人の演奏の機会を与えて下さり、とても満足感が得られたようです。これからもいろいろな音楽や楽器に興味をもってほしいと思います。コーディネーターの方が事前に準備しておくものなど教えて下さったり、流れを考えて下さったりしたのでスムーズでした。講師の方も子どもたちにわかりやすく話して下さったり、時間通り進めて下さったりして助かりました。

子どもたちから

先生がやさしく教えてくれてうれしかったです。／弾けるようになったことが思い出になりました。／琴のことをたくさん知れてよかったです。／先生たちの演奏してくれた琴の音色が心に残りました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立本牧南小学校＋久良岐能舞台
狂言を体験しよう！（２）

担当アーティスト	善竹富太郎、前田侑太郎（大蔵流狂言師）
実施校	横浜市立本牧南小学校（中区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語・社会・総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年、2 学級、53 人
実施日程	2012 年 11 月 30 日

授業のねらい

国語の教科書で取り上げられている伝統芸能「狂言」の鑑賞と体験を通じて、伝統芸能をより身近に感じ、楽しんでもらうことを目標とする。子どもたちがより関心を示すように、事前学習を各学校で実施する。(レジュメ配布)狂言鑑賞「柿山伏」(多くの小学校の教科書で取り上げられている演目)を鑑賞した後に、狂言の所作や発声法、簡単な役を演じる体験を実施する。

アーティストから

このように狂言師が学校を回ることはやってるようでやってない。小学校も狂言師に来てもらうように依頼したいと思っていても、敷居が高いから出演料も高いのではないかと心配してしまうが、間に横浜市が入り、小学校は無料で鑑賞できるのはお金の心配をしなくて済むので良い。今後も活動をつづけ、子どもたちが能楽堂に足を運ぶきっかけになってくれることを願っています。

コーディネーターから

最初は緊張していた子どもたちも、狂言を体験することで古典芸能を本当に楽しむことができてよい経験になったと思いました。観るだけではわかりづらい狂言や能の面白さを、アウトリーチ活動を通じ、子どもたちが実際に狂言師に出会うことでより身近に感じてもらえる機会を作れた事がうれしいです。子どもたちが大きくなったとき、狂言は面白いものだという認識を頭の片隅にでも置いてくれたら良いと思います。

先生から

とにかく、善竹富太郎さんの「人間的魅力」に引きつけられた。子どもたちも口をそろえたように話していたが、その声、表情、仕草にくぎ付けになり、楽しい時間を送ることができた。「狂言」はどちらかというと遠いものであったが、この授業を通して、一気に身近なものになったように思う。むずかしいことを分かりやすく伝え、できそうなことを体験させてみるというプログラミングがとても効果的であった。

子どもたちから

（動物のまね、狂言の歩き方で全員で体育館を一周したこと）難しそうだが、体験することで楽しさを感じた。／善竹さんの表情・表現の豊かさを感じ、存在感の大きさを思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立間門小学校＋吉野町市民プラザ「日本の音」を見つけよう

担当アーティスト	奥田雅楽之一（箏曲）
実施校	横浜市立間門小学校（中区）
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／6 学年、3 学級、93 人
実施日程	2013 年 1 月 15 日、1 月 17 日、1 月 22 日

授業のねらい

日本の代表的な伝統楽器「箏」を通して、日本古来の音楽について、また、日頃耳にすることの多いそのほかの音楽について考え、じっくりと芸術作品に向き合い、芸術を味わう力、感受性を育てる機会となることを目指します。芸術性の高い演奏を身近に鑑賞し、情操豊かに心の健康を養う場とするとともに、実際に楽器に触れ、1 曲をクラス全員が演奏できるよう練習し、皆の前で発表することで、クラスの連帯感や個々の達成感を育みます。

主な内容

（1 日目）日本の音ってどんな音？ 日本の音について考えながら、箏に実際に触れてみる（2 日目）曲の練習（3 日目）曲の練習　全クラス合同発表会

アーティストから

この度、横浜市立間門小学校で、3 日間授業をさせていただく機会をいただきました。当方が専門とする三曲（箏曲、三味線、尺八）を、耳と、目と、体と、頭と、全身で体験してもらおうという企画立案のもと、授業を進めました次第です。子どもたち一人一人が身近にある日本の音について考え、箏や三味線や尺八の構造を知り、音色を聴き、全員が実際に楽器（箏）に触れて課題の曲を演奏しました。「楽器に触れた」という事実だけが残るのではなく、印象に残る体験となるよう、心掛けました。

コーディネーターから

日本に住んでいても、あらためて「日本の音」について考える機会はなかなかありません。奥田雅楽之一さんの「日本の音って何だろう？」という質問から始まったこのプログラム、間門小学校 6 年生の皆さんは、とても興味を持って真剣に取り組んでいました。各楽器の仕組みや特徴の説明の後、自分で実際に演奏したり、三曲の演奏を聴いたりしながら、より深く日本の音について感じ、考えることができたのではないでしょうか。最後にこの場を借りまして、遠方よりお出ましくださり、子どもたちに素晴らしい「日本の音」を伝えてくださった講師の皆様と、準備から当日運営までたくさんのご尽力をくださった先生方にお礼申しあげます。

先生から

3 日間という長いプログラムにも関わらず、とても練られたプログラムで感心した。はじめは、日本の音楽について、子どもたちに問いかけ、イメージをもたせていた。回が進むにつれ、箏の弾き方について学習し、最後にはクラスで演奏できるまでになった。子どもたちにとって、日常では体験できないことであるので、興味をもって取り組んでいたが、それが持続するようなプログラムの工夫がされていた。とても有意義な時間だった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立藤の木小学校＋横浜にぎわい座
邦楽器の魅力に触れる～箏の体験～

担当アーティスト	米澤浩（尺八）、熊沢栄利子（箏）
実施校	横浜市立藤の木小学校（南区）
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／尺八、箏／6 学年、4 学級、129 人
実施日程	2012 年 10 月 26 日

授業のねらい

日本の伝統芸能である「箏」に、学校の音楽の授業の中で触れられる機会はわずかしかないため、しっかりと体験できる貴重な機会として、プロの演奏家の指導の下、邦楽器の楽しさ・魅力を体感するとともに、講師の演奏を鑑賞し、その音色の美しさを感じとります。

主な内容

１～４時間目　クラスごとの「箏」体験／講師による５時間目ミニコンサート

アーティストから

今年度は、1 日・1 時限で完結する体験プログラムとミニコンサートという構成となったため、2 人 1 組で楽器に向かい合う『さくらリレー』を取り上げました。これまでの、複数日・複数時間によるプログラムよりも、予算・時間的な制約にも対応できるため、将来の「箏体験プログラム」に大きな変革をもたらすことが、他地域でのアウトリーチの成果からも期待されています。

コーディネーターから

1 日間でのプログラムという条件でしたが、学校側の希望を受けて、講師とも協議の上、初挑戦となる 1 クラスあたり 1 コマでの体験プログラムを構成しました。これまでの「自由に箏に触れる～練習～発表」という流れに比べて、楽器に触れる時間は短くなりましたが、テンポ良く、かつ、次々と達成感を感じてもらうことで、箏を楽しみながら体験するという点では、充分な成果を得られたと考えます。

先生から

体験としては、一時間でしたが、子どもたちが十分表現活動をすることができ、グループでともに協力し合い完成できた喜びを味わうことができたと思います。もちろん個人的にはもの足りなさを感じ、もっと演奏したいという希望をもっている児童がいたことは、うれしいことだと感じています。短い時間での効果的な活動方法を普段での音楽にも取り入れたいと思いました。今回活動と鑑賞の場が異なり、箏の移動が必要でしたが、同じ場所であれば、1 クラスずつ発表会の形がとれたのではないかと残念に思っています。ありがとうございました。何度聞いても先生方の演奏は感動を与えてくださいます

子どもたちから

箏を演奏するのは思ったよりも難しくて、ちょっと手がとまどったけど、自分のパートはほとんどできたのでうれしかったです。少し疲れたけど、一生懸命弾いてくれてうれしかった。箏や尺八の音色は不思議な気持ちになる。もっといろいろな歌（曲）を演奏してほしいと思った。箏の練習が思い出に残った。眠くなるほど音色がきれいだった。日本の楽器もすごいんだなと思いました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立並木第一小学校＋民族歌舞団荒馬座 和太鼓を体験しよう（１）

担当アーティスト	民族歌舞団荒馬座（民族歌舞実演家）
実施校	横浜市立並木第一小学校（金沢区）
コーディネート	荒馬座
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／和太鼓／5 学年、2 学級、55 人
実施日程	2012 年 11 月 6 日、11 月 8 日

授業のねらい

①思春期にさしかかる年頃の子どもたちに生の体験を通して、友達と一緒に取り組む喜びと楽しさを味わって欲しい。

主な内容

（1 日目）①楽器の説明②バチの持ち方、叩くとき体の形、叩くときのポイントを伝える③輝けばやし、元気一番太鼓を叩こう！和太鼓を４台持ち込み。輝けばやしで小太鼓（締太鼓）のリズムにノってかけ声をかけながら元気に叩く。元気一番は２人１組で向かい合って叩き、気持ちを合わせて叩くことや体全体を使って叩き、踊ることを中心に伝える。講師の見本を見せることで全体のイメージや動きのイメージをもってもらう。(2 日目)・２クラス合同：太鼓を４台持ち込む。元気一番太鼓の復習。２チームに分かれてお互いを見合いながら交互に叩く。リズムを新たに１つ増やした構成で完成させる。講師による「ぶち合わせ太鼓」の実演。

アーティストから

かけ声の出るクラス、踊りを元気に踊るクラスとそれぞれのクラスカラーが出ていて、２日目は相乗効果で良い雰囲気でひとりひとりが達成感をもって終われたようだった。日常の生活では友達間でいろいろなトラブルはあっても、文化を通して一緒に楽しむことでお互いを認めあったり、違う一面を見あうことができたのではないか。

コーディネーターから

学校（担当者）と講師の目標が子どもたちの姿をとおして達成できたと感じられたのが大きな収穫だった。学校全体も児童の取り組む姿から今回の授業を大変有意義なものとして捉えてくれていたことが嬉しかった。また、自分たちが体験した後に見る講師の実演（ぶち合わせ太鼓）は、打ち込む姿や音の違い、チームワークの大切さなどを目の当たりにしてより深く子どもたちの心の中に入っていく様子がわかり、感動的だった。

先生から

「輝けばやし」と「元気一番太鼓」を教わった。太鼓をたたく姿勢やバチの持ち方等、基本的なことをわかりやすく、しっかりと教えてくださった。また、リズムもできるようになるまで何回もくり返し、練習させてくれたので、どの児童もリズムを覚え、たたくことができていた。普段の音楽の授業では、歌もリコーダーも苦手、という児童が、一番生き生きと全身を使って表現する姿が見られた。児童の違う一面を見ることができて、うれしかった。最後に演奏してくださった荒馬座の方々を見て、和太鼓は力だけでなく、心もこめないと深みのある響く音が出ないということを学んだ。荒馬座のどの方も笑顔が素敵で私たちも児童たちも元気をもらえた。ぜひまた来年も来ていただきたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立新吉田第二小学校＋よこはま音楽広場実行委員会
琴を体験しよう（３）

担当アーティスト	吉澤延隆（箏・十七絃箏）、三浦可栄（箏）
実施校	横浜市立新吉田第二小学校（港北区）
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／箏／6 学年、2 学級、54 人
実施日程	2012 年 11 月 28 日

授業のねらい

楽器で自己表現をすることが好きな学年でもある事から、普段馴染みのない邦楽器に触れることで、新たな音楽への興味に繋がればと思う。また、自分の考えや思いを伝え合うことを大切にしている為、仲間の演奏を聴く事を通して、他者の表現も認められるような体験になればと思う。

主な内容

琴の鑑賞と体験

アーティストから

子どもたちから過去の邦楽授業よりも沢山演奏できて楽しかったという感想が寄せられ、“自分で音を出すことを実感してもらう”という当初からの一番伝えたいことが、伝わっていることを実感できた一日となりました。ただ、すぐにいい音で弾けるようになる子と、いい音を出すコツがなかなかつかめない子がいる中で、後者にスッと音が出る感覚を伝えることが一番難しいことも、自分自身で実感した学校プログラムでもありました。授業最後のミニコンサートが、皆でより盛り上がるよう、まだまだ改善していく必要がありそうです。

コーディネーターから

邦楽体験の希望が強く、事前に他校から琴を借りるなど、学校側からも積極的な協力があって実現したプログラムだと思います。子どもたちの取り組みを見ていると、珍しい楽器に興味をもって取り組む子どももいれば、あまり楽器に興味を示さない子どもも見られました。関わりの弱い子どもに対しては様々な要因があると思われますが、「琴に触れる体験をする」という大きなねらいに加え、より具体的な目標を設定する事もモチベーションの維持に効果的かもしれないと思いました。

先生から

子どもたちは心から授業を楽しんでいました。普段は触れることのない楽器をアーティストをとおして身近に感じ、そのよさを味わうことができていたと思います。また 2～3 人のグループでの活動をとおして、協力し合ったり、教え合ったりしながら互いに目標に向かって触れ合うことができていました。講師の先生の説明が非常にわかりやすく、子どもたちも集中して取り組むことができました。たっぷりと楽器に触れることができ、講師の先生方も子どもたちひとりひとりに声をかけ指導してくださいました。

子どもたちから

最初に講師の先生が聴かせてくれた「鳥のように」という曲がとてもきれいで思い出に残りました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立下郷小学校＋横浜にぎわい座
邦楽器の魅力に触れるミニコンサート

担当アーティスト	米澤浩（尺八）、熊沢栄利子（箏）
実施校	横浜市立下郷小学校（戸塚区）
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／尺八、箏／6・4 学年、5 学級、170 人
実施日程	2012 年 12 月 06 日

授業のねらい

日本の伝統芸能に触れることで、様々な音楽表現があることを子どもたちに感じ取ってもらう鑑賞の場とする。音楽のカリキュラムにも設定されている「さくら」「春の海」を、プロの演奏者が生で演奏するのを聴き、その姿を間近で見ることで、より邦楽器の魅力と楽しさを体感してもらう。

主な内容

3～４時間目　学年ごとに、ミニコンサートを鑑賞

アーティストから

「体験」の時間のない、「鑑賞」のみのプログラムでしたが、学校側の事前学習等の協力と、発表場所となった音楽室がステージ状の空間となっていたため、子どもたちは集中して鑑賞してくれていました。ただ、「鑑賞」プログラム単独でも充分有意義ですが、「体験」と「鑑賞」プログラムを連携させることにより「鑑賞」プログラムの成果も高まります。また、学校側の要望としては複数学年への「鑑賞」を希望するケースもあるかと思われますが、単学年を対象に「体験・鑑賞」を連携させた方が、よりプログラムの成果を高められると思われます。

コーディネーターから

今回は「体験」部分のない、４・６年生への「鑑賞」のみのプログラムとなりましたが、ジブリ作品の音楽を曲目に入れたり、曲間のレクチャーにフリップを使用するなどの工夫により、単に講師の演奏を聴くだけではないプログラムになりました。学校側の時間的な制約と、プログラムにかけられる予算的な制約等から、「鑑賞」を中心としたプログラムの要請は今後も強まると思いますが、限られた状況の中でも「芸術の魅力を楽しみながら体験する」ことは充分に可能できると考えます。

先生から

まず演奏がすばらしく、私自身がとても感動しました。そして、曲目の解説や、楽器の演奏についての説明がとてもわかりやすく、子どもたちがすんなり理解することができ、演奏を楽しんで聴くことができていたように感じました。子どもたちがとても集中していて、終わった時「ホーッ」とため息のような声が聞こえました。いい時間だったのだと思います。6 年生からは「おことやってみたい！！」という声もたくさん聞かれましたので、ぜひ学習で取り組みたいと思います。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立港南台第三小学校＋横浜にぎわい座
日本の伝統芸能「落語」を楽しもう！

担当アーティスト	三笑亭可女次（落語家）、雷門花助（落語家）
実施校	横浜市立港南台第三小学校（港南区）
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／落語／全学年、12 学級、320 人
実施日程	2013 年 2 月 9 日

授業のねらい

毎年２月に開催している地域との交流イベントである「わくわくチャレンジデー」の中で、地域の方たちと一緒に日本の伝統芸能である「落語」を鑑賞し、その独特な表現形態と魅力に触れることで、子どもたちの表現活動の幅を広げます。

主な内容

5 時間目　レクチャー＋落語２席

アーティストから

今回は、１年生から６年生まで全校生徒に聴いていただきましたが、低学年のお子様も最後までしっかりと聴いてくれて、よく笑っていただけましたので、非常にやりやすい高座でした。今後も、いろいろなところで、落語に興味を持っていただければと思います。

コーディネーターから

今回は、全校で地域との交流イベントを開催している日のプログラムということでしたが、会場設営にも先生方の積極的にご協力いただけ、子どもたちの多くも鑑賞する態勢が整っていたので、円滑にプログラムが実施できました。今回の演者が、学校等での高座慣れていたため、落語に入る前の解説もわかりやすく、低学年から高学年まで笑ってくれていたので、落語の魅力を充分に親しんでもらえたと考えます。

先生から

落語という事で、少し難しい内容かと心配していましたが、落語家さんたちの見事な技術で会場全体が笑いにつつまれていました。丁寧な事前の打ち合わせもあり、大満足の活動となりました。

子どもたちから

手ぬぐいを何かにみたてていて、すごかった。物がないのに音をたてたりするのがすごい（リアル）。サルの話がおもしろかった。TV でやっていても今まではチャンネルを変えていた。でも１度聞いてみたかったので良かった。少し難しいが、もう少し見たい。口で色々な音を出す才能がすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立二つ橋小学校＋民族歌舞団荒馬座
和太鼓を体験しよう（２）

担当アーティスト	荒馬座（民族歌舞実演家）
実施校	横浜市立二つ橋小学校（瀬谷区）
コーディネート	荒馬座
実施科目・教科名	総合的な学習の時間・音楽
実施概要	体験型／和太鼓／6 学年、3 学級、102 人
実施日程	2012 年 10 月 26 日、10 月 30 日

授業のねらい

太鼓の楽しさと奥深さを実際に叩くことで体験するとともに、友達と一緒に叩き表現する事でコミュニケーションの大事さや気持ちを合わせる事のおもしろさを感じられるものにしたい。

主な内容

（1 日目）①楽器の説明②バチの持ち方、叩くとき体の形、叩くときのポイントを伝える③元気一番太鼓を叩こう！・和太鼓５台持ち込み。８人グループ、１０人グループを作って叩く。２人１組で向かい合って叩くことで、気持ちを合わせて叩くことや体全体を使って叩き、踊ることを中心に伝える。講師の見本を見せることで全体のイメージや動きのイメージをもってもらう。（2 日目）３クラス合同のため太鼓を６台持ち込む。ウォーミングアップに簡単な囃し「輝けばやし」を覚えて叩く。１日目の復習。リズムを新たに１つ増やした構成で完成させる。講師による「ぶち合わせ太鼓」の実演。

アーティストから

担任の先生も子どもに混ざって一緒に参加し、子どもたちの気持ちを引き上げてくれていた。２日間通して、男子は比較的発散して叩いてくれていたが、女子がなかなか積極的に楽しむ所まで行けない様子だったのが残念。６年生という難しい年齢の子どもたちのやる気を引き出しせるような内容を吟味し今後に備えたい。

コーディネーターから

今回の授業では男子が大いに発散して楽しんで取り組んでくれた反面、女子がもう少しやる気を出せる中身の研究が必要だと感じた。授業の組み立て、見本の見せ方など講師側の課題として今後に生かしていきたい。しかし２日間の体験で和太鼓の楽しさ、友達と一緒に叩き踊る楽しさは感じてもらえていた様子だった。又、体験後の講師による「ぶち合わせ太鼓」の集中には驚かされ、和太鼓の奥深さを掴んでくれていた様子だった。

先生から

身近にある伝統文化和太鼓は、子どもたちが親しみやすいものでした。子どもたちが十分満足して表現できる数の太鼓を用意してくださり、大変わかりやすい説明により子どもたちがどんどん引き込まれている様子が見られました。教師も一緒に楽しみたいというきもちになりました。体全体で表現し、心地よい疲れを感じることの楽しさを実感させてくれた授業でした。

子どもたちから

楽しかった。また機会があったらやりたい。たくさん経験できたのは、初めてで楽しかった。最後、荒馬座の人が演奏しているのをみて、女の人でも、男の人と同じくらいの大きさと迫力がありすごいと思った。荒馬座の人たちの演奏は、きれいだと思った。最初、乗り気ではなかったけど、太鼓をたたくと次第におもしろくなった。２回目は、ほかのクラスともできてよかった。太鼓は体に響く。太鼓最高！太鼓をまた叩きたい！と、荒馬座の演奏を見て思った。荒馬座の方の演技がすごかったです。5 人とも輝いていました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立勝田小学校＋神奈川県立音楽堂
古来の楽器に親しむ

担当アーティスト	中村仁美（篳篥演奏者）
実施校	横浜市立勝田小学校（都筑区）
コーディネート	神奈川県立音楽堂
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／6 学年、3 学級、90 人
実施日程	2012 年 11 月 27 日、11 月 29 日、11 月 30 日

授業のねらい

日本の楽器に親しむということを目指して、子どもたちへより良い経験をさせる。

主な内容

（1 日目）雅楽の 3 種類の管楽器の音を出して体験する。（2 日目）「越殿楽（えてんらく）」1 行目実習（篳篥／笙）。鞨鼓を体験する。（3 日目）「越殿楽」を合奏練習で仕上げる。発表会で保護者に聴かせる。

アーティストから

3 日間通して「「越殿楽（えてんらく）」の 1 行目を演奏するために篳篥（ひちりき）、笙（しょう）と鞨鼓（かっこ）を指導するのは 2 回目であったため、昨年度の問題点を修正しつつワークショップを行うことができた。今回は、雅楽の演奏会用の衣装を最終日に先生に着させ、子どもたちに平安時代から伝わる伝統的な演奏者の姿を見せることができた。

コーディネーターから

2 度目のワークショップとはいえども、今回参加してくれた生徒児童がどこまで日本の伝統楽器を理解してくれるのか不安ではあった。小学校側に、「これをやりたい！」という強い意思表示があることが、今回のワークショップを成功させる要因だったと思う。ただコーディネーターが学校側にソフトを提供するのではなく、学校側とコーディネーターが同じ着地点にいなければならないことが必要であると感じた。

先生から

感謝の一言である。この授業をするに当たり、篳篥や笙、竜笛など、子どもたちが満足して取り組める数の楽器をご用意いただいたこと。授業の進め方を、アーティストの先生と私の奏法の意見を交換してより良いものにして下さったこと。そして何より子どもたちのために雅楽の良さを伝えようと分かりやすく、優しく根気強く教えて下さっていたこと。本当に実りが多く充実した 3 日間の体験となった。

子どもたちから

この雅楽の授業を受けて、笙やひちりきや竜笛を使ったコンサートにも行ってみたいと思った。最初は音が出なくて、大丈夫なのかと心配でした。でもプロの先生が優しく教えてくれたので音がなるようになりました。とてもうれしかったです。

【スクール・オブ・ダンスの個別報告】

横浜市芸術文化教育プラットフォームでは、平成24年度に開催されたDance Dance Dance @ YOKOHAMA 2012と連携して、小学校でのダンスの授業を重点的に応援する「スクール・オブ・ダンス」に取組みました。

平成24年12月1日に開催された「はまっ子スポーツウェーブ 第52回横浜市立小学校体育実技発表会（会場：横浜文化体育館）」で表現リズム遊び／表現運動の発表を行う予定の市内6校に対し、トップアーティストたちが授業を応援しました。

今回の授業を通し、自由な発想を導き、豊かな感性を育てることで、子どもたちの学習活動をより豊かなものにするよう応援するとともに、「はまっ子スポーツウェーブ」の作品創作に繋がるキーとなる多様な方法を実践しました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム「スクール・オブ・ダンス」

横浜市立西寺尾小学校＋Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス

担当アーティスト	山田うん（振付家・ダンサー）
実施校	横浜市立西寺尾小学校（神奈川区）
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／1 学年、2 学級、58 人
実施日程	2012 年 7 月 6 日、7 月 13 日、10 月 9 日、10 月 10 日、10 月 11 日、10 月 12 日、11 月 21 日

授業のねらい

コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指します。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供し、「体育実技発表会」の発表へと繋げるキーとなる多様な方法を実践する。また、後半は発表会で上演する作品の構成等のアドバイスに重点を置いた授業を予定。

主な内容

（1 日目）元気なダンス・・・アーティストの動きを真似る、童謡に合わせて踊る（2 日目）優しいダンス・・・丸まった友だちの背中を歩いていく綱渡りに挑戦する（3 日目）「海の生き物」・・・カニ、くらげ、トビウオ、くじらなどの海の生き物に変身する（4 日目）「遊園地」のシーン・・・音楽を感じて動く、音楽と仲良くなる（5 日目）「花火」のシーン・・・隊形やタイミングを工夫し、さまざまな花火を作る（6 日目）「くじらぐもとのお別れ」のシーン・・・ゆっくりな動きに取り組む（7 日目）体育実技発表会で上演する作品のブラッシュアップ

アーティストから

先生方も子どもたちもとても熱心で理解力、応用力がありました。校長先生や保護者たちの毎回のあたたかい眼差しにも守られていました。先生方は私がやったことの中で、これは子どもたちに適している、面白そうだ、と感じたことをどんどん授業に取り入れていましたし、子どもたちも授業でやった経験を頭でも体でも本当によく覚えていましたので、回を重ねることで段階的に積み重ねていけることが多かったです。授業は先生だけが子どもたちのために作る時間ではなく、先生と子どもたちの両方の力で作られる時間なのだと感じました。

コーディネーターから

前半は体づくりと表現運動を主に、後半は実技発表会に向けた練習で構成。Co.山田うんが繰出す言葉と動きに乗って、子どもたちが楽しく体を解放させていました。後半は実技発表会の構成に合わせて、アーティストのリードでさまざまな動きやフォーメーションを試しましたが、それらが最後には子どもたちの気持ちや体をも高揚させ、記憶に残る授業になったと思います。実技発表会では、授業で行った動きも取り入れられており、子どもたちが一生懸命に稽古した様子が伺えました。（岡崎）Co.山田うんの３名による授業は、いつも児童を笑顔にさせ、どの子もダンスを大好きになってくれるだろうと思わせる内容でした。学校側の受け入れ態勢が柔軟であり、「体育実技発表会」に向けて、良い形でアーティストが関わることができたと思います。山田さんが動きの中で発される言葉には、「生きること」につながる大きなメッセージが込められており、児童の中にそれが刻まれていく様子が印象に残っています。（梶本）

先生から

子どもたちが「やりたい、楽しい」と感じられるような様々な動きを見せていただいたり、一緒に動いたりして、とても有意義な時間になりました。大きな動き、ゆっくりな動き、友達と合わせる動きなど、動き方の工夫も教えていただき、子どもも教師も表現の工夫を考えるヒントをもらいました。パワフルなアーティストの方々のおかげで、子どもも大人も元気をいただき、表現する楽しさを味わわせていただきました。

子どもたちから

たくさんのことを教えてもらって、これからもダンスをがんばりたい。見えない空気や風を自分たちで表せたのがうれしかった。またダンスをやりたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム「スクール・オブ・ダンス」

横浜市立小田小学校＋Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス

担当アーティスト	伊藤千枝（振付家、演出家、ダンサー、珍しいキノコ舞踊団主宰）
実施校	横浜市立小田小学校（金沢区）
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／1 学年、4 学級、113 人
実施日程	2012 年 7 月 11 日、7 月 13 日、9 月 6 日、9 月 7 日、9 月 10 日、10 月 23 日、10 月 31 日

授業のねらい

コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指します。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供し、「体育実技発表会」の発表へと繋げるキーとなる多様な方法を実践する。また、後半は発表会で上演する作品の構成等のアドバイスに重点を置いた授業を予定。

主な内容

（1 日目）体ほぐし／○本足の動物／動きのまねっこ／ポーズのまねっこ（2 日目）体ほぐし／○本足の動物／いろんな動物に変身／グループで歩く動物づくり（3 日目）体ほぐし／○本足の動物／動きのまねっこ／身の回りにあるモノ（タオル・新聞紙・ボール）のまねっこ（4 日目）体ほぐし／○本足の動物／動きのまねっこ（5 日目）体ほぐし／○本足の動物／動きのまねっこ／いろんな動物・モノ・食べ物に変身／しまじろうのわお①（6 日目）体ほぐし／○本足の動物／動きのまねっこ／いろんな動物・魚・植物・自然現象に変身／しまじろうのわお②（7 日目）体ほぐし／○本足の動物／動きのまねっこ／いろんな動物に変身／しまじろうのわお③

アーティストから

先生に教わるだけでなく、自分たちで考えつくったものを自信を持って発表する。また個人だけでなく友達と一緒に考え、話し合いながら正解のない１つのものをつくっていく。そのような子どもたちの自主性が早い段階で出て来たことが非常によかったと思う。最終的には先生方とも色々話し合うことができたが、始めはダンスの授業がどのように行われるのかわからなく戸惑っているように思えた。ダンスを言葉で説明するのは難しいが、こちらがしっかりと説明し理解してもらうことが大切だと思う。今後の課題だ。

コーディネーターから

体づくりと表現運動で構成した授業を通して、実技発表会に繋がる動きの発見を重視して授業を行いました。伊藤千枝さんは、子どもたちから出てくる動きを引き出すために身近な言葉を投げかけ、子どもたちは楽しんで自分たちが考えた動きをグループで編み出していきました。先生方も子どもたちと一緒になって動くことで、次第にダンスへの壁が取り払われていくような変化が見られました。実技発表会では、授業で子どもたちが発見した動きで構成されており、子どもたちの様子を非常によく観察していたことがわかりました。（岡崎）伊藤さんの授業は、ウォーミングアップから大変独創的で、さらに身体感覚を高め、子ども同士が自然とコミュニケーションを取ることが出来る内容です。毎回取り組んだまねっこ・変身遊びは、子どもたちが様々な動きを体験する機会になりました。そして、回を重ねるごとに、子どもたち自ら動きを発見していく様子が見られました。学校・先生方とも連携でき、毎回授業の前後に打ち合わせを行いました。アーティスト・担当教員の双方で話し合って、発表会に備えた授業内容を決めていくことができました。（川上）

先生から

「表現」という領域に私自身抵抗がありましたが、今回の授業を通して、子どもたちと一緒に楽しんで活動することができました。子どもたちも初めは恥ずかしがっていたようですが、少しずつ慣れ、自然と友だちと関わりあいながら表現したり、自分の思いを相手に伝えたりすることができるようになっていきました。いろいろな遊びを通して表現の基礎のようなものを子どもたちに身につけていただき、それを積み重ねていくことで、発表会にもつながり、経験したことを十分に発揮できていたように感じました。

子どもたちから

いろいろなダンスを教えてくれてありがとうございます。ダンスを教えてもらって発表会じょうずにできました。ブリッジもじょうずにやりました。ぼくはダンスがじょうずじゃなかったけど、じょうずになりました。ダンスのせんせい、ぼくは、授業がとてもたのしかったです。発表会のこと心配しているかもしれないけど、みんなうまくいったよ。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム「スクール・オブ・ダンス」

横浜市立長津田小学校＋Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス

担当アーティスト	黒沢美香（振付家・ダンサー）
実施校	横浜市立長津田小学校（緑区）
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／4 学年、1 学級、39 人
実施日程	2012 年 6 月 20 日、10 月 15 日、10 月 19 日、10 月 26 日、11 月 2 日、11 月 7 日

授業のねらい

コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指します。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供し、「体育実技発表会」の発表へと繋げるキーとなる多様な方法を実践する。また、後半は発表会で上演する作品の構成等のアドバイスに重点を置いた授業を予定。

主な内容

（1 日目）日常の動作がダンスになる／足でリズムを刻む／いろんな隊形（2 日目）ラジオ体操でオリジナルダンスを創る①／体でリズムを刻む／行列で歩く（3 日目）ラジオ体操でオリジナルダンスを創る②／スキップ・ツーステップ／足で・体でリズムを刻む（4 日目）上を向いて歩こうダンス①（5 日目）発表会に向けた練習を見る／上を向いて歩こうダンス②

アーティストから

次の世代がダンスを担い、育み、ダンス人口が増えることを考えています。その意味でも学校授業でダンスを伝えられることは絶好の機会です。ダンスのもつ自由度、弾力、広い許容を子どもたちとも先生とも共有できればと願います。その為には教育現場の方々に、体育とダンスを分けて考えていただけるよう、こちらがこつこつとそのことをアピールする努力を継続していかないとならないと思いました。

コーディネーターから

前半は体づくりと表現運動を主に、後半は実技発表会に向けた練習で構成。黒沢さんは馴染みのある「体操」をモチーフに、子どもたちに自由な発想を引き出そうと試みました。子どもたちの発想は豊かで、自分たちから動きを生み出していくような積極性が見られました。発表会では授業で行ったフォーメーションも取り入れられており、子どもたちが一生懸命に稽古した様子が伺えました。（岡崎）日常のありふれた動作もダンスになる、さらに自分たちが面白いと思った動きや体から自然と発せられるリズムでダンスができることなど、子どもたちにとって、今までにない貴重なダンス体験になったのではないかと思います。合っている・間違っている／できる・できないでは括りきれない、ダンスの魅力、そしてダンスの楽しみ方を伝える授業となりました。担当の先生にとっても黒沢さんの授業は新鮮なものだったようで、内容に対して戸惑いを感じられたこともあったとのことでした。しかし子どもたちと一緒になって取り組みながら、授業がスムーズに進行するよう様々な気を配っていただきました。（川上）

先生から

「ダンスとは、こういうものなんだ」ということを学べた。リズムに合わせ、たのしそうに体を動かす子どもたちをみていて、こちらも楽しめた。より多くの学校が体験できるよう規模拡大してほしい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム「スクール・オブ・ダンス」

横浜市立瀬谷さくら小学校＋Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス

担当アーティスト	矢内原美邦（振付家、演出家、ニブロール 主宰）
実施校	横浜市立瀬谷さくら小学校（瀬谷区）
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／6 学年、2 学級、79 人
実施日程	2012 年 6 月 18 日、9 月 6 日、9 月 18 日、9 月 20 日、9 月 27 日、10 月 30 日

授業のねらい

コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指します。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供し、「体育実技発表会」の発表へと繋げるキーとなる多様な方法を実践する。また、後半は発表会で上演する作品の構成等のアドバイスに重点を置いた授業を予定。

主な内容

（1 日目）ストレッチ、歩く・走る・止まる・ポーズ、グループでポーズから創作（2 日目）ストレッチ、重いからだ、軽いからだ、重たいからだと軽いからだの組み合わせ（3 日目）ストレッチ、重いからだ、軽いからだ、イメージから動きを作る・グループ創作（4 日目）ストレッチ、重いからだ、軽いからだ、イメージから創作、実技発表会の振付（5 日目）ストレッチ、実技発表会の振付・練習（6 日目）実技発表会作品練習とのアーティストからのアドバイス

アーティストから

子どもの発想力を伸ばすには、先生方の勉強、理解も必要で、かつ重要であると感じました。私が担当した先生方や子どもたちは協力的で、いろいろなことにチャレンジして下さりとても勉強になりました。ダンスは、子どもたちのコミュニケーションや発想力を伸ばして日々上達してゆき、コミュニケーションのあり方を学びとることができたように思います。

コーディネーターから

表現運動を主に、実技発表会に向けた練習で構成。矢内原さんの強烈な個性とエネルギーで子どもたちと先生を巻き込み、開放的な授業の雰囲気が作られました。子どもたちは最初から男女の壁がなく、課題に積極的に挑戦する様子が見られ、それが最後の発表会でも十分に発揮されたと思います。(岡崎) アーティスト・先生ともに非常に熱心な指導の賜物で、子どもたちが大きな変化を見せました。まずは柔軟性の向上です。そして最もウェイトの大きい表現力・創作力。アーティストの提示した創作の方法論は非常に実践的で、子どもたちにとっても後々活用できる内容であったと思います。後半で行った実技発表会の表現運動では、子どもたちは表現に対して主体的に動いており、様々なアイデアを出していて、アーティストも感心するほどでした。(松岡)

先生から

アーティストの方々、関係者の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。授業日程を決める際には、私どもの学校行事予定に合わせて組んで下さり、幾度の変更にも対応して下さいました。授業のときには、私どもの演技構成に対する大まかなイメージをていねいに聞いて、それに合わせた授業をして下さいました。一回の授業人数が 80 名近くになってしまい、やりにくい部分が多かったと思いますが、子どもたちも私どもも、本物の“表現”に触れられたことを幸せに感じております。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム「スクール・オブ・ダンス」

横浜市立元石川小学校＋Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス

担当アーティスト	東野祥子（振付家、ダンサー）
実施校	横浜市立元石川小学校（青葉区）
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／5 学年、4 学級、145 人
実施日程	2012 年 7 月 2 日、 7 月 3 日、9 月 10 日、9 月 12 日、9 月 18 日、11 月 6 日

授業のねらい

コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指します。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供し、「体育実技発表会」の発表へと繋げるキーとなる多様な方法を実践する。また、後半は発表会で上演する作品の構成等のアドバイスに重点を置いた授業を予定。

主な内容

（1 日目）身体作り、ペアストレッチ、コンビネーション（一連の短い振付）(2 日目）ストレッチ、コンビネーションの練習、身体の中のボール、ペアで動かし動かされ（3 日目）ストレッチ、コンビネーション、リーダーの真似っこ、リーダーの指示された部位を動かす、お題から即興大会（4 日目）ストレッチ、コンビネーション、お題から即興、小作品の練習（5 日目）ストレッチ、コンビネーション、小作品の練習（6 日目）実技発表会作品のアドバイス

アーティストから

子どもたちの真摯な姿勢と身体の取り組み方に感心しました。かなり濃度高い内容で授業を実施しているのですが、しっかり目的を理解し、自身の身体を意識出来ていたと思います。表現力も存分に発揮していて、イメージする言葉から動きを連想するシーン等では非常にユニークな動きや発想で身体を使って表現していました。

コーディネーターから

実技発表会での全クラス合同を意識し、授業はクラス単位～2 クラス合同～4 クラス合同というように、子どもたち同士が徐々に全体運動に慣れるように構成。東野さんはその中で共通した動きを繰り返すことで、子どもたちに自信が生まれるようにリードしていました。実技発表会には授業での取り組みが直接的には反映されていませんが、子どもたちは東野さんのユニークな振付を通して、どのような動きも表現になりうると実感したと思います。(岡崎) 子どもたちがとても素直でどの授業内容に対しても興味を持って取り組んでくれました。コンビネーションはコンテンポラリーダンス特有な動きに日常動作を少し取り入れた動きで、回を重ねるごとに子どもたちが上達していき、コンテンポラリーダンスは子どもにとっても面白い素材である事を実感しました。限られた時間でのプログラムでしたが、確実に子どもたち・先生方に新しい風を吹き込み、表現力の向上につながったと思います。(松岡)

横浜市芸術文化教育プラットフォーム「スクール・オブ・ダンス」

横浜市立荏田南小学校＋Offsite Dance Project スクール・オブ・ダンス

担当アーティスト	黒田育世（振付家・ダンサー、BATIK 主宰）
実施校	横浜市立荏田南小学校（都筑区）
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／5 学年、1 学級、36 人
実施日程	2012 年 7 月 10 日、9 月 19 日、 9 月 21 日、9 月 26 日、9 月 28 日、11 月 20 日

授業のねらい

コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指します。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供し、「体育実技発表会」の発表へと繋げるキーとなる多様な方法を実践する。また、後半は発表会で上演する作品の構成等のアドバイスに重点を置いた授業を予定。

主な内容

（1 日目）からだを使ってさまざまな形を作る（2 日目）集団の中で相手に伝わる動きを発する、それを読み取る（3 日目）２人組で相手が発する微細な動きを読み取る／アーティストのダンスを鑑賞する（4 日目）からだの重さや熱を感じ、自身のからだを再認識する（5 日目）「振付を踊る」ことを体験する（6 日目）体育実技発表会で上演する作品のブラッシュアップ

アーティストから

①声を使って体を動かすことから擬音まで発展させましたが、少しでも意味を伴う音になると抵抗を感じる子が多く、動きと意味の間の難しさを感じました。 ②夏休みを明けて、男子と女子でグループがはっきり分かれたことが印象的でした。③まずやってみる、という気分をお伝えしたいと思いました。

コーディネーターから

体づくりと表現運動を主とした構成で、実技発表会で子どもたちが柔軟に豊かな表現を獲得していく方法をさまざまな形で実践しました。黒田さんの授業は、自己と他者を意識すること、そのための身体の気づきを育んでいくような内容で、子どもたちが思考するような静謐なダンスの時間が授業に流れていました。実技発表会には直接的に結びつかないまでも、子どもたちと先生方がダンスを通した表現活動に新しい発見があったと思います。（岡崎）「からだの声を聴く」「相手のことを想いやり、伝えることを大切にする」この２点を中心に授業が進められました。はじめは、小学校５年生には少し難しい内容ではないだろうかと心配していました。しかし、授業が進むにつれ、黒田さんと児童との間に信頼関係ができ、黒田さんの声がしっかりと児童に届いていることを感じました。また、担任の先生との関係も良好で、先生が求められるものと、黒田さんが伝えたいことがうまくマッチングした授業が全体を通して実施されたと思います。（梶本）

先生から

プロの方の指導を直接受けられることにとても魅力を感じた。子どもたちの様子を見ながら、実態に合わせて活動を行ってくださり、よりよい活動となっていた。また、実際に普段取り組んでいるダンスを披露して下さり、目の前でプロの方の動きを見られたことは、なかなか経験することのできないことであり、子どもたちの印象に残るものとなった。そして、そのような方に教えていただいたということが自信にもつながっていった。

子どもたちから

みんなでダンスや新聞を使って表現したことが楽しかった／相手の動きを聞くということを今まで考えたことがなかったので最初はよくわからなかったが、行っていく中で友達としっかり取り組めたのでよかった

【アーティストプロフィール】

■アーティストプロフィール

担当したな主な芸術家の略歴は、以下の通りです。実施時点のもので、五十音順です。

ART LAB OVA

1996 年アーティストによる非営利グループとして発足。2010 年、10 年間拠点としていた桜木町から横浜最後の名画座であり唯一の独立系映画館であるシネマ・ジャック＆ベティのある多文化な下町、若葉町に移転。映画館、スナック、商店街、動物園、学校、福祉施設など、まちの狭間で「場」や「出来事」を通じて「関わり」を探るアートプロジェクトとして活動を展開している。

石川高

1990 年より笙の演奏活動をはじめ、国内、世界中の音楽祭に出演してきた。近頃は催馬楽などの歌唱でも高い評価を受けている。雅楽古典曲のみならず、現代作品や自主作品の演奏、即興も情熱的に行っている。宮田まゆみ、豊英秋、芝祐靖各氏に師事。雅楽団体「伶楽舎（れいがくしゃ）」に所属。ローラン・テシュネ監督「アンサンブル室町」所属。和光大学「日本の芸能 1(前期)」担当。学習院大学「日本の伝統芸能」参加。沖縄県立芸術大学、九州大学にて集中講義担当。朝日カルチャーセンター「古代歌謡」担当。 http://radiant-osc.com/

伊藤千枝

振付家、演出家、ダンサー／珍しいキノコ舞踊団主宰。1990 年「珍しいキノコ舞踊団」を結成。以降全作品の演出・振付・構成を担当し、国内外で作品を発表している。公演は劇場の他、美術館の中庭や映画館、事務所やカフェなど、カラフルな舞台美術や衣装とともにあらゆる空間で上演。その様々な空間で立ち上がるダンスを観客とともに体験し、それぞれの場所、それぞれの身体がもっているダンスを探り「楽しむ」ことを目指している。その他、映画、CM、他のアーティストとのコラボレーションなども行っており、活動は多岐にわたる。2003 年～2004 年 NHK 教育テレビ「ドレミノテレビ」の振付を担当、2007 年映画「めがね」の振付など。2005 年より桜美林大学の非常勤講師を務める。

井上大輔

ダンサー。83 年生まれ。桜美林大学総合文化学科卒業。大学より木佐貫邦子にコンテンポラリーダンスを師事。07・08 年は伊藤キム主宰のダンスカンパニー『輝く未来』で活動。退団後自身振付によるソロダンスを 3 作品発表、自己の表現者としての修練に励む。また桜美林大学主催の市民参加型群読音楽劇への出演や、ピアニスト・指揮者の中川賢一とのコラボレーション WS、パーカッショニストのはたけやま裕、遊佐未森の LIVE で踊るなど他ジャンルの表現者との活動にも力を入れている。21 世紀ゲバゲバ舞踊団所属。

上村なおか

5 歳よりバレエのレッスンを始める。木佐貫邦子に師事し「néo」の中心メンバーとして多数の木佐貫作品に出演。その後、笠井叡にダンスとオイリュトミーを師事し、『青空（seikuu）』シリーズや『透明迷宮』等に出演。身体の発見と冒険をキーワードに 95 年より自作ソロダンス開始し、国内外で発表。近年は他ジャンルのアーティストとの協働作業やワークショップ、振付や共作にも積極的に挑む。桜美林大学非常勤講師。 http://www.naoka.jp/

うめぐみ

ワークショップアーティスト。うめぐみは廣島佐映子、遠山和美、川崎 信の3人のユニット。横浜美術館子どものアトリエでの指導補助の経験を活かした子どもが自ら描きつくる気持ちを大切にした指導をする。

遠田誠

ダンサー。1995 年、「伊藤キム＋輝く未来」に旗揚げより参加。2001 年、様々な物事のハザマに立ち、表現行為の越境を試みる部活「まことクラヴ」を結成。劇場空間はもとより美術館、博物館、商店街などで脱領域型の活動を展開。美術のフェスティバルにも多数招聘され、ジャンルとしての越境を試みる。2011 年、「D-BOYS STAGE 2011 ヴェニスの商人」（主催：ワタナベエンターテイメント/ネルケプランニング）にステージングとして参加、「ヨコハマトリエンナーレ 2011」PR キャラバン隊長に就任。また 2008 年度より東京造形大学にて非常勤講師も勤める。2005 年東京コンペ #2 ダンスバザール大賞受賞、2006 年トヨタコレオグラフィーアワード 2006 オーディエンス賞受賞、2007 年第 1 回日本ダンスフォーラム賞受賞。

大島おりえ

ダンサー、振付師。1998 年～大手ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞにて HIPHOP・JAZZDANCE・KIDZDANCE 等を指導。同時に、ﾐｭｰｼﾞｶﾙやﾃﾞｨﾅｰｼｮｰ等のﾀﾞﾝｻｰの経験を積み、振付師となる。 栄養士資格有。2004 年～ﾀﾞﾝｽｻｰｸﾙ JOINT を始動し、2007 年に独立。DANCE STUDIO JOINT を設立し、代表となる。

大島康幸

彫刻家・美術講師。1962 年群馬県出身、東京造形大学卒業後多摩美術大学大学院に進学し 1987 年修了。その後東京を中心に画廊、百貨店、美術館等で個展、グループ展を開催。主に木を素材とした具象作品で 2002 年からの FAKE FUR シリーズでは動物の表皮をモチーフに新しい生命表現を試みている。初期作品が横浜美術館に収蔵されている。また作家活動の傍ら東京都内の私立中学高等学校にて美術講師を務める。

太田ゆかり

ダンサー・振付家・演出家。1969 年東京生まれ。幼少より舞踊を始め、様々な舞台活動を経て、コンテンポラリーダンスを学ぶ為 1993－96 年渡仏。パリにて、PETER GOSS、JOSE CAZENEUVE に師事。1999-2011 年 Dance Theatre LUDENS 所属。カンパニー設立より全作品に出演し、国内外の全ツアーに参加。02 年よりダンサーのほかアシスタントディレクターとして演出・振付補佐も務めた。 現在はフリーで活動。これまでにソロ作品「Pulse」、ダンス×ピアノ「TERRIITORHYTHM」、ヴァイオリンとの共演 「ECHO」他、様々なジャンルの音楽家とのコラボレーションをシリーズ化し上演。11 年、ジェローム・ベル演出 「ザ・ショー・マスト・ゴー・オン」に出演。ほか即興パフォーマンス、LIVE 等多岐にわたり活動。ワークショップ等講師の機会も多く、アライメントを重視した独自のテクニックを体系化して指導にあたる。06 年からはヨガ指導も行っている。

岡崎香奈

音楽療法・音楽教育。洗足学園音楽大学・大学院准教授、芸術学博士。英国王立音楽院ピアノ科卒。ロンドン・ノードフロビンズ音楽療法センターにて英国音楽療法士資格、ニューヨーク大学大学院にて米国音楽療法士およびノードフ・ロビンズ音楽療法レベルⅢ（教員資格）取得。日本音楽療法学会評議員および同学会認定音楽療法士。世界音楽療法連盟・養成教育委員。現在、教鞭をとる傍ら大学内臨床センターおよび他施設（都立永福学園、都立精神保健福祉センターなど）にて知的障害児・者、肢体不自由児、精神障害者対象の音楽療法を実践している。また、川崎市の教員を対象とした研修会や川崎市内の小学校にて公開授業も行う。著書・訳書のほか、不登校児対象の音楽療法や音楽教育における音楽療法的アプローチに関する研究もある。

奥田雅楽之一

地唄三弦・生田流箏曲演奏家/作曲家。1979 年東京生まれ。祖母中島靖子に生田流箏曲を師事。祖父唯是震一に地歌三弦を師事する。後年、名古屋の今井勉に平家琵琶を師事。胡弓を森雄士に師事。又、作物を二代富山清琴に師事する。（平成 16 年度文化庁国内研修生）1985 年国立大劇場にて初舞台。1994 年、歌舞伎「黒塚」に出演後、熱望していた西洋音楽（作曲）の勉強の為、5 年間邦楽器から遠ざかる。復帰した 1999 年以降は歌舞伎や日本舞踊の地を務める他、「NHKラジオ」等にも出演。2002 年、「雅楽之一（うたのいち）」の名を受く。年々増える大舞台を一つ一つ大切に務め上げる一方、西洋音楽を中心とした作曲活動にも積極的に取り組んでいる。しかし何より、古典の習得に余念がない。

柏木陽

演劇百貨店店長・代表理事/俳優・演出家。1993 年、演劇集団「NOISE」に参加、演出家・劇作家の故・如月小春と活動。2003 年に NPO 法人演劇百貨店を設立、代表理事に就任。全国各地の劇場・児童館・美術館・学校などで、子どもたちとともに独自の演劇空間を作り出している。近年の主な仕事に、兵庫県立こどもの館での中高生との野外移動劇創作、世田谷パ

ブリックシアター「地域の物語ワークショップ・ティーンズ班」の演出・進行など多数。

片岡祐介

打楽器奏者、作曲家。1969 年生まれ。愛知県豊橋市で育つ。少年時代に独学で、木琴やピアノの演奏をはじめる。東京音楽大学で打楽器を学び、映画やコマーシャル音楽での経験を積んだ後、97 年から 2000 年まで、岐阜県音楽療法研究所にて研究員として勤務。障害児者との演奏共演を多数行う。マリンバのソロコンサートなどジャンルに拘らない演奏活動の他、音楽療法士のための実践的な講座を全国各地で行っている。また、幼児から高齢者まで幅広い人を対象に、即興演奏のワークショップも行っている。2006 年度、NHK 教育テレビのエキセントリックな音楽番組「あいのて」に「黄色のあいのてさん」としてレギュラー出演し反響を呼ぶ。マリンバ奏者として、新作の委嘱、演奏活動を数多くおこなっている。CD に片岡祐介と子どもたち「ポリフォニック・パーカッション」(NPO 法人クリエイティブサポート Let's)、著書に「CD ブック 音楽ってどうやるの」(野村誠と共著:あおぞら音楽社)がある。http://www.usiwakamaru.or.jp/~usuke/

雷門花助

落語家。平成 11 年 9 月 雷門助六に入門。平成 12 年 4 月 楽屋入り。平成 16 年 4 月 二ツ目昇進。

川田知子

ヴァイオリニスト。東京芸術大学在学中、第36回パガニーニ国際コンクール5位入賞。1991 年、東京芸術大学を首席で卒業。同年、第5回シュポア国際コンクールにて優勝。1992 年1月、NHK交響楽団と共演。バルセロナ市立管弦楽団、サンクトペテルブルグ交響楽団、モスクワ・フィルハーモニー交響楽団などの日本公演にソリストとして起用され高評を博す。1999 年4月にはサンクトペテルブルグ交響楽団の定期演奏会に招待され、大成功を収めている。2002 年 デビュー10 周年のリサイタルでは驚異的な集中力でイザイの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ全6曲を見事に弾き切り、大絶賛を浴びる。第 33 回エクソンモービル音楽賞、洋楽部門奨励賞を受賞。ソリストとしての活動の他、室内楽、ジャパン・チェンバー・オーケストラでも活躍。

河原厚子

成蹊大学時代よりジャズクラブで歌い始める。その後コーラス・ヴォーカリストとして、数多くのスタジオワークやツアー、CM製作等をこなす。1983 年にニューヨークへ渡り、ハーレムのジャズスクール、ジャズモービルで本格的にボーカルを磨き直す。帰国後、東京・横浜のジャズクラブで精力的にライブ活動を展開する一方、親子のためのコンサート、小・中学校、生涯教育学校でのトーク&ライブ等、3歳から大人までのジャズの実験教室など、多彩な場所で活躍している。

カンジヤマ・マイムB

パントマイミスト。埼玉県与野市生まれ。桐朋学園大学演劇専攻科卒。19 歳の時、カンジヤママイム著『おしゃべりなパントマイム』に出会い弟子入り。アメリカマイムの第一人者、トニーモンタナロ氏に師事。テレビ、舞台、TDS、寄席など様々なジャンルで活動。最近では NHK 教育テレビおかあさんといっしょ『パント!』のコーナー振付指導に参加。

神田佳子

打楽器演奏者。東京芸術大学卒業及び同大学院修了。これまでに、ソリストとして東京フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団等と共演や、東京オペラシティ主催リサイタルシリーズ「B→C」(1998)、NHK「FMリサイタル」、TV朝日「題名のない音楽会」などに出演。久石譲、小椋佳等らのコンサートツアー、NHK 大河ドラマ『北条時宗』の音楽をはじめ、数多くのレコーディングなどに参加。現在、独自のリズムワークショップも展開中。

北村成美

ダンサー、振付家。1971 年 1 月 15 日、大阪府生まれ。やぎ座 B 型。人はどんな境遇にあっても、生を楽しみ、切り開いてく力を備えていると考えている。この「創造力」を根本に、ストイックでエンターテイメント性豊かな舞台作りを目指している。そうした作品群には、戦い続ける勇姿の切なさや滑稽さがあり、観客を巻き込むパフォーマンス、小さな身体から炸裂するバカおどりには、いつも笑いと哀愁が漂う。真剣に身体を張るところにソロダンスの醍醐味と自身の存在価値を見出しており、一週間ひとりで踊り続ける「ダンスマラソン」や、ご家庭の居間にダンスをお届けする「ダンスアットホーム」など、パワフルな活動を展開している。また、ダンスを作り見せるだけにとどまらず、その楽しみ方を様々な形で社会に提案していくことがコリオグラファーの使命であるとし、生活の現場で起こる様々な動きの中にダンスがあることを発見するワークショップや、観客・地域住民との共同製作によるダンス公演づくりにも積極的に取り組んでいる。バレエカンパニー、市民ミュージカル、劇団、養護施設などへの作品提供も数多く手掛けている。
http://www.shigeyan.com/index.html

京極朋彦

ダンサー・振付家。1984 年 12 月 1 日生まれ。07 年京都 造形芸術大学、映像・舞台芸術学科、舞台芸術コース卒業。在学中、 太田省吾、山田せつ子らに師事。京都を拠点に国内外問わず様々な 作品に参加。卒業制作『鈍突』は学科最優秀賞を受賞。2010 年に発表されたソロダンス『カイロー』は京都、東京、横浜で再演される。 2012 年「京極朋彦ダンス企画」を設立。同時に、京都アトリエ劇研と共催し、若手振付家の作品発表の場として KYOTO DANCE CREATION を立ち上げる。

熊沢栄利子

邦楽奏者。箏。砂崎知子氏に師事。NHK邦楽技能者育成会卒。1978 年日本音楽集団入団。81 年NHKオーディション合格。2001 年から尺八の米澤浩と開始した海外ツアーは、欧州・中米等 11 カ国で60公演を越える他、幅広く活動。日本音楽集団団員。《島根邦楽集団》顧問。生田流宮城社教師。

倉品淳子

俳優。82 年より演劇活動を開始。RKB ラジオに出演するなどタレント活動を経て、90 年に「山の手事情社」に入団。出演作に『オイディプス王』『道成寺』『タイタスアンドロニカス』など。02 年、ヘブンアーティスト(東京都公認ストリートパフォーマー)資格を取得。国内、海外での舞台活動と並行して市民劇やワークショップにも取り組む。

黒沢美香

振付家・ダンサー。横浜生まれ。5 歳から舞踊家の両親(黒沢輝夫・下田栄子)のもとでモダンダンスを習う。1982〜85 年 NY 滞在中ジャドソン・グループを追いかける。「黒沢美香&ダンサーズ」、ソロダンス『薔薇の人』シリーズを図り、踊る大学教授陣「ミカヅキ会議」を新設。子どもの文化芸術体験事業や、社会・地域連携プログラムに参加。舞踊コンクール第 1 位、新人賞、優秀賞、舞踊批評家協会賞、日本ダンスフォーラム賞、ニムラ舞踊賞など受賞。日本のコンテンポラリーダンス界のゴッドマザーと称されている。

黒田晃弘

木炭画家。1970 年北海道生まれ。札幌市在住。2000 年より黒田一人による芸術文化向上委員会「lopnor」の活動を開始。さまざまなイベントや展覧会などを企画・制作する。他者との関係生成のきっかけとして「似顔絵描き」をはじめ、最近ではそれが主要な表現活動、兼自身の生活の一部となりつつある。この「似顔絵描き」から、「横浜トリエンナーレ 2005」に招聘された。

黒田育世

振付家・ダンサー/BATIK 主宰。6 歳よりクラシックバレエをはじめる。谷桃子バレエ団に所属しながら 1997 年渡英、コンテンポラリーダンスを学ぶ。2000 年より「伊藤キム+輝く未来」で活動。2002 年に「BATIK」を設立。2003 年に SPAC ダンス・フェスティバル 2003 の「優秀賞」、トヨタ・コレオグラフィーアワード 2003 のグランプリ「次代を担う振付家賞」を受賞。2004 年に『花は流れて時は固まる』『SHOKU』で「第 4 回朝日舞台芸術賞」「キリンダンスサポート賞」を同時受賞。カンパニーでの活動に加え、飴屋法水、古川日出男、笠井叡、野田秀樹などさまざまなアーティストとのクリエーションも多い。映画『告白』(中島哲也監督/10 年)への出演も話題となった。

KENTARO!!

ダンサー/振付家、東京 ELECTROCK STAIRS 主宰。1980 年生まれ。HIPHOP を中心としたテクニックをベースとしながらも既存のスタイル化されたものとは、かけ離れた独自の表現を実践している。作風としては自身の作るオリジナル音源と曖昧にシンクロしながら、意味のある、なしをトコトン織り交ぜ構成した物語的ダンスである。2008 年 横浜ダンスコレクション R にて「若手振付家のための在日フランス大使館賞」、トヨタコレオグラフィーアワード 2008 にて「オーディエンス賞&ネクステージ特別賞」、2010 年に

は「日本ダンスフォーラム賞」を受賞。海外からの招聘も多数あり、昨年にはドイツ 3 都市、本年はインド 3 都市ワンマンツアーを行った。またソロと並行し、ダンスカンパニー＜東京 ELECTROCK STAIRS＞を主宰。ソロ、カンパニー問わず国内外で精力的に想いと踊りを発信している。http://www.kentarock.com/

小森谷裕子

ピアノ。桐朋学園高校音楽科、同大学音楽学部卒業。在学中よりリサイタル、TV、FM、コンクール、CD などで数多くの演奏家と共演。1990 年、第 9 回チャイコフスキー国際音楽コンクールで最優秀伴奏賞を受賞。ダニール・シャフラン・ヨゼフ・スーク、ハーヴィ・シャピーロ、マリオ・ブルネロ、エマニュエル・パユなどと共演。

Co.山田うん：川合ロン、城俊彦、三田瑶子

ダンスカンパニー。2002 年設立の山田うん主宰のダンスカンパニー。機知に富んだユニークな振付、緻密な構成、ダンサーのビビットな身体は観る者の知性と感性を同時に触発する。ライヴ感溢れ「今」を謳歌する作品は最先端でありながらどこか懐古的。繊細かつダイナミックな作品レパートリーは舞台芸術ファンのみならず、世代や国境を超えた多くの人々から絶賛されている。最近では2012 年 3 月、新作「季節のない街」をシアタートラム、北九州芸術劇場にて上演、好評を得た。

齋藤眞紀

美術家。1964 年川崎に生まれる。和光大学人文学部芸術学科卒。鶴見区在住。舞台美術を皮切りに、絵画、立体造形、版画や風景スケッチと、抽象、具象を問わず様々なジャンルで製作活動を行っている。近年は、川崎市市民ミュージアム、郡山市立美術館、岩崎ミュージアムなどでのワークショップをはじめ、スケッチ会の主催に保育園での絵画教室と、さまざまな年齢の人達とふれあいながら、美術の楽しみを広める活動にも力を入れている。

櫻田素子

ガムラン演奏家。横浜生まれ。ガムラングループ・Terang Bulan（トゥラン・ブーラン）主宰。日本各地で演奏の他、バリ島芸術祭に度々招聘され参加。日本人として現在進行形のガムラン音楽の創作、様々なアーティストとのコラボレーションにも取り組む。国立音楽大学卒、日本児童育成協会こどもの城を経てフリーランスに。芸術教育研究所客員研究員。音の森ガムランスタジオ講師、INJ カルチャーセンター・ガムラン講師。

三笑亭可女次

落語家。平成 6 年 先代古今亭志ん馬に入門し「志ん吉」に。没後小笠原諸島父島でウミガメの調査に携わる。 平成 14 年 九代目三笑亭可楽に入門し「可女次」に 。 平成 19 年 二ツ目昇進。

清水詩織

東京都交響楽団チェロ奏者。7 歳よりチェロを始める。桐朋女子高等学校を経て、2008 年、桐朋学園音楽学部演奏学科を卒業。2010 年 3 月、桐朋オーケストラ・アカデミー研修課程を修了。2002 年、いしかわミュージックアカデミーにて IMA 音楽賞を受賞。2006 年、第 7 回ビバホールチェロコンクール第 4 位入賞。チェロを毛利伯郎氏に、室内楽を徳永二男、原田幸一郎、毛利伯郎、東京クァルテットの各氏に師事。現在、東京都交響楽団団員。

SHIMURAbros

映像作家。ユカ（1976 年横浜生まれ）＆ケンタロウ（1979 年横浜生まれ）による姉弟ユニット。英国セントラル・セント・マーチンズ大学院映画・舞台芸術学部卒業。現在横浜を拠点に、新たな映像装置の発明によって既存の枠をこえたイメージの実体化を企てる。「SEKILALA – 3screen installation」が 平成 21 年度「第 13 回 文化庁メディア芸術祭」アート部門優秀賞受賞。カンヌ及びベルリン国際映画祭での上映をはじめ、ロンドン、パリ、ウィーン、メルボルンなど、国外にも作品発表の場を広げている。

城田有子

尚美音楽院でジャズピアノ、水島早苗ボーカルスクールでジャズボーカル、メイト音楽院でジャズ理論を学び大学在学中より音楽活動を始める。1981 年渡米し、シダー・ウォルトンにジャズピアノを師事。“城田有子とサンシャインベイブ”結成。テイチクよりオリジナルアルバム「フローラルブリーズ」をリリースして注目を高める。1985 年、1986 年ゴールデンカイド世界音楽祭に2年連続日本代表として出演し優秀作品賞、編曲賞を受賞。2000 年横浜から世界に向けて文化を発信しようというコンセプトのもと Yokohama Asociation of Artists(Y.A.A)を主宰する。最近では自身のゴスペルグループやサイケデリックダンスバンドなどのグループを率いながら、プロデューサーとしても活躍中。

新生呉羽

美術家、舞踏家。ダンスの特性にこだわる無音、即興のダンス:「存在の夢」を国内各所、フランス、ポーランド、イタリア、イギリス、カナダ、中国の現代美術のシーンで継続。即興における、積み重なる瞬間の選択が「あんなのもありなのか」と選択の自由と勇気を喚起することを目指し、石の上、水の中、山、城、劇場、学校などで stamping：踏むダンスを展開。笑いのこぼれるような新しい律動が光の方に向かうことを願って。

善竹富太郎

大蔵流狂言師。社団法人能楽協会会員。昭和 54 生まれ 善竹十郎氏長男。祖父故善竹圭五郎、父・善竹十郎に師事。3 才より稽古を始め、5 才の時に狂言「靭猿」の子猿役で初舞台。その後 20 才で「三番三」、22 才で「那須」、24 才で「釣狐」を披く。「SORORI の会」「狂言道場」主宰。昭和音楽大学講師。

高橋由貴子

創業安政年間高橋工房代表、東京伝統木版画工芸協会組合理事長、NPO法人伝統木版画ルネサンス理事長。浮世絵版画の復刻はもとより、日本画家、洋画家、彫刻家等の作品を木版画に再現し、技の向上につとめる。又、人材育成に力を注ぎ、若手彫師、摺師と共に現代に向く作品作りを企画制作。

武田力

俳優。1983 年生まれ。立教大学教育学科を卒業後、幼稚園勤務を経て俳優としての活動を始める。『三月の５日間』をはじめとするチェルフィッチュ作品、飴屋法水演出『4.48 サイコシス』等に出演。アートプロデュースも行い、YOKOHAMA 創造界隈コンペ 2008 を受賞した『手のひらが横濱』や、日比野克彦氏の作品、野外ヒノキ舞台［But-a-I］にて開催した『いけぶくろの動物園』のプロデュースなど、演劇の枠にはまらず様々なアート・パフォーマンス分野に活動を拡げている。

田中麻紀

ピアニスト。東京芸術大学付属高等学校を経て、同大学卒業。ドイツ・シュトゥットガルト音楽大学大学院卒業。シュポア国際ヴァイオリンコンクールにおいて、最優秀伴奏賞受賞。第4回日本室内楽コンクール第1位。ソロ、室内楽など幅広く演奏活動を行っているが、特にアンサンブルピアニストとして定評がある。

珠（ＴＡＭＡＫＩ）

スティールパン奏者。幼少よりピアノを習いその後パーカッションを学ぶ。2005年にトリニダードトバコ共和国に渡航、現地の Steel Pan Band に参加、同共和国最大のコンテスト PANORAMA に出場、参加バンドが優勝する。ソロ活動、バンドサポート、アントニオ・古賀氏のサポートメンバーとして全国のコンサートや海外公演のほか、首都圏6箇所で SteelPan教室講師。2011年には自身の初 CD をリリース。日本の童謡唱歌を Steel Pan でアレンジ、好評を博している。

団のぼる

演出家・役者。小川 雅功と共に演劇塾を創立した男。現在は神奈川県アマチュア演劇連盟理事を務める。 最近は合同公演演出や外部演出等で活躍。役者・裏方・演出と幅広くこなす多才な実務型。 多才ゆえに引く手あまた。団の参加した企画は大小に関わらずことごとく成功を収める。 2002 年の第 31 回公演「ひぐらし一座 騒動記」を花道に、演劇塾を卒業。 現在は、磯子区の市民劇団 横綱チュチュ、栄区の劇団ぽかぽか、栄区キッズ劇場等次世代演劇人の指導・育成や演劇環境の向上発展のために日々多忙に活動中。横浜アマチュア演劇界の至宝。

鶴川勝也

NPO 法人ミラマーレ・オペラ。国立音楽大学卒業。横浜みなとみらいホール『オペラの音符たち』では《カヴァレリア・ルスティカーナ》アルフィオ、横浜オペラ未来プロジェクトでは《フィガロの結婚》伯爵で出演。 みなとみらい小ホールオペラでは《ジャンニ・スキッキ》《こうもり》に出演。「第九」等のソリストを始め数々のオペラやコンサートに出演。ニューヨークへ 留学。カーネギー・リサイタルホールにてピアニスト相原郁美とジョイントリサイタルを行い好評を得る。

天真書法　咲碧玄会

書家。2001 年より天真書法塾にて青木天外氏に師事。現在、師範科に在籍。中国国際展（傅山展・顔真卿展）の準大賞受賞など、数々受賞。その他、中国（西安碑林）展、台湾（中正記念堂臨書）展、チェコ・プラハ日本展に出展。各地で書道教室を開催し、中国の伝統書法を基礎にしてオリジナリティあふれる書道教育を行っている。

中市真帆

表現活動講師、演出家。NPO 法人 Homo Ludens 理事長。玉川大学文学部芸術学科演劇専攻卒。高知県ワークショップドラマ塾。コミュニティー FM レディオ湘南「おはなしどんとはれ」DJ、朗読劇講師、アナウンサー等を歴任、日高村長山田「プラウランド」コーディネーター、俳優、演出家、表現ワークショップ講師、「絵本で遊ぼう」講師。

中川賢一

音楽家。ピアニスト。桐朋学園大学でピアノと指揮を学び、卒業後、ベルギーのアントワープ音楽院ピアノ科首席修了。97 年オランダのガウデアムス国際現代音楽コンクール第 3 位。98 年に帰国後、ソロ、室内楽、指揮で幅広く活躍。NHK-FM 出演、新作初演も多い。サントリーサマーフェスティバル、東京の夏音楽祭、武生国際音楽祭に数多く参加。現代音楽アンサンブル「アンサンブル・ノマド」のピアニスト、指揮者。夏木マリの「印象派」シリーズ連続出演や、故・頼近美津子、伊藤ひろ子、平野文等との朗読と音楽など、他分野とのコラボレーションも活発。「Just Composed in Yokohama 03」、04 年「超難解音楽祭」（仙台）音楽監督・プロデュースなども行う。指揮では、東京室内歌劇場、広響他と共演。10 年にはタップダンサーの熊谷和徳 vs 東京フィルを指揮し、各方面から好評を博す。NHK テレビ「名曲探偵アマデウス」、東京フィル、札響、水戸室内管等でピアノ演奏とトークを交えたアナリーゼ等を展開。お茶の水女子大学、桐朋学園大学非常勤講師。01 年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。

中村信子

人形劇俳優・美術家。2006 年度より横浜市芸術推進教育プログラム「パペット」を担当。劇団風の子国際児童演劇研究生を経てどんきい劇場に入団。公演活動のほかTV、映画でも操演。現在NHK「おかあさんといっしょ」人形操作レギュラー出演中。パペットワークショップとして総合学習の表現活動やPTA、親子行事、幼稚園・保育園その他のコミュニケーションづくりのイベントなど開催している。NPO法人地域学習会副理事。中野区社会教育委員。

中村仁美

篳篥演奏者。篳篥を中心に、雅楽古典曲・現代作品の演奏を行う。篳篥、楽箏、左舞、雅楽全般を大窪永夫、芝祐靖、上明彦など各氏に師事。東京芸術大学大学院音楽学専攻修了。雅楽演奏団体「伶楽舎」メンバー。1998 年度文化庁芸術インターンシップ研修員。2002 年に伶楽舎メンバーとして中島健造賞特別賞受賞、2010 年に松尾芸能賞新人賞を受賞。国立音楽大学、沖縄県立芸術大学非常勤講師。CD「ひちりき萬華鏡」(ALM、2006)。

21 世紀ゲバゲバ舞踊団

2011 年 2 月舞踊団結成。メンバーは桜美林大学卒業後、各々の手法でダンスを模索しているダンサー8 名（入手杏奈・辻田暁・井上大輔・伊佐千明・遠江愛・名取秀樹・矢嶋里美・北川結）で構成される。2011 年、新・港村ヨコラボ 11c にてメンバー全員振付・出演による「ワカクマズシクムメイナルモノノスベテ」を発表。2012 年 4 月、初の単独企画公演「ゲバゲバの回 01」を開催。同年 10 月には青山円形劇場にて「ワカクマズシクムメイナルモノノスベテ＃2」を発表。メンバーそれぞれの興味趣向がその都度クリエーションに強く影響される全員振付演出という創作手法の可能性を模索している。

布山タルト

アニメーション作家。1973 年仙台生まれ。慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了。東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻准教授。子どもから大人まで誰でも簡単にアニメーションを制作できるオリジナルの玩具やアプリを開発。国内外の美術館や科学館で多数のワークショップを開催している。日本アニメーション学会会員、日本アニメーション協会理事。

HAL＆Panda

ゴスペルシンガー、ボイストレーナー。個性派ボーカルグループ「COCORO*CO」や「ビックリトル」で活躍中。数多くのグループにゴスペルも指導。国境なき楽団・海を渡る風のプロジェクトリーダー。

東野祥子

振付家、ダンサー。ダンスカンパニーBABY-Q 主宰。10 歳でダンスを始める。2000 年ダンスカンパニー「BABY-Q」を結成。2004 年『ALARM!』でトヨタコレオグラフィーアワード 2004 のグランプリ「次代を担う振付家賞」を受賞。2005 年横浜ダンスコレクション「ソロ×デュオ・コンペティション＋」群舞部門で「未来へ羽ばたく横浜賞」を受賞。代表作に『ALARM!』『GEEEEEK』『error code』など。アメリカ、フランス、イタリア、シンガポール、韓国など海外のフェスティバルに招聘され、国内外で活動を展開。また「煙巻ヨーコ」名義で即興アーティストとのセッションを、クラブ・ライブハウス・ギャラリー・野外等で展開。2000 年 Dance Company「BABY-Q」を結成。2005 年より東京で「スタジオ BABY-Q Lab.」を運営している。

Big Boss Brass Quintet

村上信吾（Tp）、安田遼太（Tp）、保里剛志（Hr）、田中一央（Tb）、生田憲司（Tu）。金管楽器の明るく華やかで時に優しく柔らかいサウンドを、様々なジャンルの音楽を通して多くの方々にお届けしたい、という想いのもとに集まった若手金管楽器奏者による金管十一重奏団「Big Boss Brass」のメンバーによる金管五重奏団。メンバーは、それぞれ音楽大学で専門教育を受け、現在、フリーの演奏家としてオーケストラや室内楽等で活躍しているほか、後進の指導にも力を入れている。

深澤純子

アートファシリテーター。多摩美大卒。～89 年まで同校勤務。アート、ジェンダーのワークショップを女性センターや社会教育施設等多数手がける。現在、NPO法人ヒューマン・サービスセンター主宰、港区コミュニティカフェを運営。ジェンダー論で神奈川大学の講師を務める。横浜在住。

福留麻里

ダンサー・振付家。1979 年東京都生まれ。2001 年、新鋪美佳と共に身長 155cm ダンスデュオ「ほうほう堂」を結成し、2人という関係性を軸にした作品制作と発表を中心に始動。代表作でもある『北北東に進む方法』は、国内外 14 都市で上演を繰り返す。06 年、個人活動も開始。ダンサーとして様々な振付家の作品に出演するとともに、急な坂スタジオ『国際交流レジデンス事業』（アルカディ・ザイデス作品）手塚夏子企画などをはじめとした実験性を伴う企画への参加、朗読パフォーマンスや演劇への出演、ギャラリーやカフェでの小規模上演など、様々な試みを積み重ねながら活動を展開。日常的な仕草にもとづく微妙なニュアンスの動きや、何度も繰り返せる単純な動きなどをモチーフに、何気ないものごとの中にある、そこにしかない面白味や凄みを見つめ、探り出しながら踊っている。

古川展生

チェロ。桐朋学園大学卒業。1996年安田クオリティオブライフ文化財団の奨学金を得て、ハンガリー国立リスト音楽院に留学。1998年帰国後、東京都交響楽団首席チェロ奏者に就任、現在に至る。2003年第2回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。ソリストとしても、東京都交響楽団をはじめ国内多数のオーケストラと共演を重ねるほか、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者を中心とした室内オーケストラ「トヨタ・マスター・プレイヤーズ、ウィーン」、レニングラード国立歌劇場管弦楽団等と全国ツアーで共演。

古川はじめ、荒谷葉子、上村純

ミュージシャン。多様なジャンルからミュージシャンが集まり、独自の音楽で活動する東京カンソン。メンバーの個性でアフリカ、中南米等世界の民族音楽の要素をふんだんに盛り込みながら、独特なハーモニーと葉子の透明感のある歌声で、日本の童謡叙情歌、民謡等を、現代的、斬新なアレンジで次世代に歌い継ぐ。今回は、東京カンソンから、3人のメンバー選出による企画。

前田進一郎

声楽家。昭和音楽大学声楽学科卒業。プッチーニ「ラ・ボエーム」「ジャンニ・スキッキ」、ヴェルディー「リゴレット」「椿姫」「マクベス」「ファルスタッフ」、マスカーニ「カヴァレリア・ルスティカーナ」などこれまでに数多くのオペラやコンサートの舞台にソリストとして立つ。ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、プッチーニ「ミサ・ディ・グローリア」など様々な宗教曲のソリス

トを、国内を中心にカリフォルニア、モスクワ、ソウル等、海外でも務める。2012 年は川崎・しんゆり芸術祭アルテリッカしんゆり 2012 のフィナーレ公演のしんゆり・オペラガラコンサートでアンサンブルソリストとして好評を博す。本年 9 月には藤原歌劇団公演「夢遊病の娘」のアレッスィオとして出演予定。今後に期待がかかる。声楽を松浦健、ジェンナーロ・シーカ、パーリデ・ヴェントゥーリ、アントニーノ・シラグーザ各氏に師事。三育大学非常勤講師、藤原歌劇団団員。

前田侑太郎

大蔵流狂言師。昭和63 生まれ 善竹富太郎に師事。桐朋学園大学演劇科卒。各種公演、アウトリーチ等に活躍。

松本光世

造形・五感ワークショップ講師。兵庫県生まれ。幼稚園勤務の後、美術を学び、1985 年よりこどもの造形指導をスタート。1992年～2007年まで、神奈川県青少年総合研修センター及び県立青少年センターに勤務。児童文化担当として、「こどもアート教室」などを実施。2007年4月～フリーの立場で、アートを通した活動を展開中。

峯崎圭輔

神奈川県出身。国立音楽大学打楽器科卒業。同大学アドヴァンスド・ソリストコース修了。'05 年、TIAA 全日本クラシック音楽コンサート優秀賞受賞。 同年、日本クラシックコンクール全国大会出場。'06 年、日本クラシックコンクール全国大会第二位(一位なし)'07 年、安倍圭子・ジブコヴィッチのマスタークラスを受講。'09 年 12 月、ソロパーカッション・デビューリサイタルを開催。'10 年 4 月、打楽器エンターテイメントグループ「Funcussion」のメンバーとして TV に出演。'12 年 4 月、ソロパーカッションライブ「Recitalive」を開催。クラシックのみならず、ドラムやラテン楽器などのポピュラー演奏や、マーチングにおけるスティックパフォーマンスなど多彩なテクニックを持ち合わせ、ソロやアンサンブル、吹奏楽、オーケストラ、ミュージカルなど幅広い分野で活動中。その他、打楽器アンサンブルの作編曲や吹奏楽指導、後進の指導にも力を入れている。これまでに打楽器及びマリンバを、上野信一、新谷祥子、奥田真広、木次谷紀子の各氏に師事。伊勢原ミュージックアカデミー打楽器&ドラム講師。

宮本益光

オペラ歌手、声楽家、オペラ訳詞家。演奏、作詞、訳詞、執筆、演出と多才ぶりを発揮する新時代のバリトン。東京藝術大学、同大学院博士課程修了。2003 年「欲望という名の電車」スタンリー役で脚光を浴び、翌年の「ドン・ジョヴァンニ」で衝撃的な二期会オペラデビュー。近年は、神奈川県民ホール・びわ湖ホール共同制作「ラ・ボエーム」、新国立劇場の新作オペラ「鹿鳴館」出演のほか、自身が台本を執筆したオペラ「白虎」など、幅広く活躍。CD、著作、詩集も多数リリース。二期会会員。

民族歌舞団　荒馬座

講師は全員舞台公演を中心に行う公演班に所属。保育園・小中学校・一般向け公演を行う一方、太鼓・民舞講習会の講師及び講師助手として活躍中。

望月純吉

文学座 演出家。文学座 演出家 /日本演出者協会員 /日本舞台監督協会員。大正大学非常勤講師 /日活芸術学院 俳優科 講師他。平成 17 年度文化庁新進芸術家留学制度にて1年間ニューヨークで滞在。2001年に文学座座員になり現在に至る。これまでの演出作品は『THE CRISIS－ザ・クライシス』『ダウト DOUBT－疑いをめぐる寓話－』『運転免許 わたしの場合』他。山梨県県民文化ホール、鎌倉芸術館市民参加ワークショップ、松戸市、甲府市、可児市、新潟県長岡市、横浜市高校演劇ワークショップなど、 講師経験多数。

矢内原美邦

振付家、演出家／ニブロール 主宰。1997 年「ニブロール.」を結成、代表兼振付家としての活動を始める。日常的な身振りをベースに現代の東京の空気をドライに提示する独自の振付で国内外で活躍。2001 年ランコントレ・コレオグラフィック・アンテルナショナル・ドゥ・セーヌ・サン・ドニナショナル賞受賞、2009 年日本ダンスフォーラム大賞受賞. 2005 年吉祥寺シアターのこけら落とし公演を契機に「ミクニヤナイハラプロジェクト」を始動、劇作・演出を手がける。第 56 回岸田國士戯曲賞受賞。2012 年横浜文化・芸術奨励賞を受賞する。舞台作品と平行してビデオアート作品の制作を始め、「off-Nibroll」として映像作家の高橋啓祐と共に活動。

山口裕之

ヴァイオリニスト。1953 年東京都生まれ。故・鷲見三郎氏に師事。桐朋学園大学卒業。桐朋女子高等学校(共学)在学中の 1969 年に全国学生音楽コンクール高等学校の部全国第 1 位。75 年第 44 回日本音楽コンクール第 2 位、77 年民音コンクール室内楽部門第 2 位(1 位なし)。1975 年 6 月在学中に東京フィルハーモニー交響楽団に入団、翌年卒業と同時にコンサートマスターに就任し 1979 年まで在籍。1979 年 5 月 NHK 交響楽団に入団、第 2 ヴァイオリン首席奏者を務め、 1984 年 6 月コンサートマスター就任。ゼルフィス弦楽四重奏団を結成、「カザルスホール・レジデント・クァルテット」として活躍。現在、NHK 交響楽団第 1 コンサートマスター、東京藝術大学、桐朋学園大学講師。

山口佳子

声楽家。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程独唱科終了。第 37 回日伊コンコルソ入選。2005 年渡伊、2006 年オルヴィエート市歌劇場公演「ラ・ボエーム」ムゼッタ役、2008 年トスカーナオペラフェスティヴァル「カルメン」フラスキータ役等、国内外のオペラやコンサートに出演。リクルート・オペラスカラシップ第 35 回生。19年度文化庁派遣芸術在外研修員。日本ロッシーニ協会会員。サントリーホール・オペラ・アカデミー・メンバー。藤原歌劇団団員。

山田うん

振付家・ダンサー。1996 年振付家として作品製作・発表を始める。何気ない振る舞いを基にユーモラスで機知に富んだダンス作品には定評がありダンサー・振付家として国内外で公演、ワークショップ等を展開。また、音楽家とのコラボレーションや演劇の振付けなどジャンルを越えて活躍している。2000 年、横浜ダンスコレクション「ソロ×デュオ・コンペティション」にて在日フランス大使館賞受賞後、渡仏。2002 年カンパニー「Co.山田うん」を設立。2006 年度より財団法人地域創造「ダンス活性化事業」登録アーティストとしても活躍中。演劇やオペラの劇中振付や動作指導、学校や施設でのワークショップ等を展開。

山本愛香

ボディーパーカッショニスト。富山県小矢部市に生まれる。幼少の頃、町内の祭りの和太鼓に出会う。10歳よりピアノを、19歳よりパーカッションを始める。桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業、ピアノ科卒業演奏会に出演、その後研究生となる。童謡フェスティバル最優秀賞受賞(作詞作曲部門)、太鼓打ち大会最優秀賞受賞(和太鼓)、富山県新人演奏会最優秀賞受賞(ピアノ)をはじめ、数々のコンクールやオーディションに入賞。研究生時に、秋山和慶(指揮)とガーシュウィンのラプソディー・イン・ブルーを共演、ニューヨークでのインターナショナル・キーボードフェスティバルに出演等、在学中より演奏活動を始める。以後、SINSKE(マリンバ)、木村大(ギター)、藤原道山(尺八)、伊藤かずえ(女優)、大平貴之(プラネタリウムクリエイター)、古澤巌(ヴァイオリン)、葉加瀬太郎(ヴァイオリン)等、各界のトップアーティストともコラボレーションを活発に続け、コンサート、ショー、イベント、テレビ、ラジオ等に出演している。ソロ活動以外にも、和太鼓奏者である姉とのユニット「山本綾乃×山本愛香」をはじめ、「アラカルト」、「そんでけ」、「音魂座」のメンバーとしても活動している。また、ピアノ、パーカ ッション、ボディパーカッションの指導も行なっている。桐朋学園大学附属子供のための音楽教室仙川教室・富山教室打楽器非常勤講師。

ユキ・アリマサ

ジャズ・ピアニスト。3 歳よりピアノを始め、12 歳頃オスカー・ピーターソンを聞いてジャズに魅了され独学で勉強。玉川大学英米文学科卒業後、渡米。バークリー音楽大学でジャズピアノ演奏、作編曲を学ぶ。ピアニストとしてハンク・ジョーンズ賞、デューク・エリントン作曲賞を受賞。1986 年に卒業後、同校ピアノ科助教授として勤務。帰国後、Yuki Arimasa Trio のリーダー及び作編曲家として活動を続ける。洗足学園音楽大学ジャズコースでソルフェージュとピアノのクラスを担当。

横浜シティオペラ

1983 年創立、2004 年に NPO 法人化。横浜を拠点に地域密着型のオペラ及びコンサートを企画運営している。上記出演者は同団体会員。

NPO 法人横浜シティオペラ主催の各種オペラ・歌曲コンサートに出演の他、その他の歌劇団公演や、コンサートに出演活躍中。

吉澤延隆

箏・十七絃箏。東海大学大学院芸術学研究科音響芸術専攻修了。在学中に、平成 18 年度文化庁新進芸術家国内研修制度研修員に採用。2008 年、第 15 回賢順記念全国箏曲コンクールにおいて最高賞の賢順賞受賞。2009 年、NHK-TV 芸能花舞台「今かがやく若手たち」に出演。2011 年、今後の活躍が期待される芸術家へ贈られる第 10 回「宇都宮エスペール賞」を宇都宮市より受賞。また、近年では国内のみならずトルコ共和国、アメリカ、フィンランド、イギリスなどで海外公演も行っている。現在、沢井箏曲院講師。

米澤浩

邦楽奏者。尺八。宮田耕八朗氏に師事。78 年日本音楽集団入団。内外のオーケストラとの共演経験も多く、現在に至るまで 200 公演以上の海外実績を持つ。コンサート活動の以外にも、ワークショップや専門的な講習会の講師など活動の幅は広い。日本音楽集団団員。（財)地域創造邦楽コーディネーター。《島根邦楽集団》顧問。

李真希

陶芸作家。1998 年女子美術大学工芸科卒業。1997 年～2012 年、群炎展・東京都美術館、日本伝統芸術家協会連展・東京芸術劇場、神奈川女流美術家協会女流展などに出展。横浜カフェバーハオハオなどに常設展示。青山スパイラルガーデン、銀座ギャラリー青羅、ギャラリーコンシールなどでグループ展を開催。現在 、陶芸教室きらく講師。

若鍋久美子

千葉県君津市出身。2008 年東京芸術大学器楽科を卒業。現在はフリーの打楽器奏者としてオーケストラ、吹奏楽、室内楽、打楽器アンサンブルなどクラシックを中心に活動する他、即興セッション、ハワイアンバンド、コンテンポラリーダンサーとのコラボレーションなどジャンルを問わず挑戦中。また、親子向けのリズムワークショップや、NPO 法人ミュージック・シェアリングの「楽器指導支援プログラム」に参加し、特別支援学校にて楽器指導も行っている。打楽器トリオ「Tripcy」メンバー。これまでに打楽器を藤本隆文、百瀬和紀、植松透、堀尾尚男の各氏に師事。

【コーディネータープロフィール】

■コーディネータープロフィール

担当したコーディネーターの団体概要は、以下の通りです。実施時点のもので、順不同です。

株式会社オフィスマキナ

オフィスマキナでは、教育・学術関連のイベント、セミナー、コンサート等の企画制作を行っています。おもに、科学教育と音楽の企画を手がけています。平成 18 年度より「横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム」の「声楽」ワークショップを担当。20 年度からは「ジャズ」ワークショップのコーディネーターも担当しています。

http://www.office-makina.com/

企業組合　Media　Global（メディアグローバル）

2005 年横浜市より認可を受け、アートマネジメント管理事業を主軸とする芸術系企業組合として発足。母体は 1998 年設立の市民芸術文化グループ「企画集団夢現 MUGEN」。子どものワークショップを得意として活動してきた。これまで行政との協働事業による「ワークショップ」、市民対象の「アートマネジメント講座」や若手アーティスト支援の公演などジャンルは多岐にわたる。2006 年より「横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム」のコーディネーターを担当。

http://www.mediaglobal.info

よこはま音楽広場実行委員会

よこはま音楽広場は「地域にひらかれた音楽（コミュニティ・ミュージック）」を実施するため、平成 19 年に発足しました。平成 19～20 年度には横浜市市民活力推進局による「文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業」として横浜市鶴見区に在住の外国人と近隣の住民を対象としたワークショップを行い、演奏家を交えたコンサートを行いました。平成 20 年度から「横浜市芸術文化教育プログラム推進事業」「クラシック・ヨコハマ　サロンコンサートブリッジ」の事業に携わり、病院や小学校などに演奏家を派遣し、体験型のコンサートを行いました。平成 23 年度「横浜アートサイト」の事業に携わり、神奈川県立こども医療センターにて、コミュニティ・ミュージックセラピー（CoMT）を実施しました。教育や福祉、または医療機関などで音楽を行う意味や意義を領域横断的な視点から研究しています。

特定非営利活動法人 子どもに音楽を

世の中には素晴らしいものがたくさんあります。それらを出来るだけ多くの子どもたちに伝え残すことが、私たち大人の大切な役目だと思います。その一つとして、一流の演奏家による生の演奏を小中学生の子どもたちに聴いてもらいたい、演奏家の息づかいや楽器の持つ魅力ある音と響きから、機械ではない、人間の心から紡ぎ出される音楽に接してほしいと考えています。平成 18 年の設立以来、各地の小中学校等 104 ヵ所で演奏活動を実施しており、海外のアーティストにもご協力いただいております。

http://www.kodomoniongakuwo.sakura.ne.jp/

特定非営利活動法人 横浜こどものひろば

あそぶ・まねる・つくる・みるなどをテーマに、神奈川県認証の NPO 法人として横浜こどものひろばを設立。これまでに 440 回（法人化以前も含む）の舞台の創造的鑑賞体験の機会と、多くのあそびのひろば等々を開催しています。横浜こどものひろばは、子どもの日常と子どものための「あそび」「芸術文化体験」を結ぶことが、日本の子どもが育つ環境を考えた時に、子ども自身の大切な育ちの場となると考えています。そこでは、子ども自身が参加して創り出す「瑞々しい子ども時代」、「豊かな子どもの時間」を大人と一緒に生み出し、子どもにとって必要な子どもの文化が豊かになることを目的としています。参加者は0才～80代まで、様々な年令の異なる人たちで創ることも大切にしています。近年は、従来行なってきた4才以上のプログラム以前の時代、0才～3才までの子どもとその親たちの芸術文化体験による子育てひろばを毎月開催しています。

http://www.yokohama-kodomo.com

特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち

NPO 法人芸術家と子どもたちは、2001 年に設立された特定非営利活動法人です。多様な価値観・考え方・身体感覚を持つ人々が共生する社会を創出するため、子どもたちとアーティストとの出会いを通じて、創造的な学び・遊びの機会をつくりだす活動をしています。「ASIAS（エイジアス）」(Artist's Studio In A School の略)は、公立の小中学校、特別支援学級、幼稚園、保育園などにおいて、アーティストと先生が協力してワークショップ型の授業を実施する活動です。横浜市芸術文化教育プログラムでは、平成 19 年度より毎年いくつかの授業をコーディネートしています。他、地域コミュニティにて活動する「ACTION！(アクション)」などを展開しています。

http://www.children-art.net/

ART LAB OVA アートラボ・オーバ

『ART LAB OVA』は、制作経験の有無やしょうがいの有無、年齢、国籍に関係なく、アートを通じた交流ができる場をつくっている非営利のグループとして 1996 年から活動をしています。横浜唯一の独立系映画館「シネマ・ジャック＆ベティ」1 階の横浜パラダイス会館を拠点に、映画館やスナック、商店街、動物園、学校、福祉施設など、まちの狭間で「場」や「出来事」を通じて「関わり」を探るアートプロジェクトを展開しています。

http://artlabova.org

民族歌舞団　荒馬座

荒馬座は 1966 年に東京の板橋に生まれました。私たちの祖先が働く中からつくり出してきた民族芸能を舞台化し、首都圏を中心に公演活動をおこなっているほか、学校教育の中で、「日本の伝統文化」や「和楽器の学習」が重視されている近年、先生方の研修や模擬授業、学年や学級の子どもたちの体験学習など様々なプログラムに対応した出張講師活動もおこなっています。

自然や命をいとおしむ心、生きる知恵、協同の喜び、困難を乗り越える強さや明るさが込められた民族芸能を通して 「明日を生きる力」となるような舞台や、人と人とをつなげる文化活動を広げています。

http://www.araumaza.co.jp/

アートの時間

アートの時間は、戸塚区を拠点に音楽・演劇・美術・ダンスといった分野のアートイベントやアートプログラムの企画運営をやっています。大きなホールや劇場では味わえないアーティストの息遣いまで感じられるような場づくりを目指しています。

特に学校でのワークショップは、子どもたちが「日常」をより豊かに生きるために、アーティストの感性に触れるという「非日常」の体験を通して、『いつもと違う自分』の発見をしてもらえたらと思っています。

NPO 法人 Offsite Dance Project（オフサイト・ダンスプロジェクト）

NPO 法人 Offsite Dance Project は、アーティストの新たな挑戦の場、観客との新たな関係づくり、様々な分野や地域のパートナーシップ拡大を目指し、国内外の様々な場所で劇場外に特化した活動を展開している。2008 年の設立以後、毎年ダンス・コミュニティ・フォーラム「We dance」を主催する他、2010 年から国内外の都市空間を舞台に、日本と海外のアーティストが共同で創作・上演に取り組むダンスコラボレーションプロジェクトを開始。まちづくりやビジュアルアーツを振興する団体と連携したパフォーミングアーツの普及、教育機関における普及事業も行っている。

http://www.offsite-dance.jp

NPO 法人横浜シティオペラ

長年にわたって横浜市の音楽の発展に力を尽くし、また日本のオペラ界にも多大な貢献をした故・佐藤美子の跡を継ぎ、1983 年、横浜市教育委員会の指導のもとに、横浜市在住の音楽家 30 名によって、発足した。その後、市・県の助成を受け、青少年から大人までを対象としたオペラを上演する一方、オペラアリア、歌曲のコンサートを行っている。さらに平成 3 年より、オペラ・ガラ・コンサート、大ホールでのオペラ、中ホールでの室内オペラの3本による『神奈川オペラフェスティバル』を 21 年間連続で催している。地域の文化発展に貢献した功績により、1993 年に神奈川文化賞、1995 年に横浜文化賞を受賞。

http://www.cityopera.jp/

青葉区民文化センター
フィリアホール

フィリアホールは 1993 年にオープンしたクラシック音楽ホールです。内外で活躍する一流のアーティストの公演を年間約 30 回主催し、また、音楽愛好家・アマチュアの方々の音楽の練習や発表の場として数多く利用され、地域密着型のホールとして地元の皆様を中心に広くご愛顧いただいています。ファミリー・コンサートや2、3 才児向け音楽ワークショップ、オープンデー、楽器体験のほか、2007 年度からは青葉区・緑区の公立小学校への訪問コンサートを実施し、「音楽の喜び」の幅広い普及に日々努めています。

http://www.philiahall.com

泉区民文化センター
テアトルフォンテ

テアトルフォンテは 1993 年に開館した、演劇やダンスの上演に最も適した「ホール」を中心とする文化施設です。観る・演じる・創る――この3つの活動を通し、地域の交流、文化活動の活性化の発展に努めています。2008 年度から、泉区に伝わる昔話や地域を題材にしたオリジナルミュージカルを上演しています。(出演は一般公募の区民)。
また、こども向けの演劇ワークショップや、暮らしの中の創作講座、地域のアーティストを招いての事業など、芸術鑑賞の場を提供するだけでなく、地域に根ざした文化活動の発展にも力を入れています。http://www.theatre-fonte.com

栄区民文化センター
リリス

1998 年にオープンしたリリスは、県内屈指の響きを誇るコンサートホールを中心とした文化センターです。内外の一流アーティストを招いてのコンサートや、若手アーティスト支援を目的とした「リリス・レジデンス・アーティスト」事業など、クラシック音楽に力を入れた事業を展開しています。また、2007 年度より継続して実施しているアウトリーチコンサートや、0 歳から楽しめるファミリーコンサート、気軽に参加できるリリス de 講座や子ども向け造形美術ワークショップ「コドモアートキャラバン」など区民の皆さまが文化芸術に触れ合う多様な機会を提供し、地域の文化発展に貢献できるよう努めています。

http://www.lilis.jp

神奈川区民文化センター
かなっくホール

2004 年オープン、今年で開館 8 年目を迎えるかなっくホールは、「集い、ふれあい、つくりだすこころを、ここかなっくホールから」をキーワードに、区民のみなさまへの上質の芸術鑑賞機会のご提供にとどまらず、地域の中に芸術文化の担い手を増やす働きかけにも積極的に取り組んでいます。地元の若手アーティスト支援事業「From かなっく」や、区民のみなさまにイベント制作の様々なスキルを身につけていただく「アートマネジメント講座」、また区民が自らかなっくホールの自主事業を企画・制作・運営する「区民プロデュース企画」や、地元アーティストや講座受講者によるアウトリーチ活動など、区民が日常生活の中でアートに触れ合い、自らの手で芸術文化を発信するための拠点として区民文化センターを活用する、“区民がつくる文化のかたち”をめざした事業展開を行っています。

http://kanack-hall.jp/

NPO 法人アートプラットフォーム
急な坂スタジオ

急な坂スタジオは、舞台芸術(現代演劇・ダンスなど)の創造拠点として、2006 年 10 月にオープンした横浜市による公設民営の文化施設です。元結婚式場の旧老松会館を転用し、大小5つのスタジオ、市民向けのコミュニティ・ルームなどを備えた稽古場として、地域とアーティストの交流の場を生み出しています。また、横浜を基点とした創造・発表のあり方を模索しながら、次世代の舞台芸術を担う人材も育成・集積し、横浜から世界へと羽ばたくバックアップを図っています。

http://kyunasaka.jp/

株式会社シグマコミュニケーションズ
／久良岐能舞台

横浜市磯子区の自然豊かな場所に位置する久良岐能舞台では、能楽をはじめとする古典芸能の稽古や発表会、茶室でのお茶会など市民に開かれた能舞台として利用されています。四季折々の草花が楽しめる庭園では散策も楽しめます。株式会社シグマコミュニケーションズでは劇場管理・ホール運営事業を進め、平成18年9月より久良岐能舞台の指定管理者として運営・管理を横浜市より委託されています。一年間に自主事業を10公演開催し、10月には近隣地区小学校を無料招待する小学校向け狂言鑑賞教室も開催しています。

http://www.kuraki-noh.jp/

鶴見区民文化センター
サルビアホール

2011 年 3 月に開館した横浜市鶴見区にある文化施設。通常時 548 名を収容し、音楽・演劇・ダンスなど用途に合わせて使用できる多目的ホールの他に、100 名を収容する残響豊かな音楽ホール、自由自在に芸術作品を展示できるギャラリー、リハーサル室、練習室を兼ね備えています。貸館業務・自主文化事業を行うほか、地域の文化振興と鶴見の文化拠点として、近隣学校等においても多角的な活動を目指しています。
昨年 11 月からは当館レジデントアーティストを起用した公演を行い、音楽系アウトリーチ教育プログラムにおける多彩な協力が期待できるものと思います。また中国の書のワークショップを運営する団体とも繋がりをもち、昨年とはまた一味違ったプログラムを提供することが可能です。

http://salvia-hall.jp/

旭区民文化センター
サンハート

横浜市旭区民文化センター「サンハート」は、相鉄線「二俣川駅」直結の二俣川ライフ 5F にあり、交通アクセス良好な旭区民や近隣の地域の方々のための文化センターです。多目的にご使用いただける「ホール」、アコースティック音楽の公演に最適な「音楽ホール」の他、「アートギャラリー」では美術・工芸作品の展示の場として、そして、「ミーティングルーム」や各種練習室等を兼ね備えています。～人を愛するサンハート、人から愛されるサンハート～をコンセプトに、各施設の貸し出しだけではなく、旭区民の文化芸術を通じた「喜びづくり」、旭区の「地域活性化」「地域価値向上」を目指します。多彩な自主事業を展開し、芸術文化を通して、旭区からパワーを発信しています。

http://www.sunheart.info/

磯子区民文化センター
杉田劇場

磯子区民文化センター・杉田劇場は、ホール、ギャラリー、リハーサル室、練習室、会議室を備えた地域のための文化施設です。地域の文化的な拠点として、様々なジャンルの催し物に幅広くご利用いただけるほか、開館以来「区民協働」を目標に掲げ、地域との連携や区民参加の事業など、地域とつながる活動を積極的に展開しています。

http://www.sugigeki.jp

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
横浜市吉野町市民プラザ

吉野町市民プラザは、南区に平成元年 7 月 15 日に開館した文化施設です。ホール、ギャラリー、会議室、スタジオを備え、鑑賞・発表・練習の場として、開館以来、多くの方にご利用いただいております。地域の拠点施設としての役割を活かし、区民の芸術文化を通じた地域の発展と活性化を目指しています。施設での芸術鑑賞・体験型事業のみならず、地域文化団体や学校との連携・サポートを図り、地域に根ざした活動を行っています。

http://www.yaf.or.jp/yoshino/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
横浜市民ギャラリー

開館以来 40 年以上にわたって、市民の美術活動の発表の場として貸館事業を運営するほか、横浜ゆかりの作家の作品の収集・保存、今日の多様な表現を紹介する企画展やコレクション展、夏恒例の「横浜市こどもの美術展」、子ども向けの造形講座「ハマキッズ・アートクラブ」、絵画教室などの自主事業を行ってきました。また、市内のギャラリー、美術施設の基本情報を網羅した『ヨコハマ・ギャラリー・マップ』や情報誌『アートヨコハマ』を発行するなど、市民の創作・発表活動を支援する身近なギャラリーとして親しまれています。

http://www.yaf.or.jp/ycag/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
横浜市民ギャラリーあざみ野

横浜市民ギャラリーあざみ野は、美術・工芸を基本としつつ、ジャンルを超えた「創造性溢れる表現活動」を幅広く育み、創造性を介して人と人とが交流することのできる、市民と創造活動の出会いの場をつくることを目的としています。

http://artazamino.jp/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
横浜美術館

1989 年開館の横浜美術館は、見る、創る、学ぶ、を掲げ開館以来鑑賞と共に、制作プロセスを通した美術館普及に力を入れてきました。今回の学校訪問のプログラムでは、横浜美術館の事を知ってもらい、美術に興味を持ち親しんでいくことのきっかけとし、生徒さんの美術館を訪れての創作や鑑賞につながればと考えています。

http://www.yaf.or.jp/

横浜にぎわい座

横浜にぎわい座は、落語、漫才、大道芸など、大衆芸能の専門館として生まれました。 かつて寄席や芝居小屋が立ち並び、連日華やいだ横浜の町。伝統を今に受け継ぎ、芸能を味わっていただく場、そして新しい芸能を生み出す場として、横浜

にぎわい座は歩んできました。芸能ホール（391席）は、やぐらをイメージした舞台廻りや桟敷席、仮設花道など大衆芸能の雰囲気を演出した空間で、毎月 1 日～15 日は落語、漫才、マジック、民謡など様々な主催公演を開催しています。また、その他に、小ホール・練習室・制作室を備え、各種の練習や創作活動にご利用いただけます。施設の管理・運営は、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が行っています。
http://www.yaf.or.jp/nigiwaiza/

横浜赤レンガ倉庫１号館

横浜赤レンガ倉庫は、明治政府によって当時の最新設備を備えた模範倉庫として 1911 年に創建され、2011 年に創建 100 周年を迎えた歴史的建造物です。2002 年に「港の賑わいと文化を創造する空間」をコンセプトにリニューアル・オープンしました。2010 年には文化遺産の保全・修復や活用事業の成果に対し、日本で初めて「ユネスコ アジア太平洋遺産賞」を受賞しています。また 3 万株もの花が中庭を彩る『フラワーガーデン』や冬の風物詩『アートリンク』など、常にイベントを通して横浜を代表する人気スポットとして年間 500 万人以上の来館者を迎えています。文化施設である 1 号館は、コンテンポラリーダンスと現代アートを中心に、国際的なダンス振付のコンペティションやダンス公演など世界へ発信される事業を推進しています。
http://www.yokohama-akarenga.jp/

横浜みなとみらいホール

横浜みなとみらいホールは、横浜の新都心「みなとみらい21地区」にあります。横浜港に向かって開け、若い街ならではの活気に満ちた明るいエリアです。1998 年 2 月に小ホールが稼動を開始し、同年 5 月には大ホールも合わせてグランドオープンとなりました。以来、年間 600 回を超える演奏会の場として、横浜市民はもちろんのこと、国内海外のアーティストからも横浜を代表するホールとして親しまれています。
http://www.yaf.or.jp/mmh

神奈川県立音楽堂

神奈川県立音楽堂は、1954 年、公立施設としては日本で初めての本格的な音楽専用ホールとして開館しました。ロンドンのロイヤルフェスティバルホールをモデルに、最高の音響効果をあげるように設計されたホールは、開館当時『東洋一の響き』と絶賛され、その響きは今も国内はもちろん海外からも高い評価を受けています。ホールの壁面はすべて「木」で作られており、そのアコースティックな響きは 50 年を経た今でも人々に感動をあたえつづけています。
http://www.kanagawa-ongakudo.com/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ

（財）横浜市芸術文化振興財団は美術、音楽、演劇等の芸術文化活動を総合的に振興し、開港以来培われてきた豊かな文化的伝統の維持と、横浜市独自の芸術文化の巣新を図り、もってゆとりと生きがいに満ちた市民生活の実現と国際文化都市・横浜の進展に寄与する目的で平成14年度に設立されました。平成16年度以来「芸術文化教育プログラム」を横浜市、市教育委員会、STスポット横浜とともに協働事業として市内の小・中・特別支援学校において実施しています。協働推進グループも「芸術文化教育プログラム」を市内学校においてコーディネーターとして参画し、アーティストを講師として派遣し、美術、伝統芸能等の授業を実施しました。
http://www.yaf.or.jp/ycc/

NPO 法人 ST スポット横浜

STスポット横浜は地域の芸術文化機関として、昭和 62 年に発足しました。小劇場「STスポット」を拠点に、現在国内で活躍する多数の地元アーティストを輩出するなど、創造環境全体の向上に努めてきました。平成 16～20 年度には「アートを活用した新しい教育活動の構築事業」を神奈川県、県教委との協働事業として実施し、県内の幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校等にアーティストを講師として派遣し、演劇やダンス、現代美術等の授業を行いました。平成 20 年度からは「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」の事務局を担当し、学校教育とアートの現場をつなぐ事業を推進しています。
http://stspot.jp/

横浜市芸術文化教育プログラム推進事業
横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム　平成 24 年度事業報告書

発行：横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
（ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局）

作成：ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜　　公開開始：平成 25 年 6 月 19 日

《お問い合わせ先》〒220-0004　神奈川県横浜市西区北幸 1-11-15　横浜ＳＴビル 208
ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜　アート教育事業部　内　横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
電話・ファックス：045-325-0414　メール：toiawase@y-platform.org